

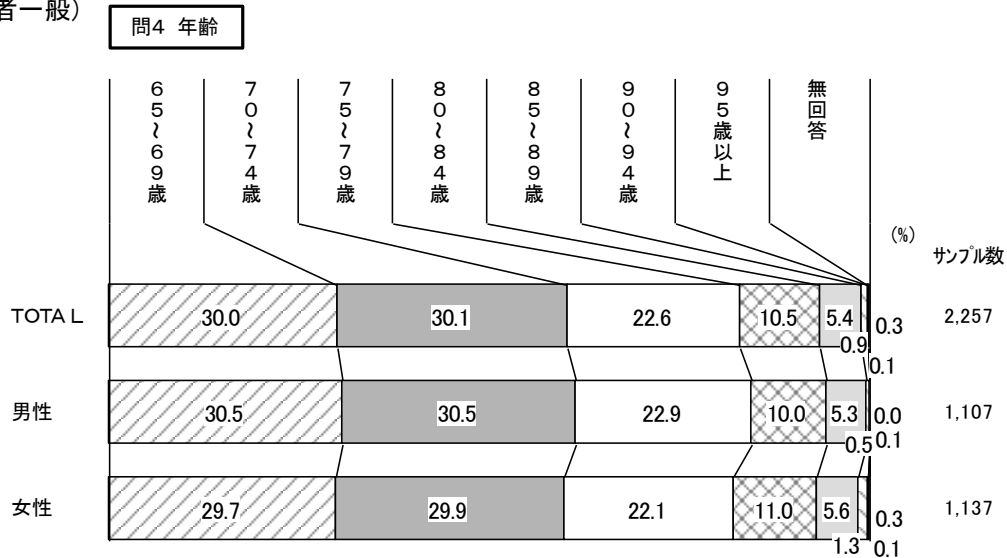
II 調査結果の概要 市民向け調査

1 回答者の属性について

(1) 年齢構成

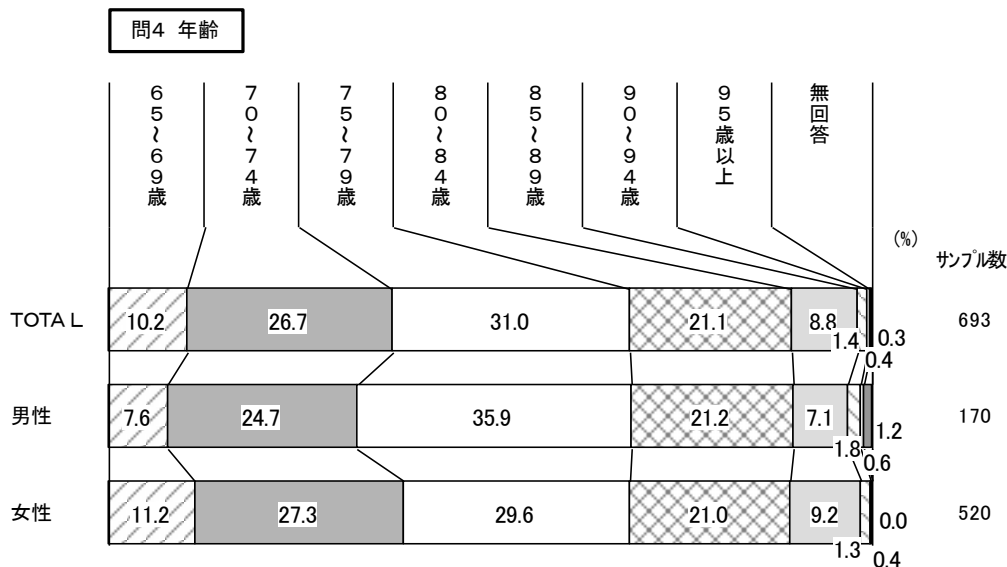
回答者の年齢構成をみると、後期高齢者（75歳以上）の占める割合は、要支援で89.5%と最も多く、次いで特養申込者84.7%、要介護83.8%、未利用82.8%となっている。一方、介護予防参加者（以下、「予防」と称する。）では62.7%、高齢者一般では39.5%と、調査対象により年齢構成の違いがみられる。

(高齢者一般)



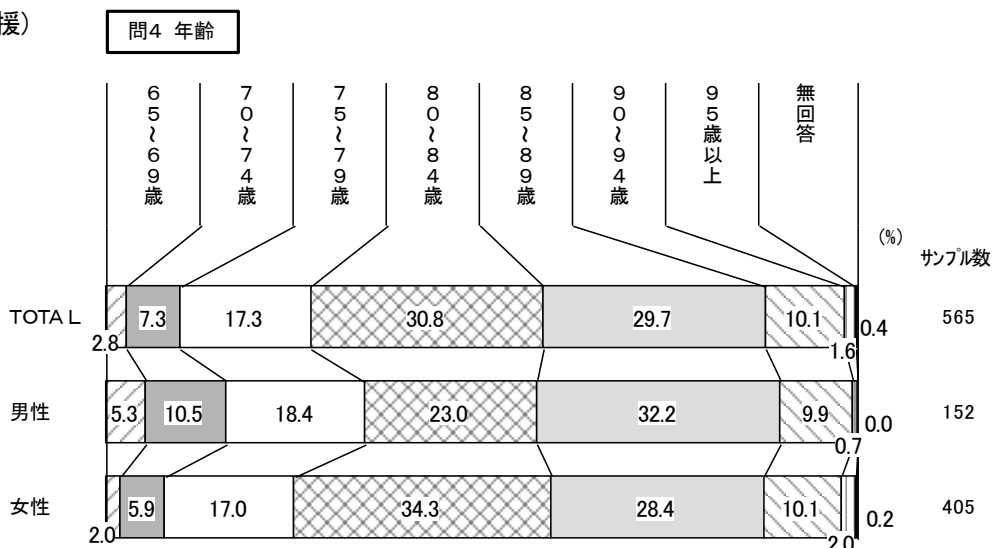
(性別無回答 n=13 を除く)

(予防)



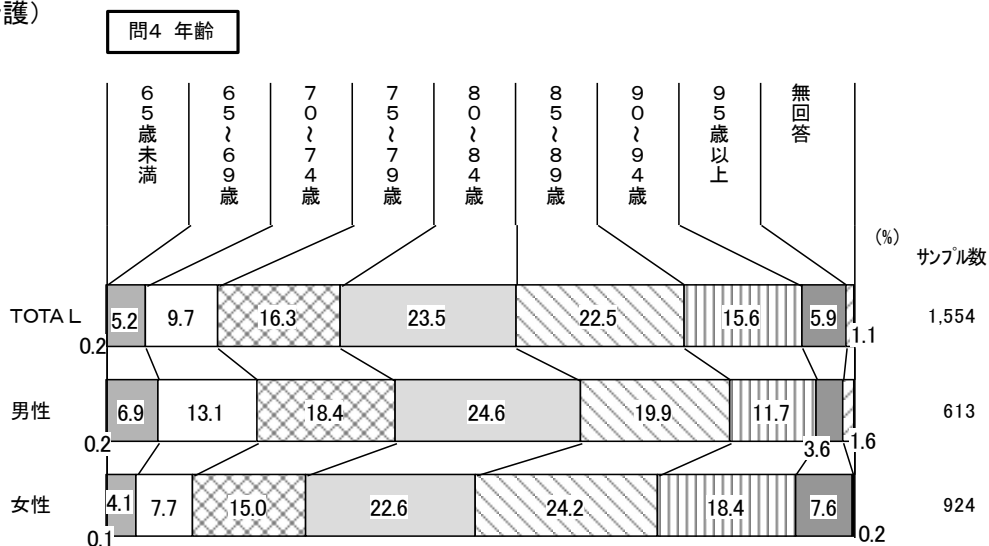
(性別無回答 n=3 を除く)

(要支援)



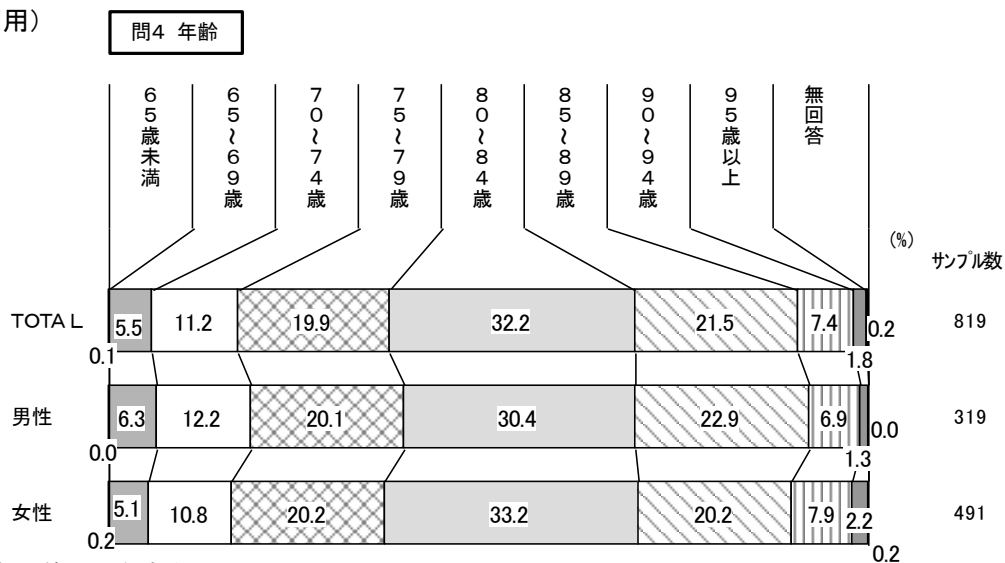
(性別無回答 n=8 を除く)

(要介護)



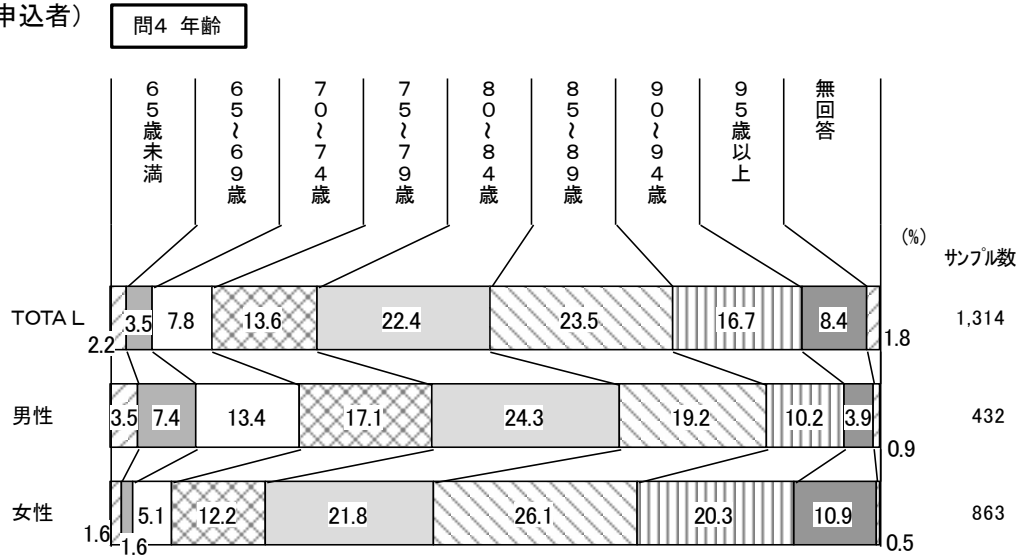
(性別無回答 n=17 を除く)

(未利用)



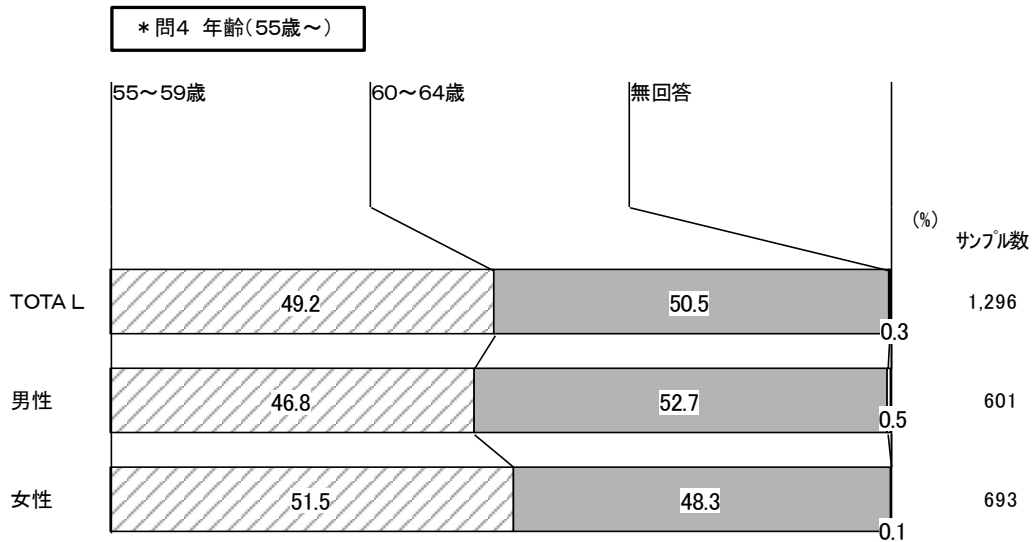
(性別無回答 n=9 を除く)

(特養申込者)



(性別無回答 n=19 を除く)

(一般 55歳~64歳)



(性別無回答 n=2 を除く)

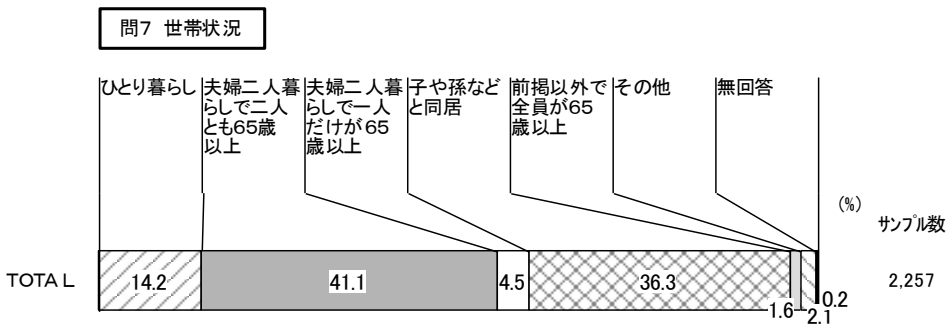
(2) 世帯構成

世帯構成をみると、いずれの対象者でも、前回と今回とでは世帯構成の大きな変化はみられない。

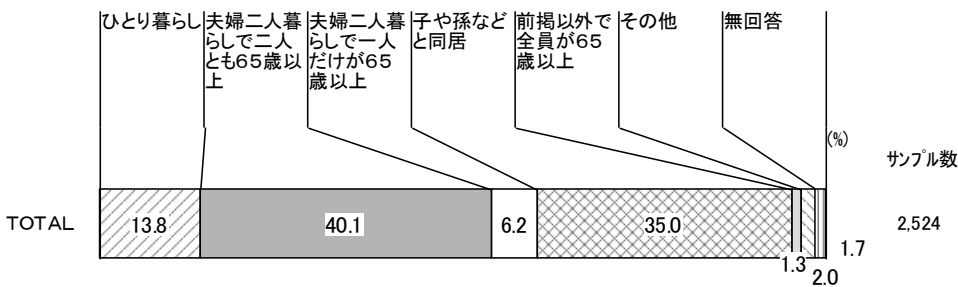
「ひとり暮らし」「夫婦二人暮らし（一人だけ65歳以上を含む）」の割合をみると、要支援が71.0%と最も多く、次いで予防が60.0%、高齢者一般が59.8%となっている。

一方、要介護、特養申込者では、「子や孫などと同居」の割合が、要介護48.7%、特養申込者43.0%となっている。

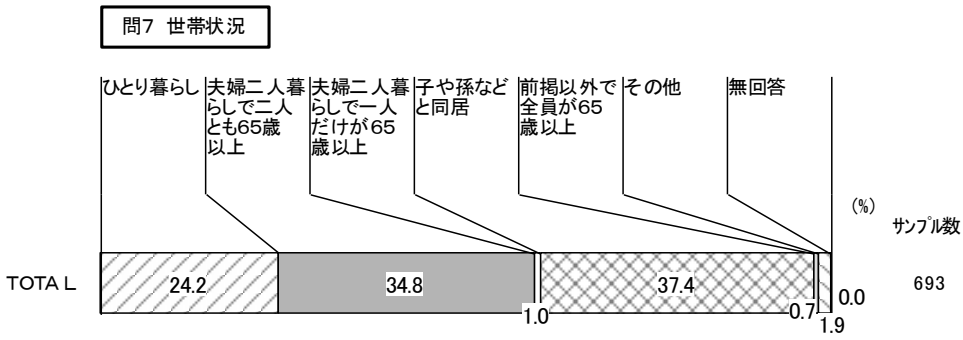
(高齢者一般)



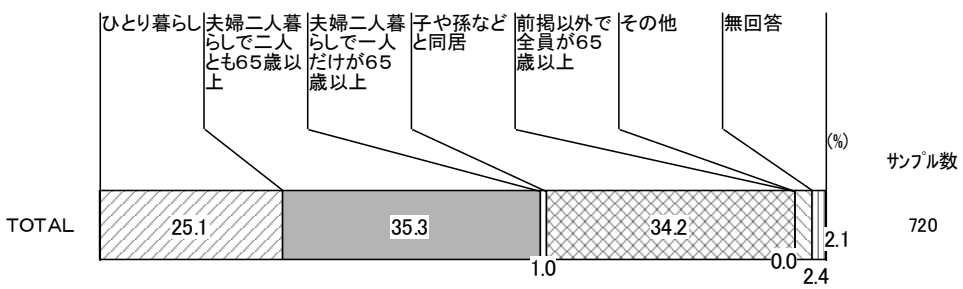
(高齢者一般：前回)



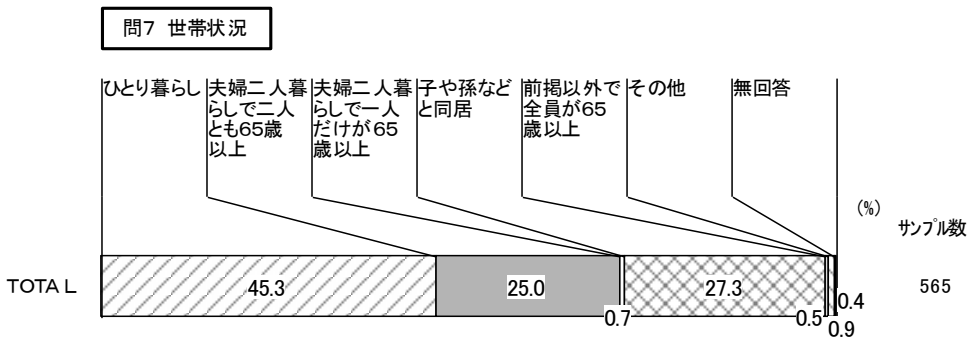
(予防)



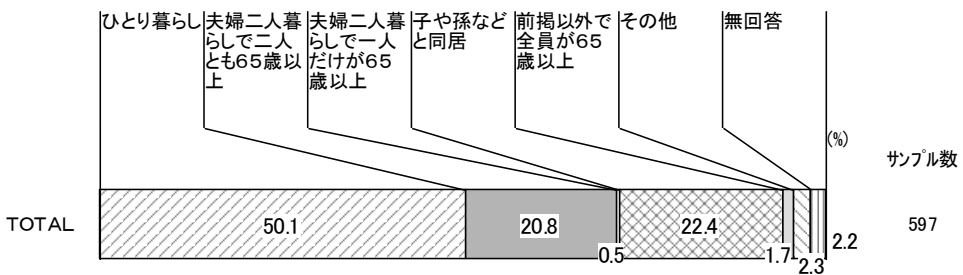
(予防：前回)



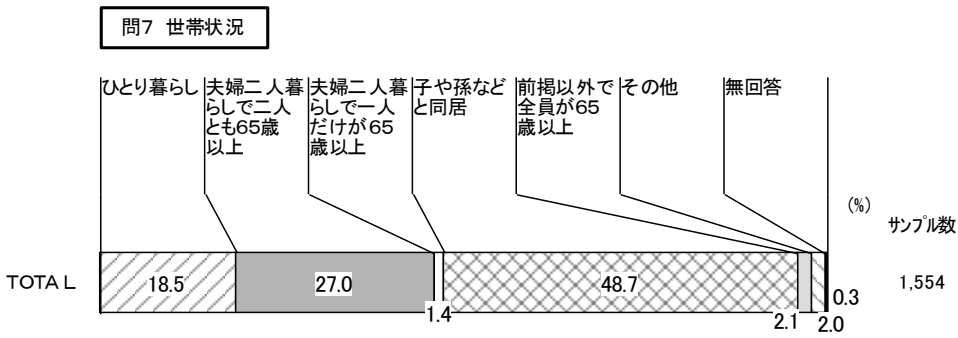
(要支援)



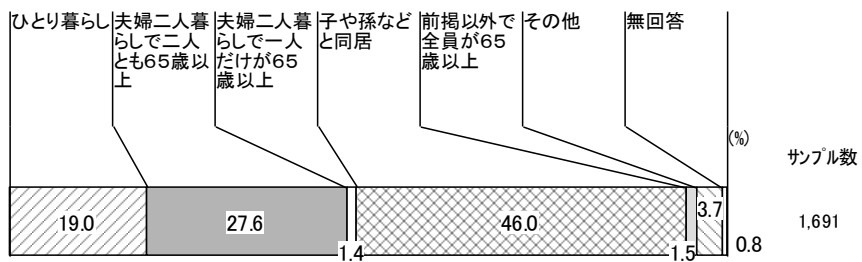
(要支援：前回)



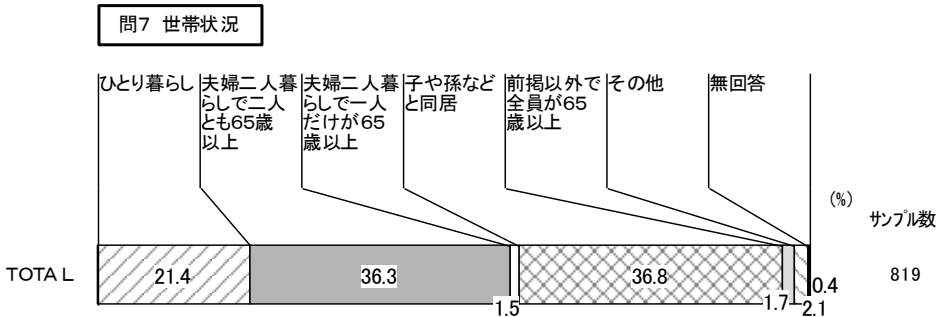
(要介護)



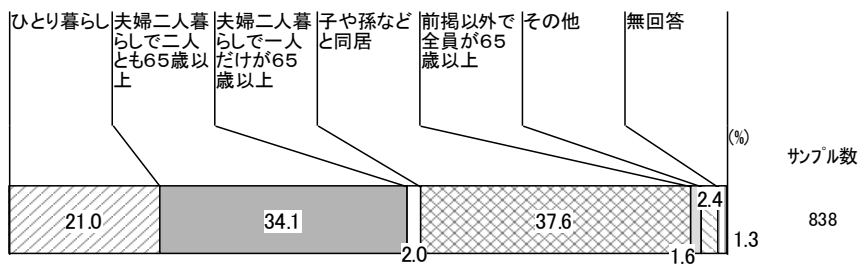
(要介護：前回)



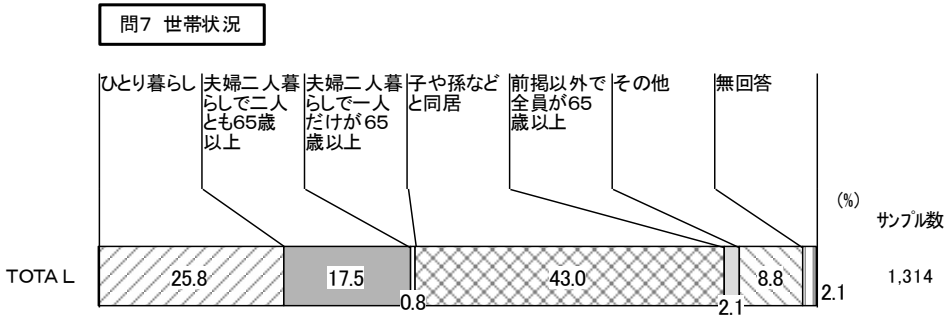
(未利用)



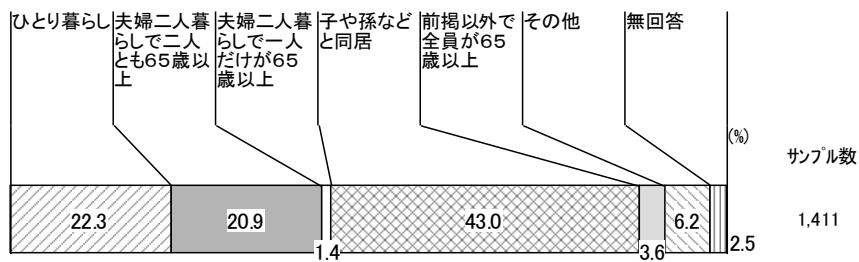
(未利用：前回)



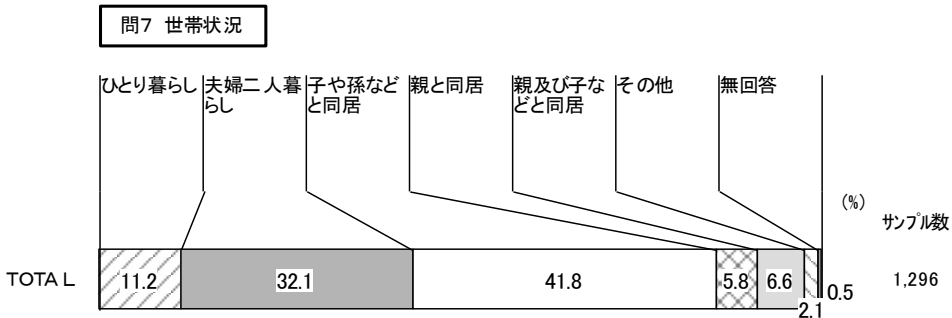
(特養申込者)



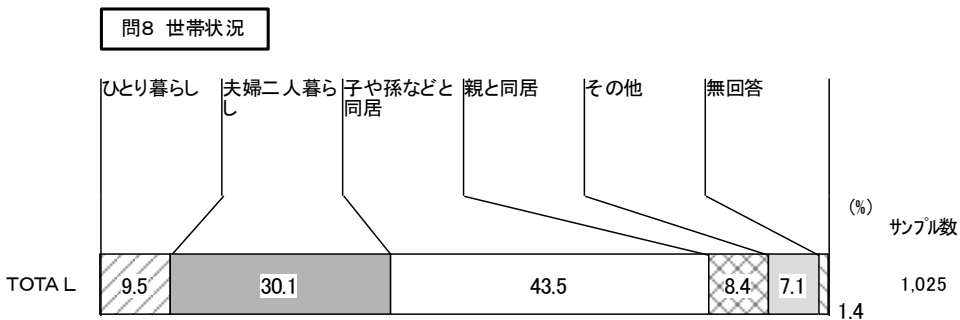
(特養申込者：前回)



(一般 55歳～64歳)



(一般 55歳～64歳：前回)



(3) 対象者の所在（居住区）

今回の調査に回答した対象者の所在（居住区）をみると、高齢者一般では戸塚区が8.5%で最も多く、予防は金沢区15.3%、要支援は旭区と神奈川区が8.7%、要介護は港北区7.7%、未利用は鶴見区8.5%、特養申込者は南区9.0%、一般（55～64歳）は港北区8.2%となっている。

（上段：回答者数 人 下段：構成比 %）

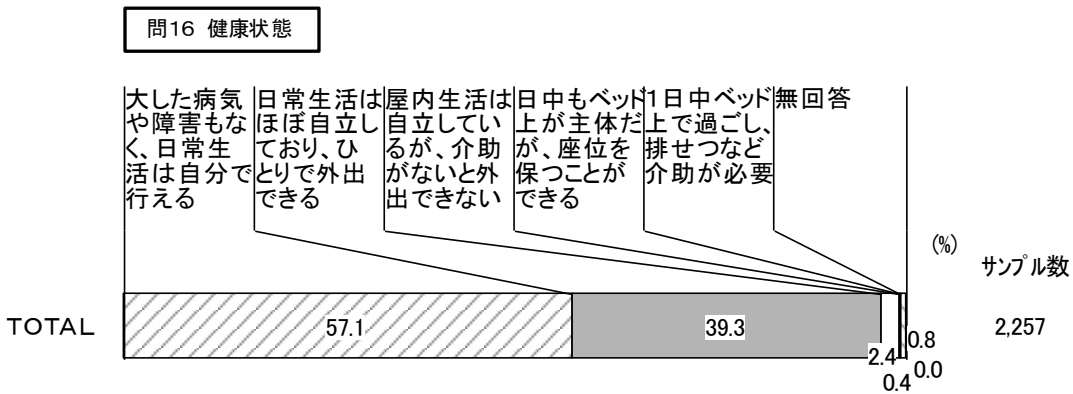
	TOTAL	青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
高齢者 一般	2,257 100.0	163 7.2	184 8.2	109 4.8	118 5.2	134 5.9	151 6.7	172 7.6	151 6.7	109 4.8	84 3.7
予防	693 100.0	85 12.3	36 5.2	3 0.4	46 6.6	35 5.1	106 15.3	33 4.8	33 4.8	50 7.2	58 8.4
要支援	565 100.0	45 8.0	49 8.7	19 3.4	32 5.7	49 8.7	33 5.8	34 6.0	45 8.0	23 4.1	21 3.7
要介護	1,554 100.0	78 5.0	118 7.6	60 3.9	84 5.4	90 5.8	102 6.6	116 7.5	119 7.7	60 3.9	52 3.3
未利用	819 100.0	45 5.5	58 7.1	40 4.9	36 4.4	62 7.6	63 7.7	64 7.8	55 6.7	32 3.9	13 1.6
特養 申込者	1,314 100.0	53 4.0	88 6.7	56 4.3	75 5.7	81 6.2	104 7.9	95 7.2	92 7.0	61 4.6	43 3.3
一般 55～64歳	1,296 100.0	130 10.0	96 7.4	52 4.0	54 4.2	89 6.9	85 6.6	76 5.9	106 8.2	45 3.5	39 3.0

	TOTAL	都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	無回答
高齢者 一般	2,257 100.0	73 3.2	135 6.0	191 8.5	61 2.7	47 2.1	132 5.8	117 5.2	125 5.5	1 0.0
介護予防	693 100.0	47 6.8	29 4.2	24 3.5	22 3.2	20 2.9	17 2.5	28 4.0	21 3.0	0 0.0
要支援	565 100.0	20 3.5	33 5.8	32 5.7	26 4.6	10 1.8	34 6.0	26 4.6	34 6.0	0 0.0
要介護	1,554 100.0	53 3.4	109 7.0	117 7.5	65 4.2	39 2.5	102 6.6	73 4.7	111 7.1	6 0.4
未利用	819 100.0	27 3.3	70 8.5	51 6.2	40 4.9	26 3.2	42 5.1	38 4.6	55 6.7	2 0.2
特養 申込者	1,314 100.0	36 2.7	89 6.8	110 8.4	55 4.2	26 2.0	65 4.9	47 3.6	118 9.0	20 1.5
一般 55～64歳	1,296 100.0	63 4.9	92 7.1	103 7.9	49 3.8	29 2.2	68 5.2	56 4.3	62 4.8	2 0.2

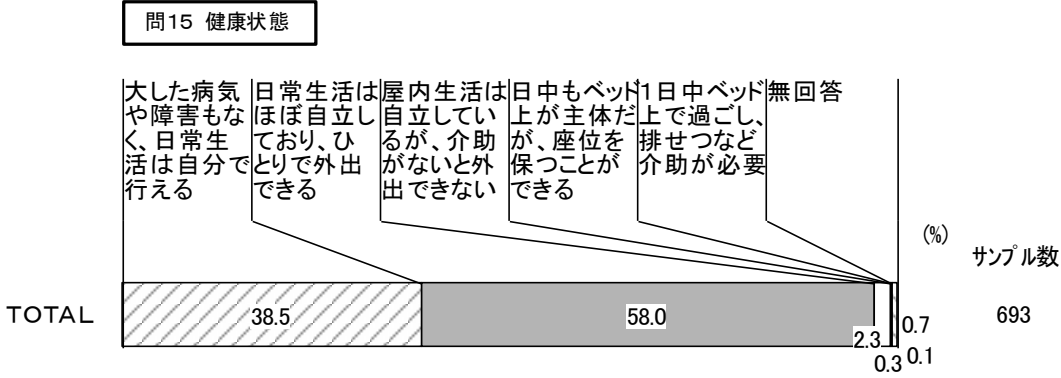
(4) 健康状態、要介護度

対象者の健康状態、介護度をみると、予防の約6割(58.0%)は「日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる」となっている。要支援では、5割(56.1%)が要支援2となっている。要介護では、要介護1・2のいわゆる軽度が55.7%、要介護3～5の中・重度が37.4%となっている。一方、特養申込者では、軽度が27.8%に対し、要介護3～5の中・重度が69.2%となっている。また、未利用では約半数(49.8%)が要支援1・2、要介護1～5は34.9%となっている。

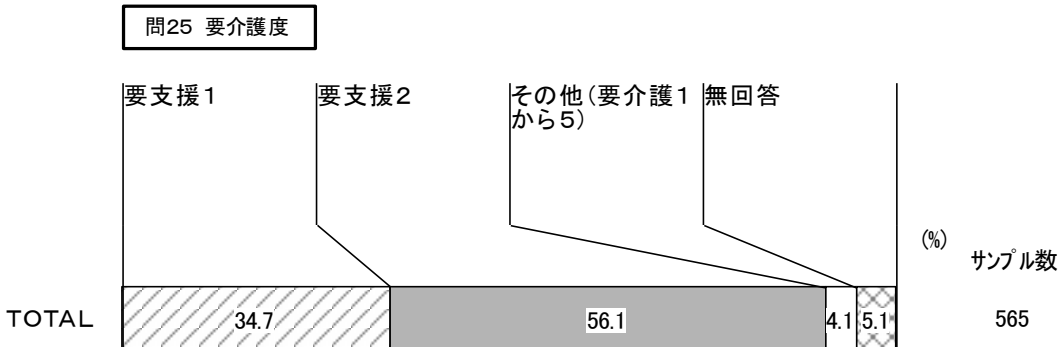
(高齢者一般)



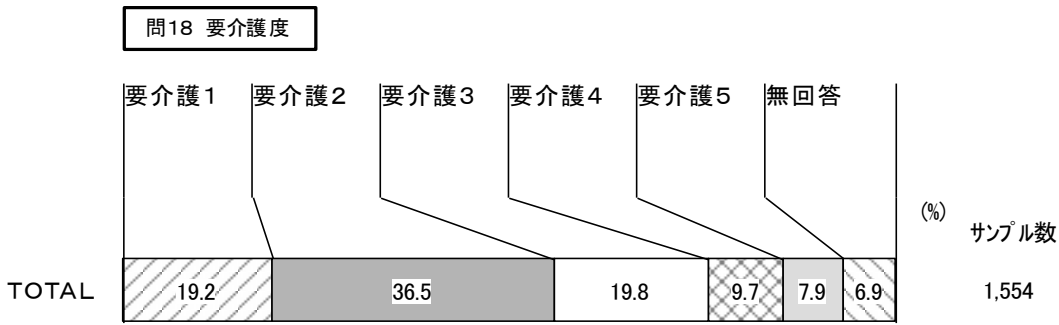
(予防)



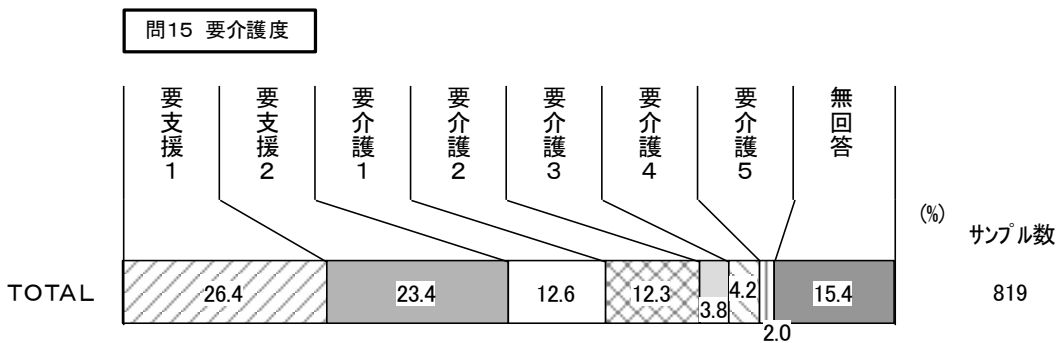
(要支援)



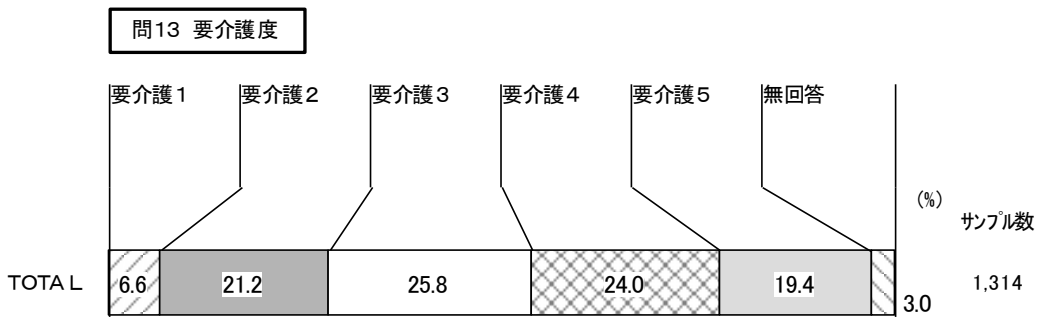
(要介護)



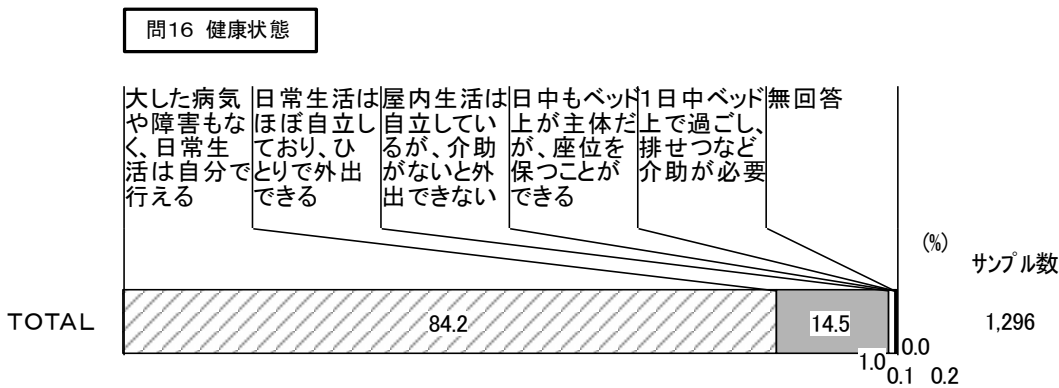
(未利用)



(特養申込者)



(一般 55歳~64歳)

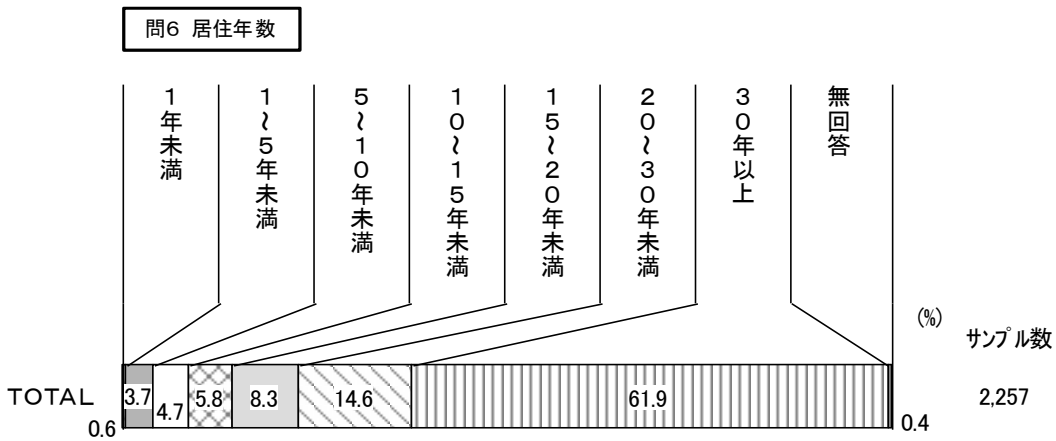


2 地域生活と住まい

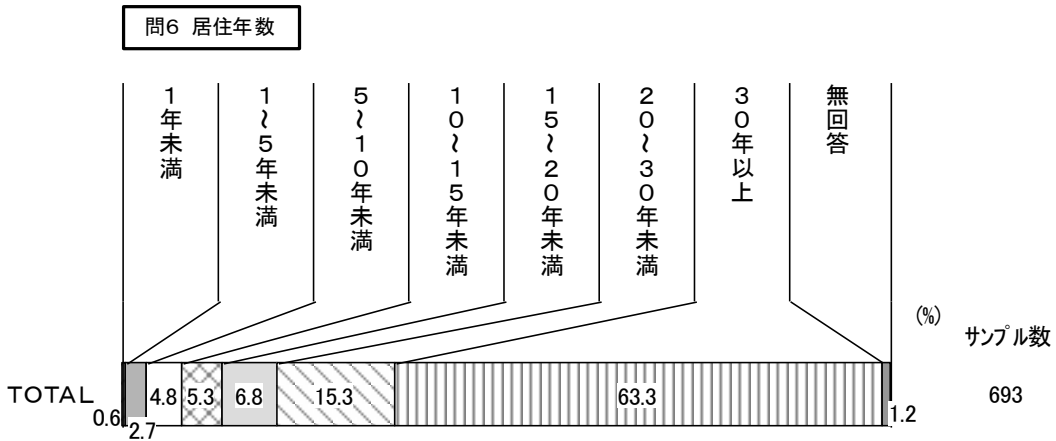
(1) 区内居住年数

区内居住年数をみると、一般（55～64歳）を除き、いずれの対象者でも「30年以上」の割合が6割前後と高く、未利用65.8%、予防63.3%、要介護62.0%、高齢者一般61.9%の順となっている。

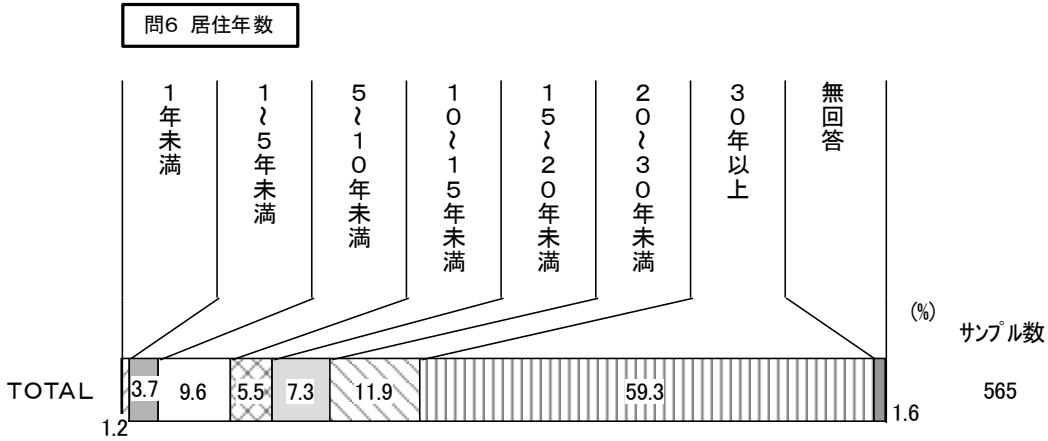
(高齢者一般)



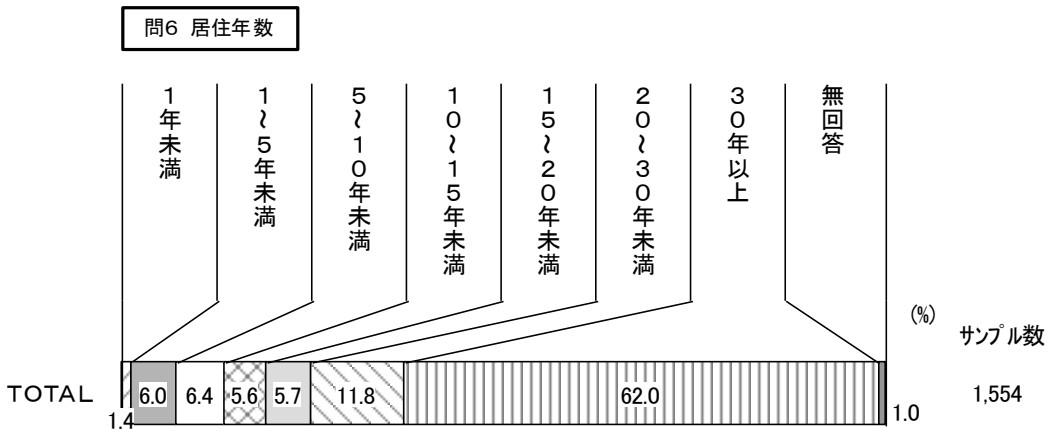
(予防)



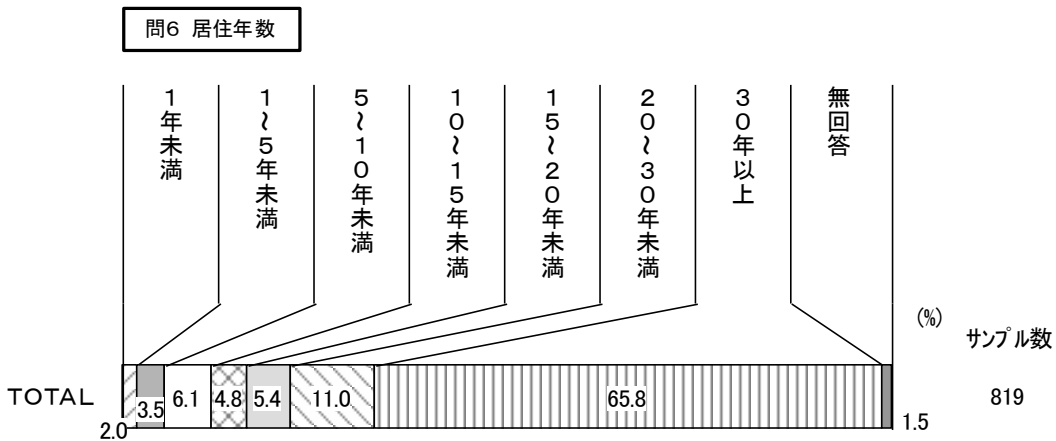
(要支援)



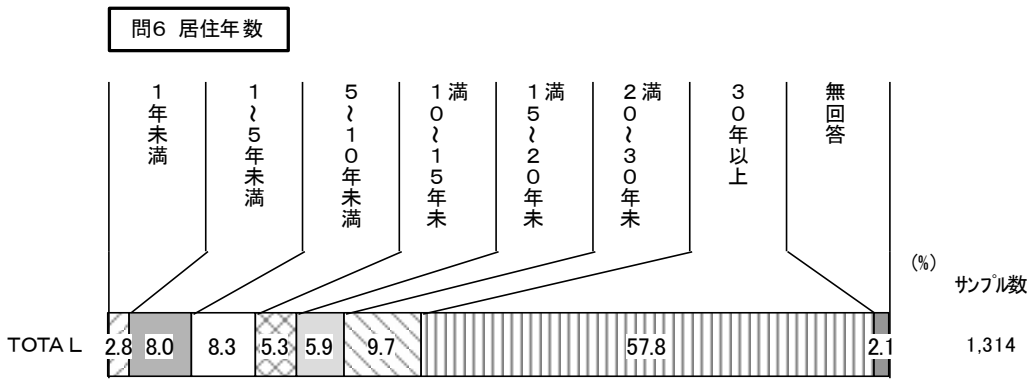
(要介護)



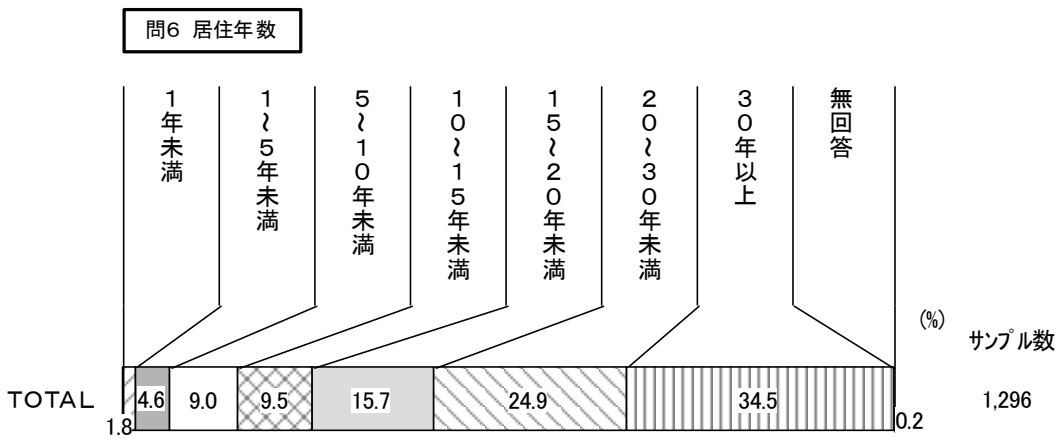
(未利用)



(特養申込者)



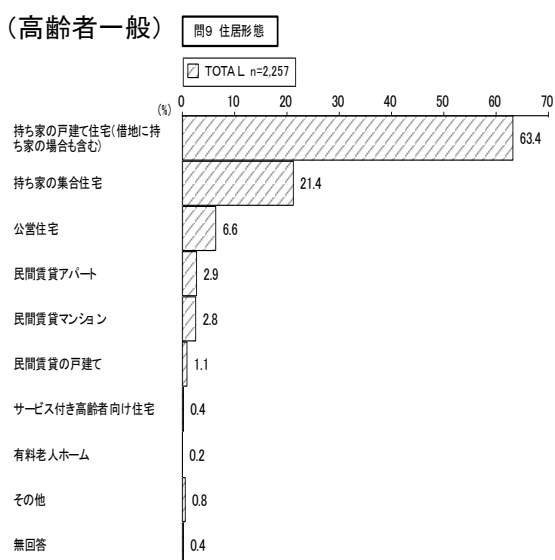
(一般 55歳～64歳)



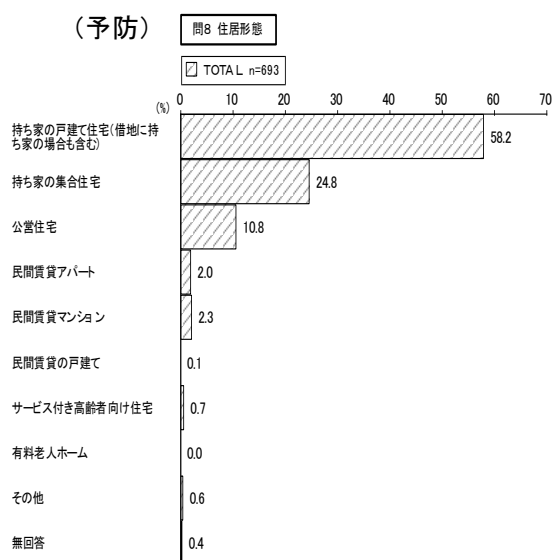
(2) 住居形態

住居の形態をみると、いずれの対象者でも「持ち家の戸建て住宅（借地に持ち家の場合も含む）」の居住割合が最も多く、未利用が67.0%、要介護65.9%、高齢者一般が63.4%の順となっている。次いで「持ち家の集合住宅（分譲マンション等）」は予防が24.8%、高齢者一般で21.4%と2割を超えている。なお、一般（55～64歳）における「持ち家の集合住宅」の居住割合は31.9%と3割を超えている。また、「公営住宅」の居住割合は要支援12.2%、予防10.8%と1割みられる。

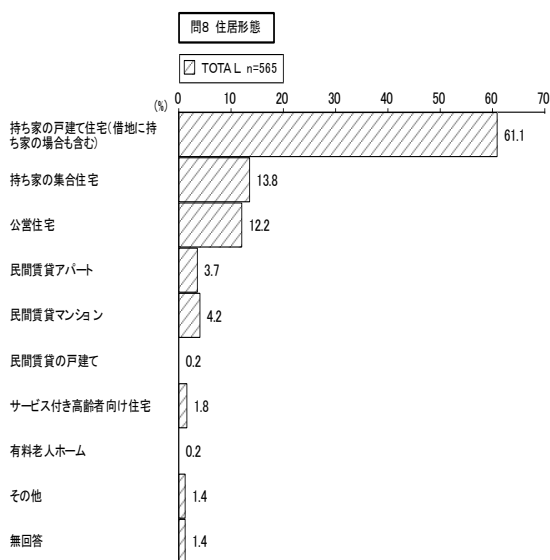
(高齢者一般)



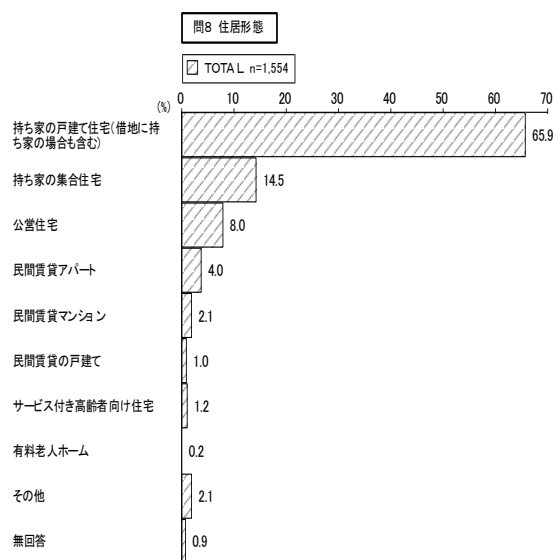
(予防)



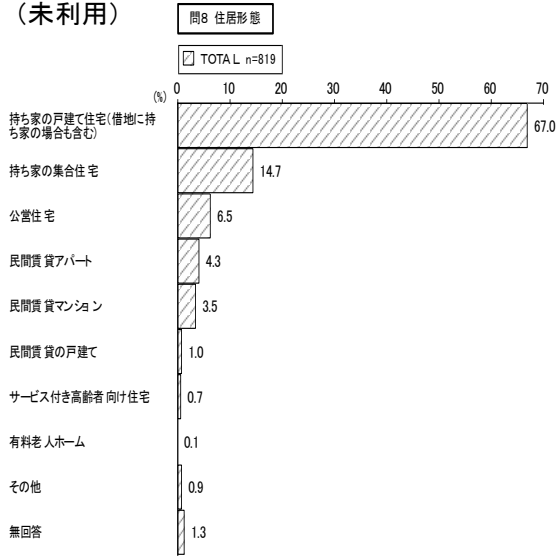
(要支援)



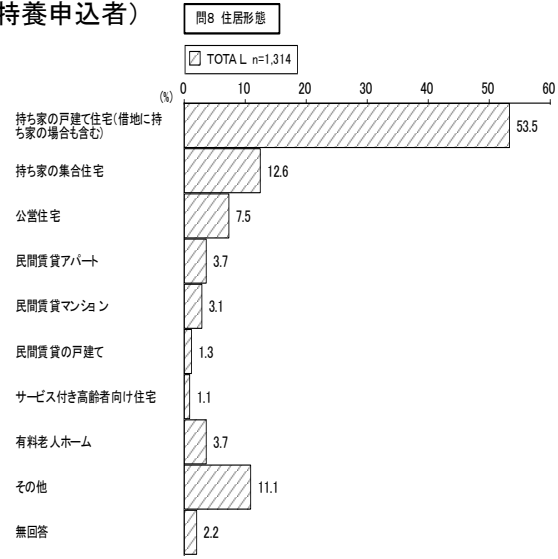
(要介護)



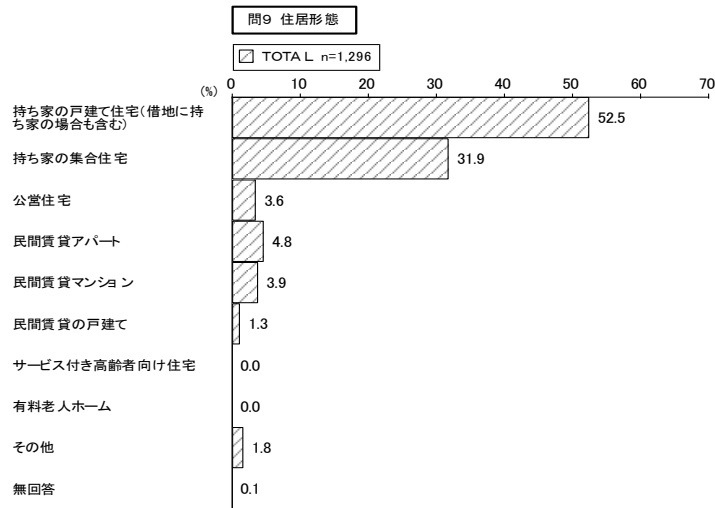
(未利用)



(特養申込者)



(一般 55歳～64歳)

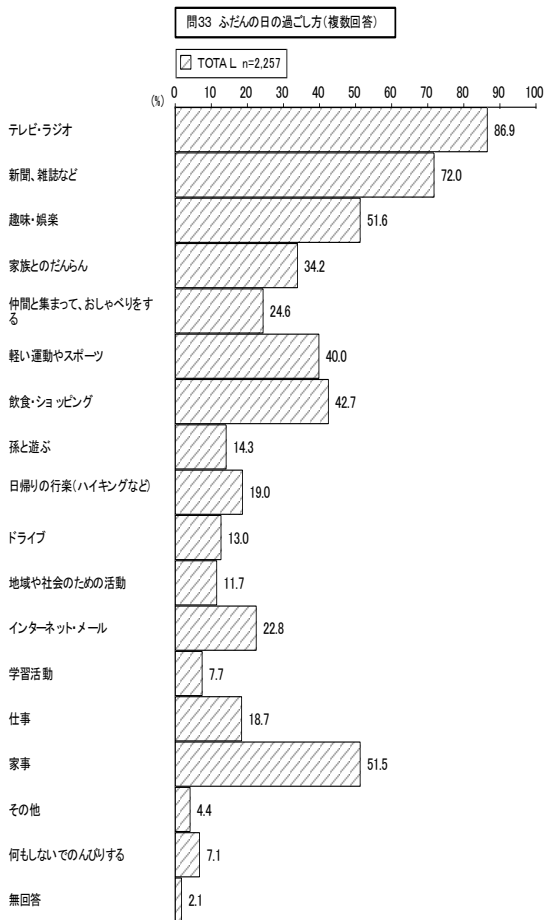


(3) ふだんの過ごし方

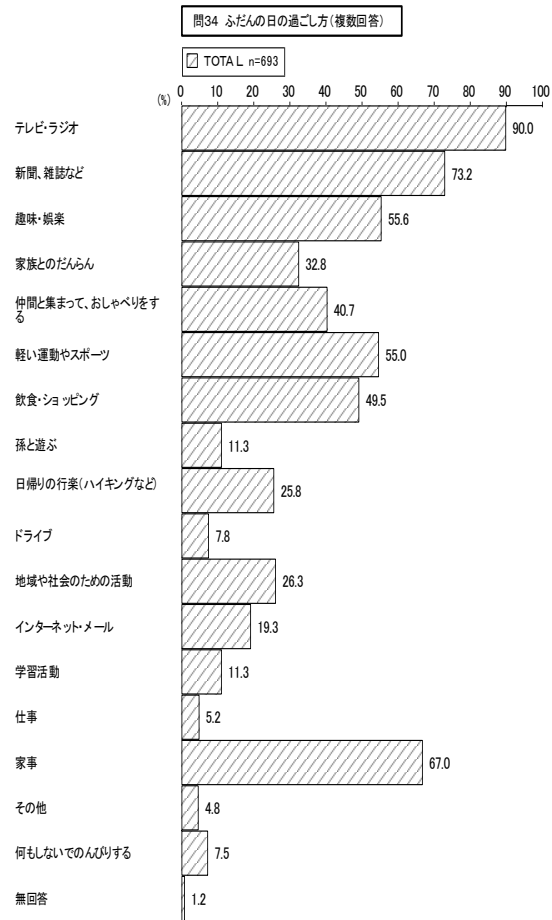
ふだんの過ごし方をみると、対象者の約8～9割は「テレビ・ラジオ」となっており、予防の90.0%、高齢者一般の86.9%となっている。次いで「新聞・雑誌など」は予防、高齢者一般でそれぞれ7割（予防73.2%、高齢者一般72.0%）となっている。

また、予防では、「家事」が67.0%のほか、「軽い運動やスポーツ」「飲食・ショッピング」「仲間と集まっておしゃべりをする」がそれぞれ5割前後みられるなど、日常生活の活動が比較的活発である。

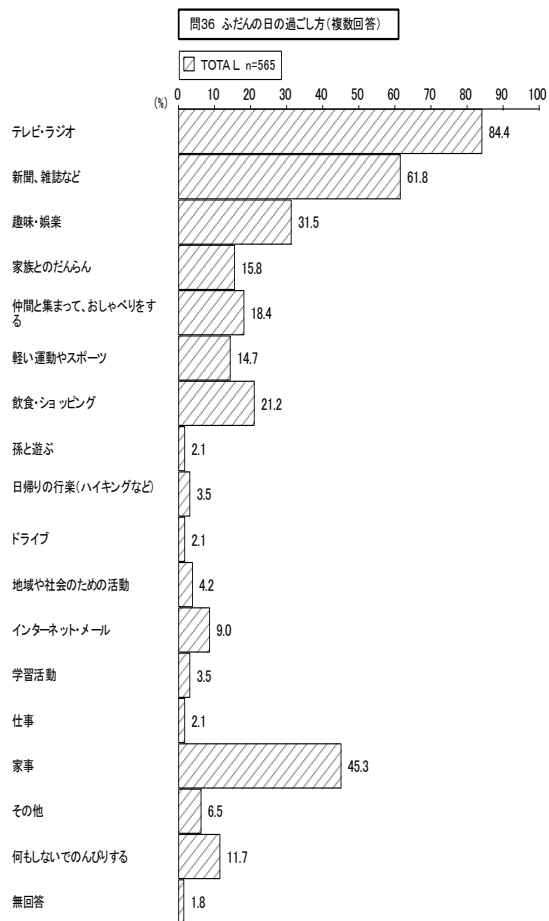
(高齢者一般)



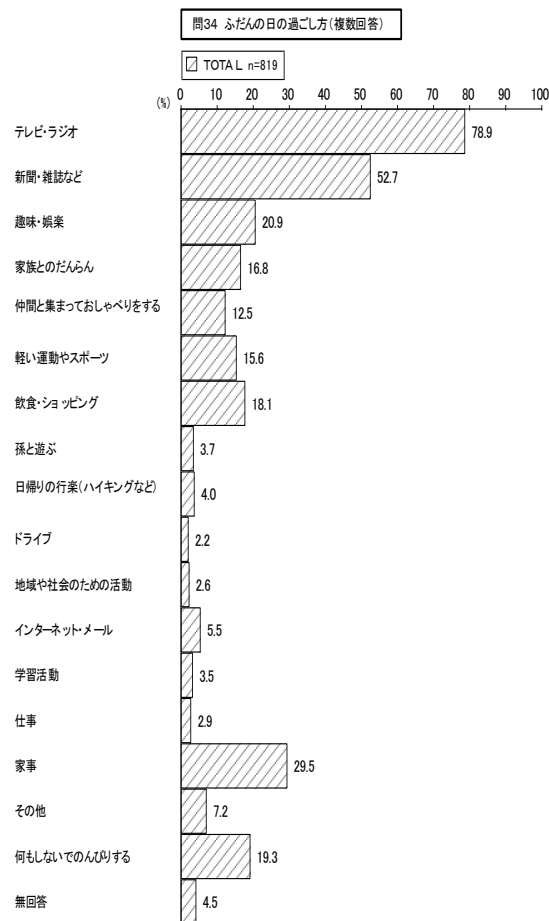
(予防)



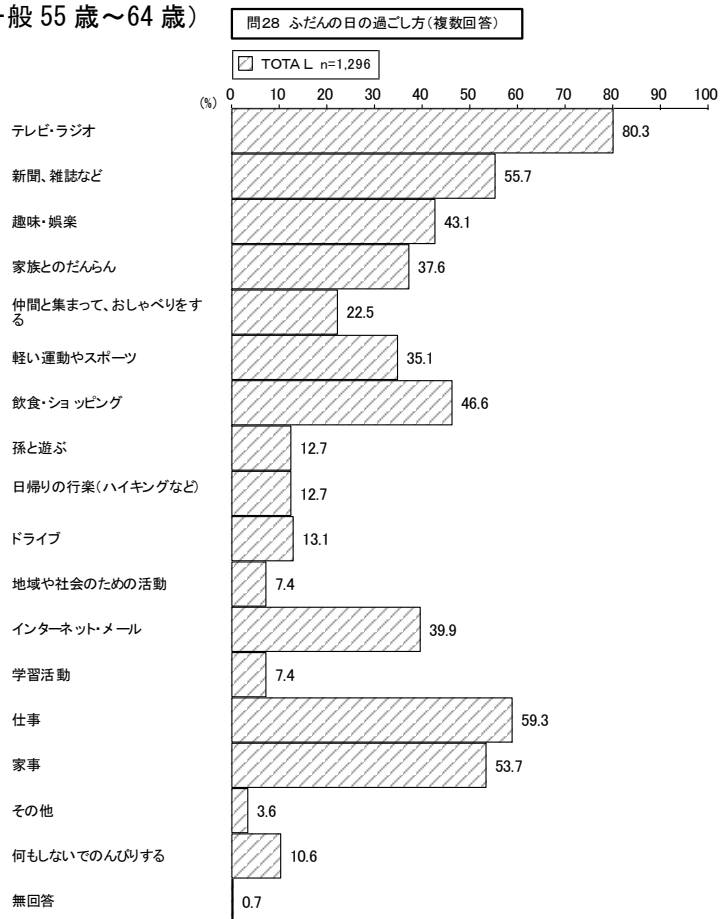
(要支援)



(要介護)



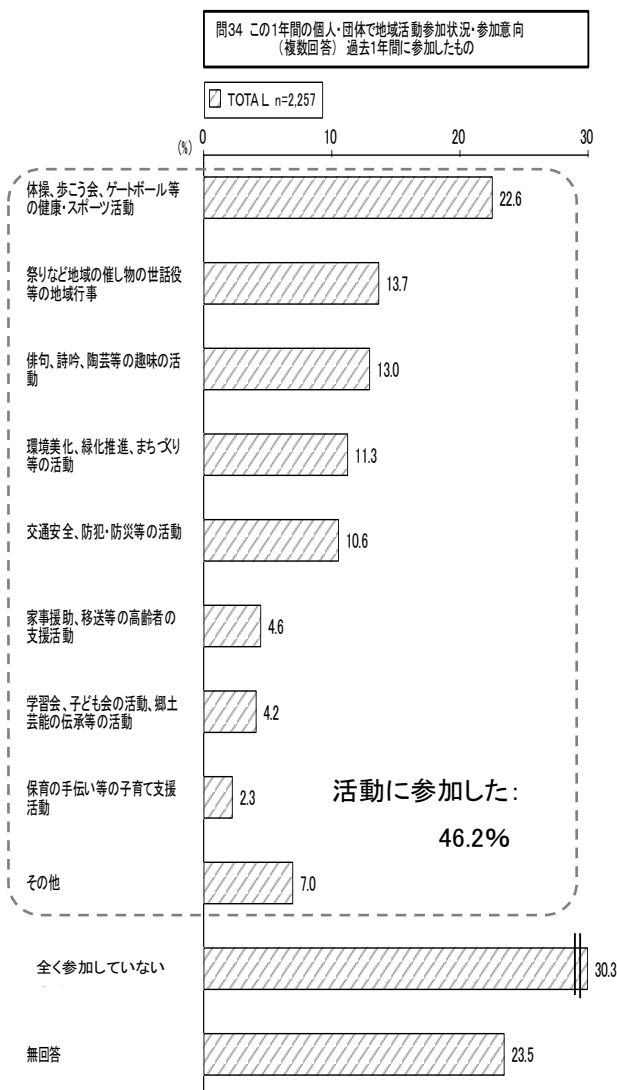
(一般 55歳～64歳)



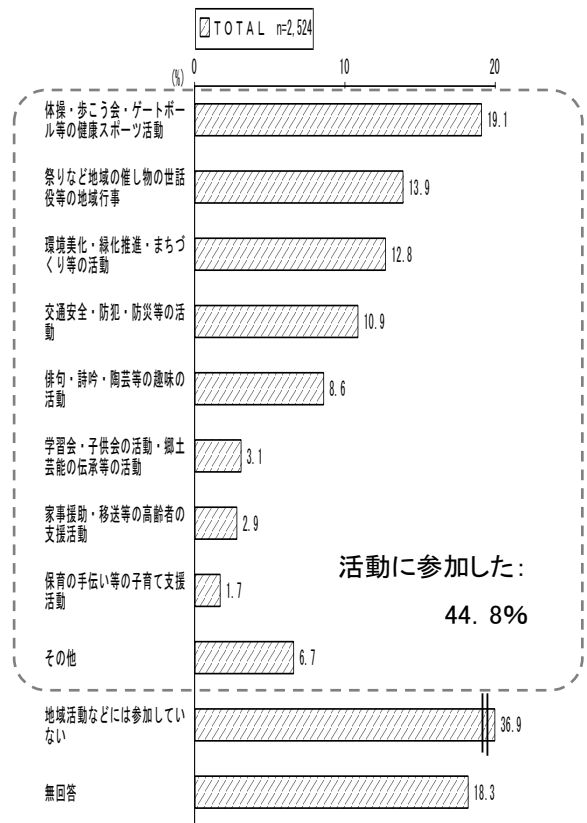
(4) 地域活動への参加状況

過去1年間の地域活動への参加状況を見ると、高齢者一般が4割台（46.2%）なのに対し、予防は7割（75.1%、前回65.2%）を超えており、「体操、步こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」（55.3%）をはじめ、「祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事」（25.5%）、「俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動」（22.4%）、「環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動」（22.1%）など、多様な活動をしている。

(高齢者一般)



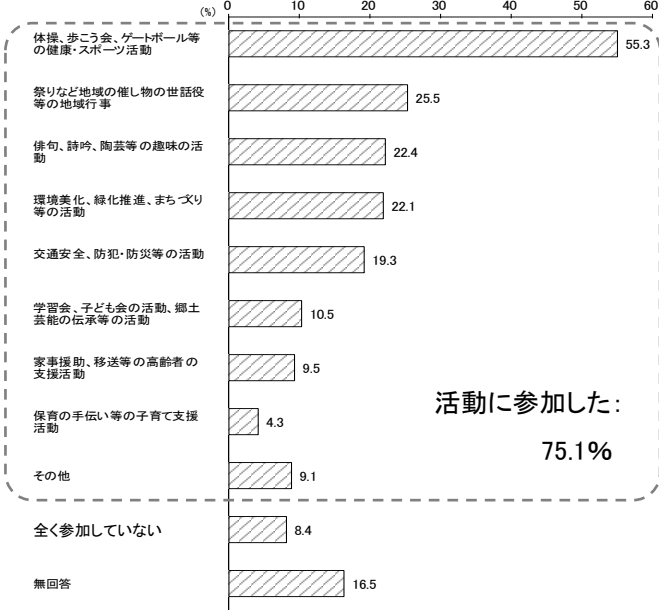
(高齢者一般：前回)



(予防)

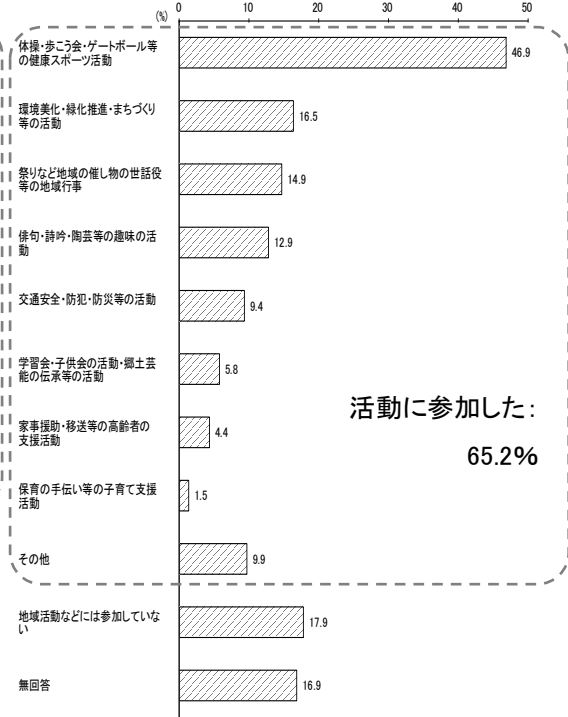
問35 この1年間の個人・団体で地域活動参加状況・参加意向(複数回答) 過去1年間に参加したもの

TOTAL n=693



(予防: 前回)

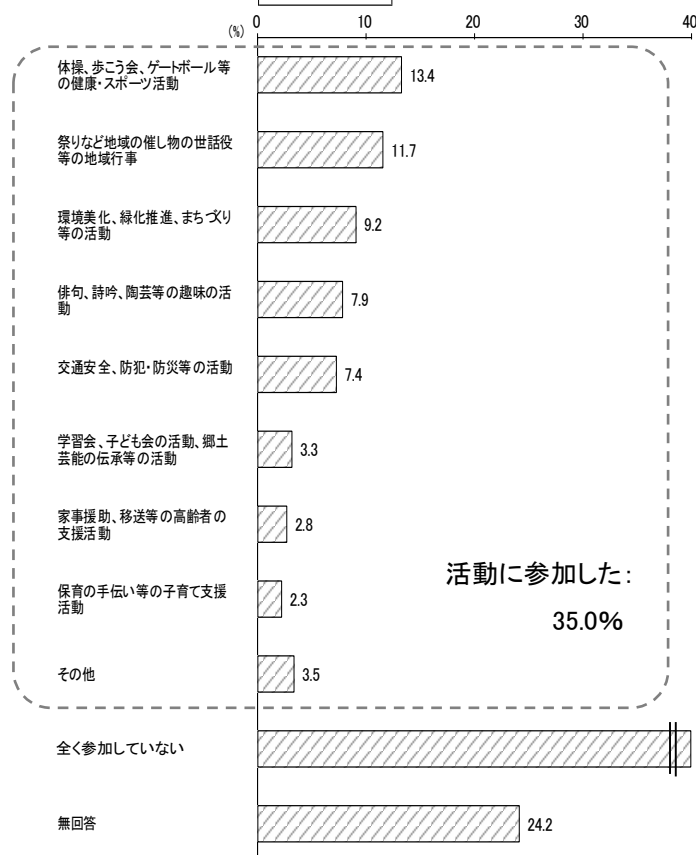
TOTAL n=720



(一般 55歳~64歳)

問29 この1年間の個人・団体で地域活動参加状況・参加意向(複数回答) 過去1年間に参加したもの

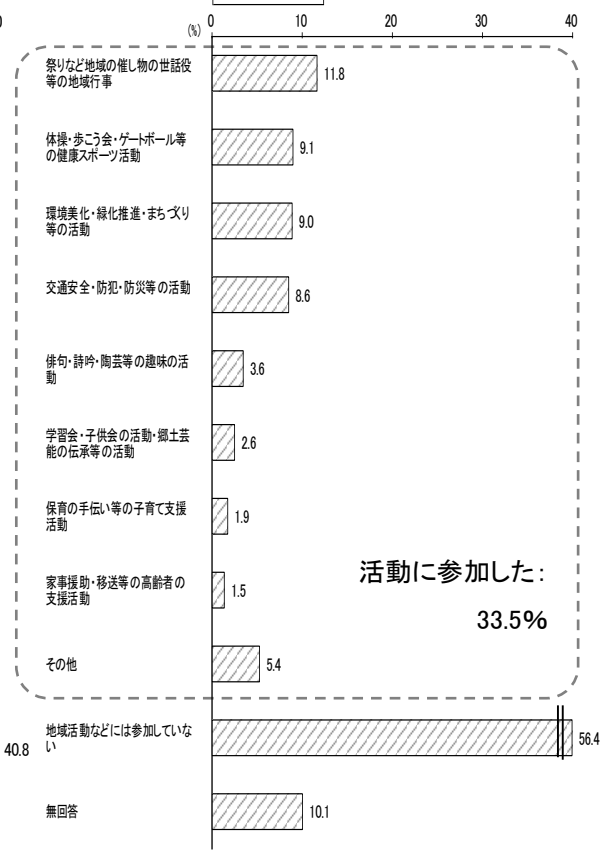
TOTAL n=1,296



(一般 55歳~64歳: 前回)

問31 この1年間の個人・団体で地域活動参加状況(複数回答)

TOTAL n=1,025

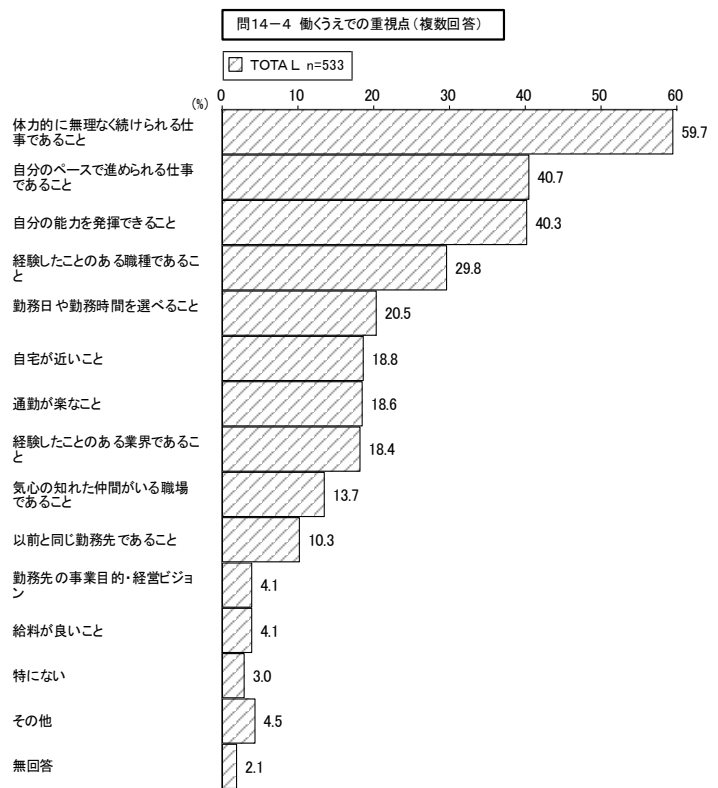
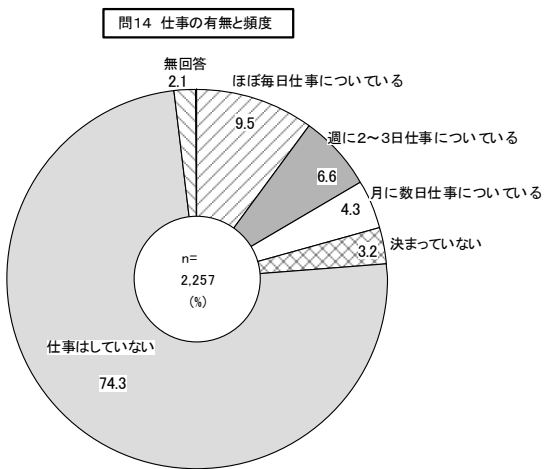


(5) 働くうえで重視していること

高齢者の就労状況を見ると、「ほぼ毎日」から「(頻度は)決まっていない」までを合わせた、仕事をしている割合は23.6%である。

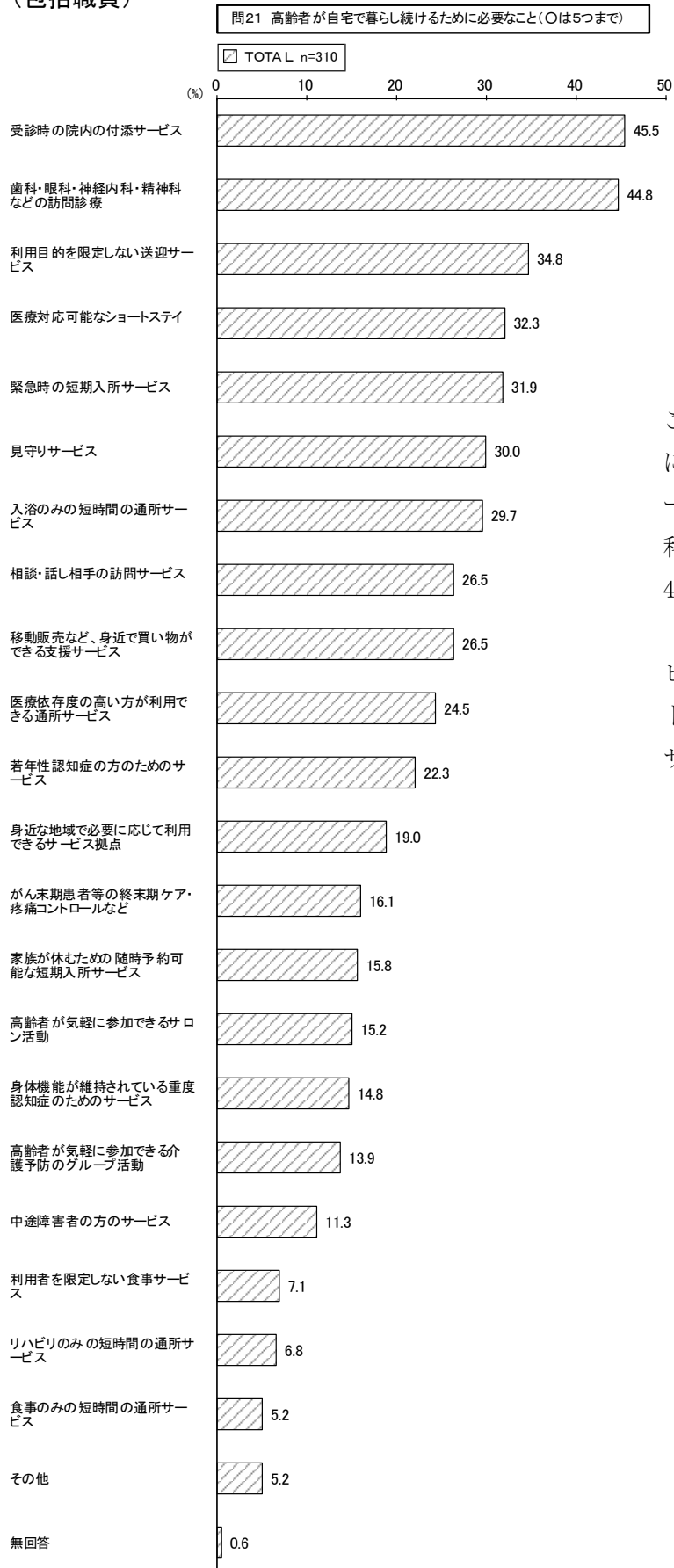
このうち、働くうえで重視している点を見ると、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が約6割(59.7%)で最も多く、以下、「自分のペースで進められる仕事であること」(40.7%)、「自分の能力を発揮できること」(40.3%)が4割台で続いている。

(高齢者一般)



(6) 高齢者が自宅で生活するのに必要なもの

(包括職員)



高齢者が自宅で生活するうえで必要なことについて、地域包括支援センター職員による回答では、「受診時の院内の付添サービス」が45.5%で最も多く、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」が44.8%で次いで多くなっている。

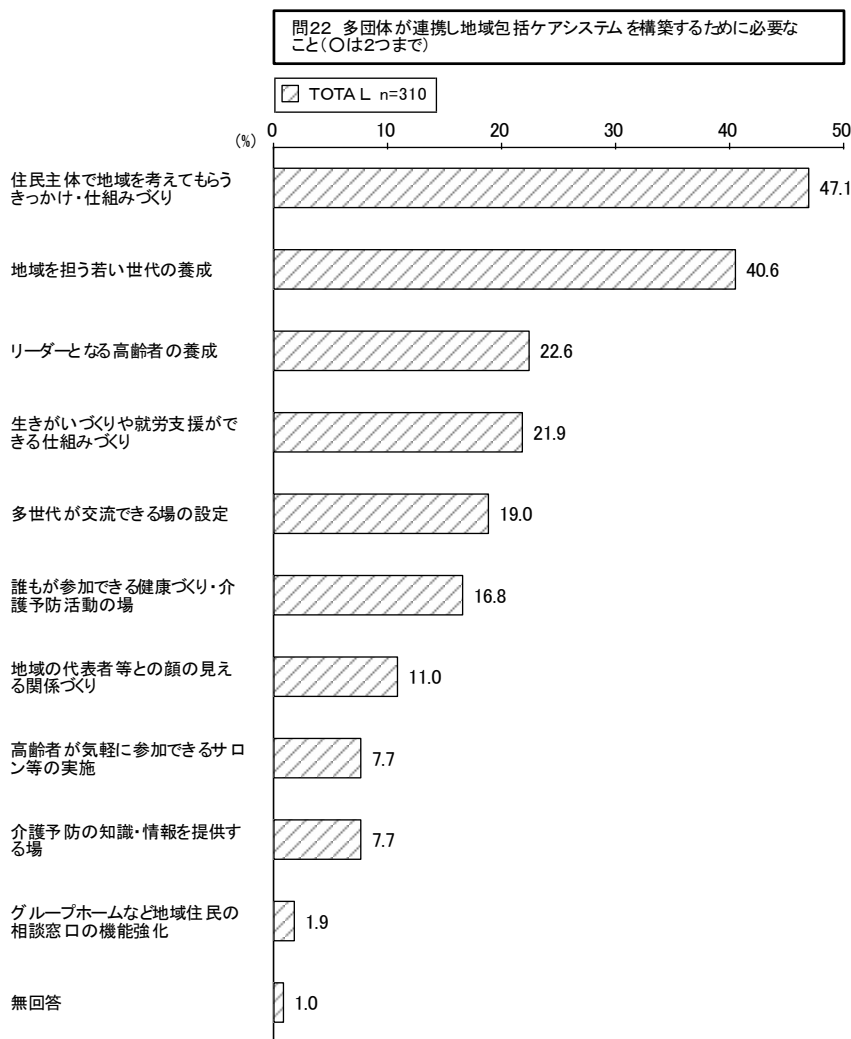
以下、「利用目的を限定しない送迎サービス」(34.8%)、「医療対応可能なショートステイ」(32.3%)、「緊急時の短期入所サービス」(31.9%)、「見守りサービス」(30.0%)の順となっている。

(7) 地域包括ケアシステム構築に必要なこと

地域の諸団体、担い手等との連携を図りながら、地域包括ケアシステム構築を進めるうえでの課題について、地域包括支援センター職員による回答をみると、約半数（47.1%）が「住民主体で地域を考えてもらうきっかけ・仕組みづくり」をあげている。

次いで、「地域を担う若い世代の養成」が40.6%、「リーダーとなる高齢者の養成」（22.6%）、「生きがいつくりや就労支援ができる仕組みづくり」（21.9%）の順となっている。

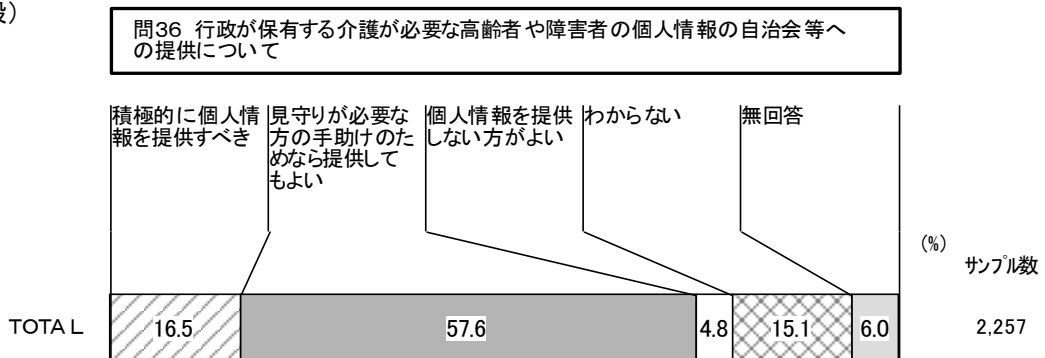
(包括職員)



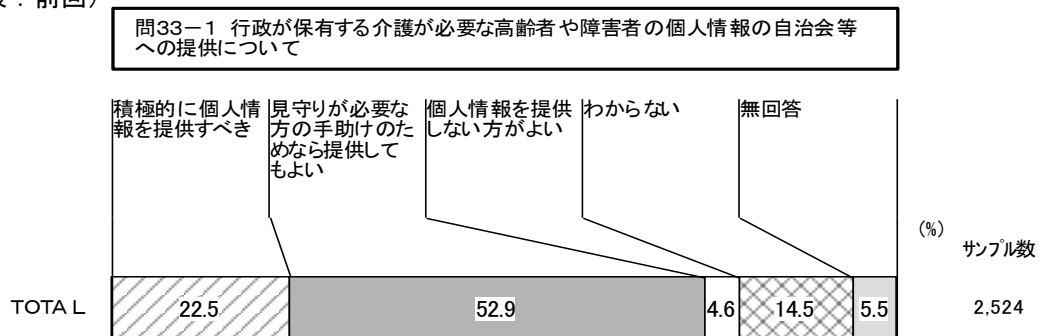
(8) 災害時の自治会・町内会等への情報提供

災害時の自治会・町内会等への情報提供については、「積極的に個人情報を提供すべき」「災害時への備えや、ひとり暮らしなど見守りが必要な方を手助けするためであれば個人情報を提供してもよい」を合わせた、提供に賛同する割合は、一般（55～64歳）で81.9%と最も多く、次いで特養申込者78.4%、予防74.4%、高齢者一般74.1%の順となっている。なお、各対象者とも前回回答割合との差はみられない。

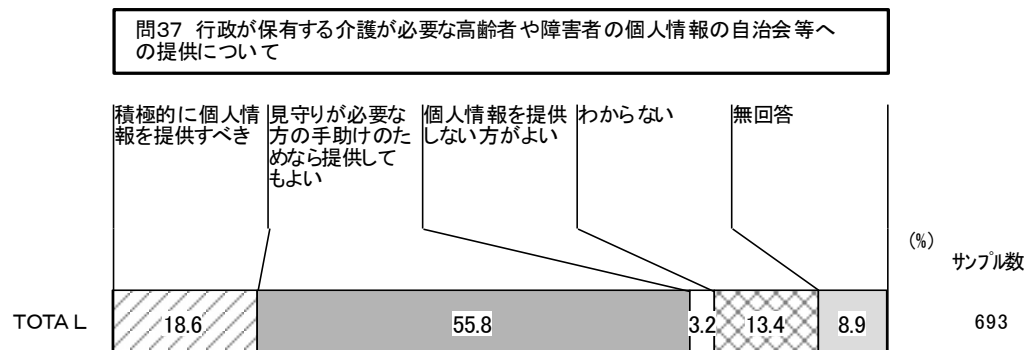
(高齢者一般)



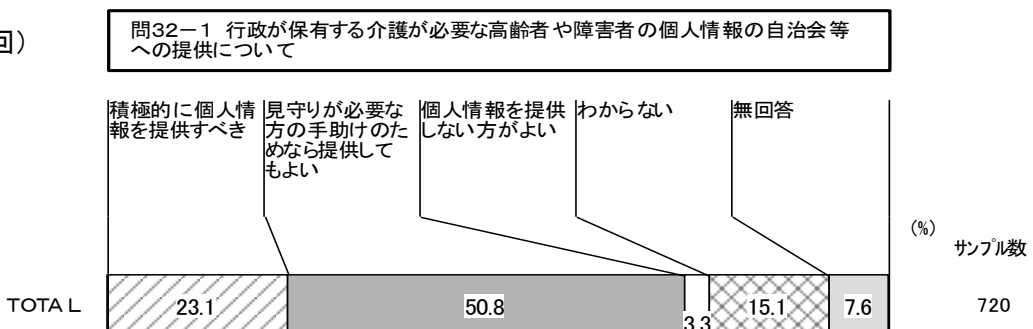
(高齢者一般：前回)



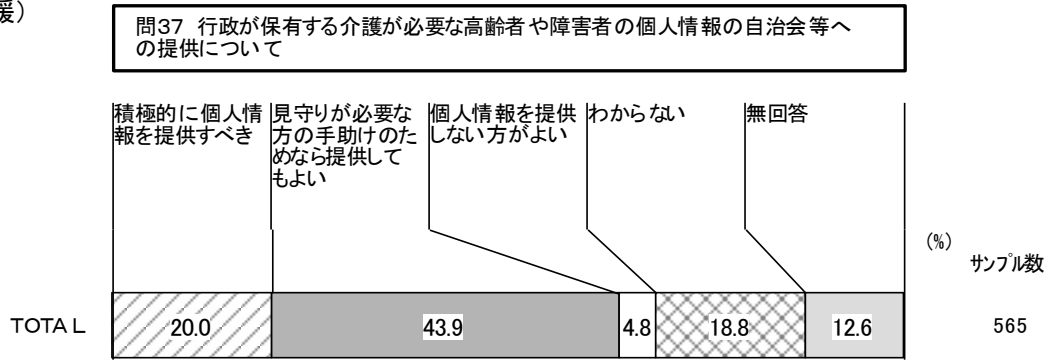
(予防)



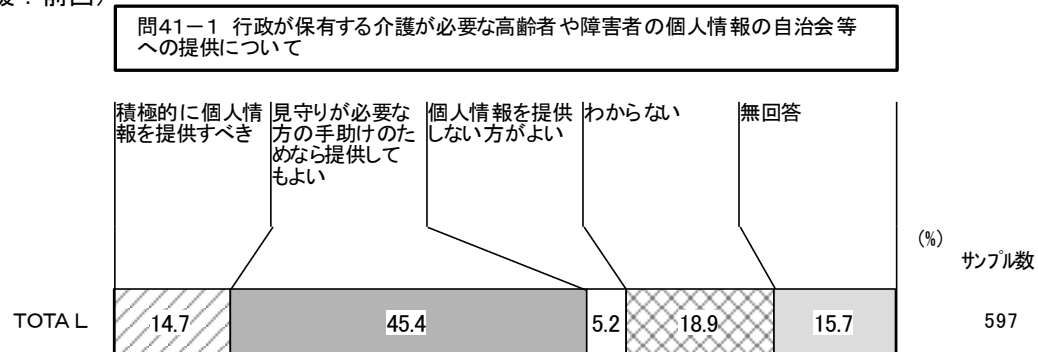
(予防：前回)



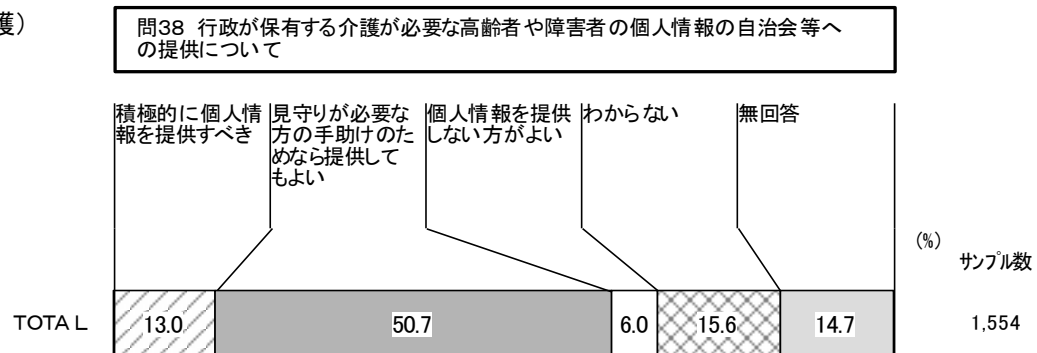
(要支援)



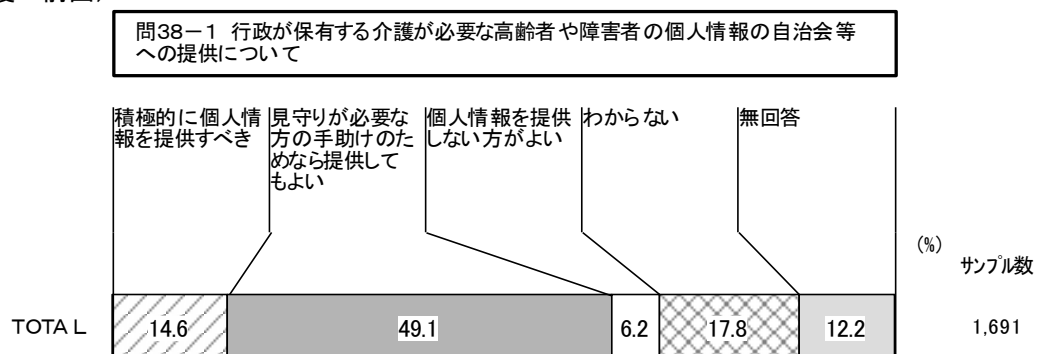
(要支援：前回)



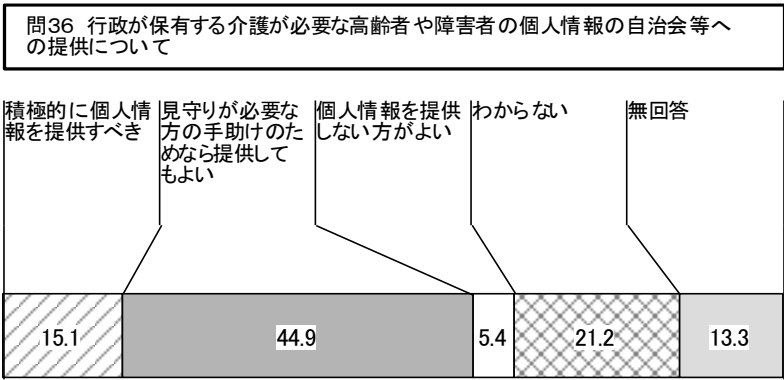
(要介護)



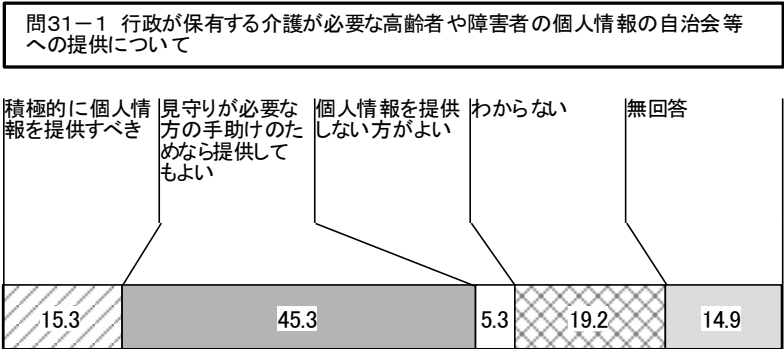
(要介護：前回)



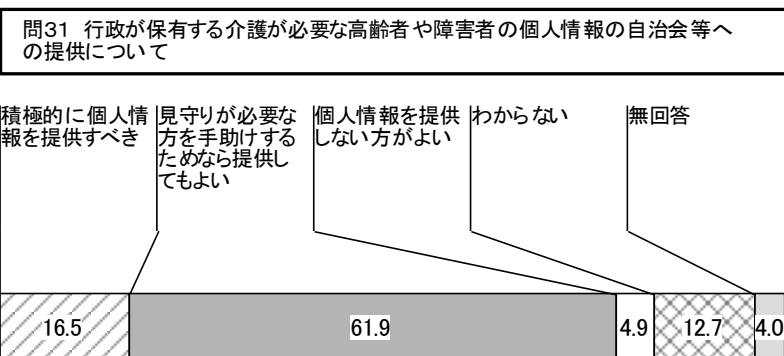
(未利用)



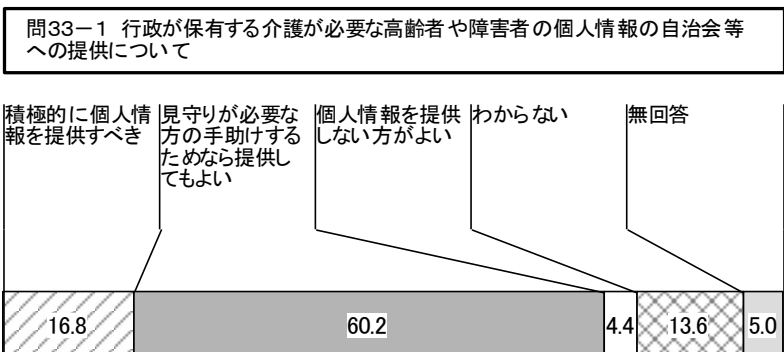
(未利用：前回)



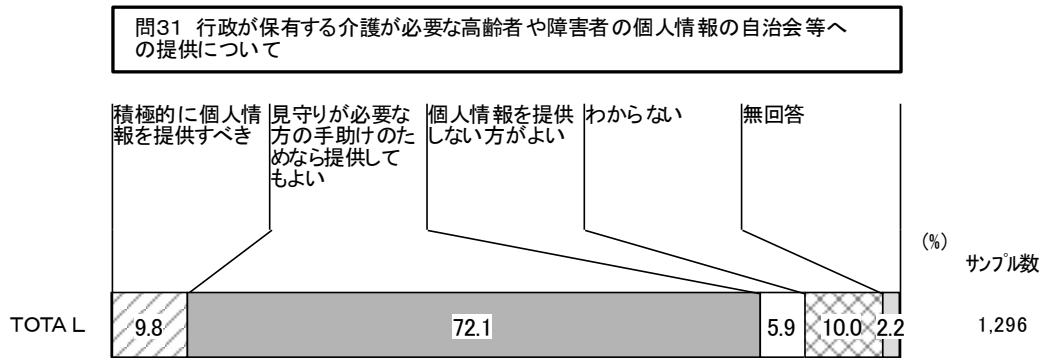
(特養申込者)



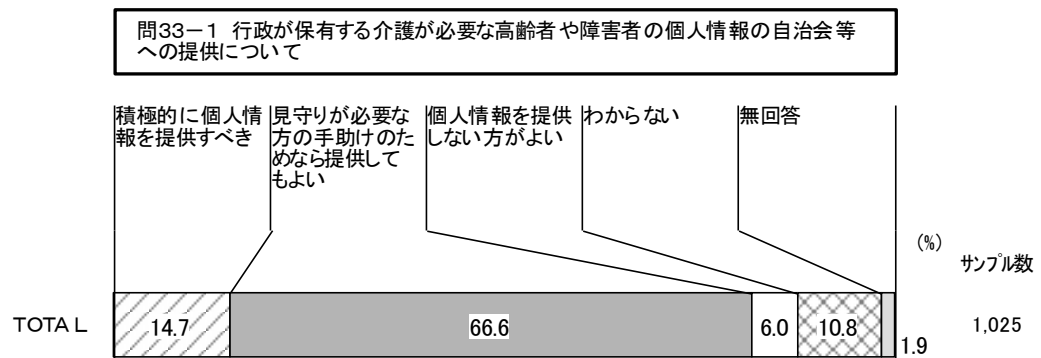
(特養申込者：前回)



(一般 55 歳～64 歳)



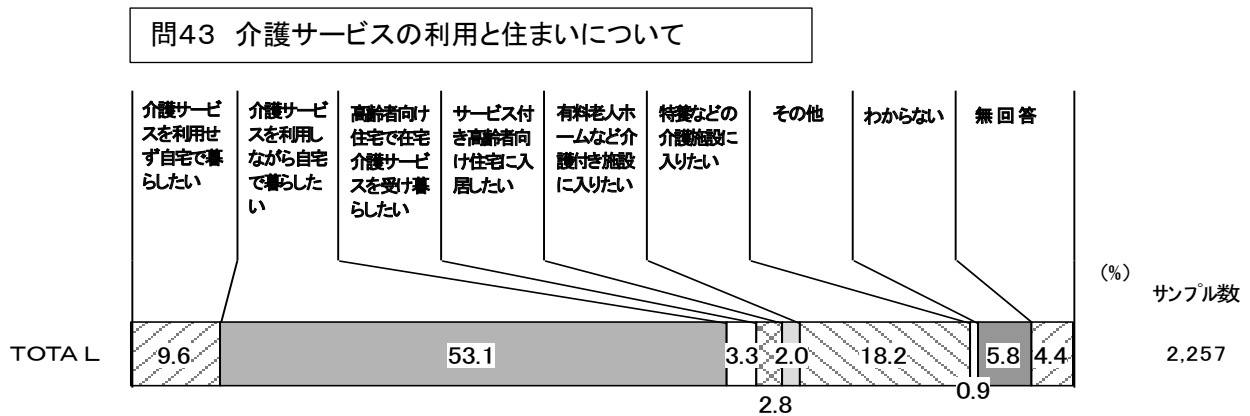
(一般 55 歳～64 歳 : 前回)



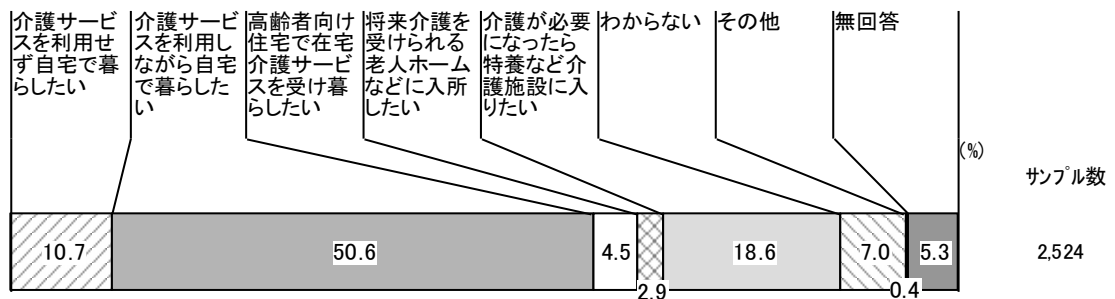
(9) 介護サービスの利用と住まいについて

介護サービスの利用と住まいについての考え方をみると、「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」は、要介護で70.4%、高齢者一般で53.1%、予防で52.2%と半数を超えている。また、要支援では36.6%、未利用では44.3%となっている。

(高齢者一般)

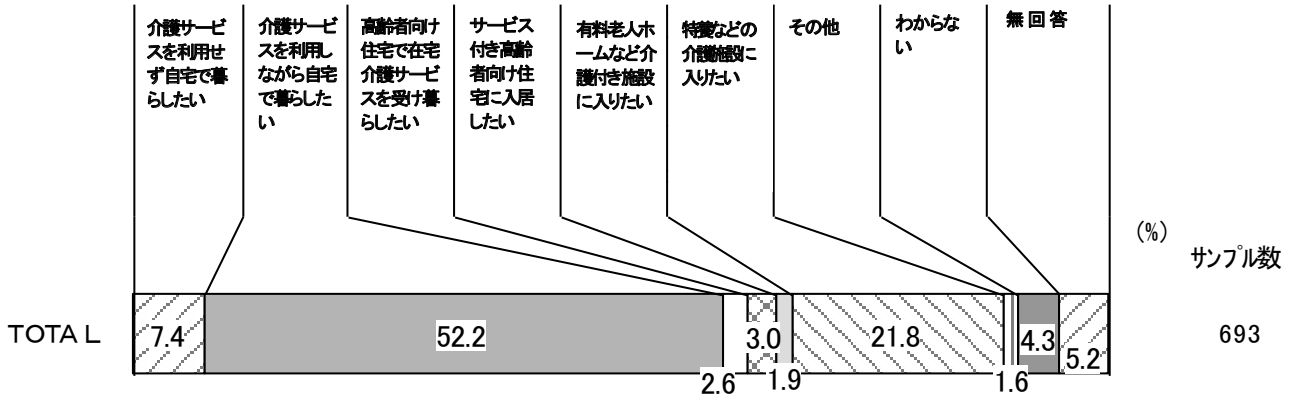


(高齢者一般:前回)

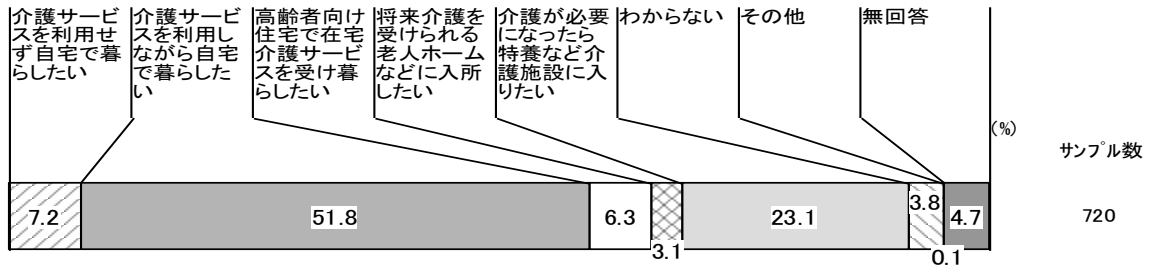


(予防)

問43 介護サービスの利用と住まいについて

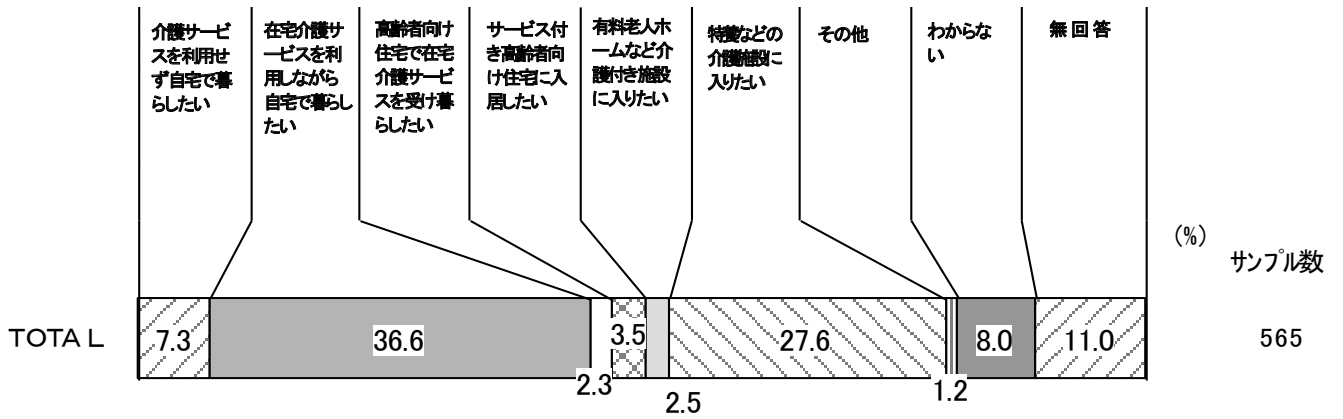


(予防:前回)

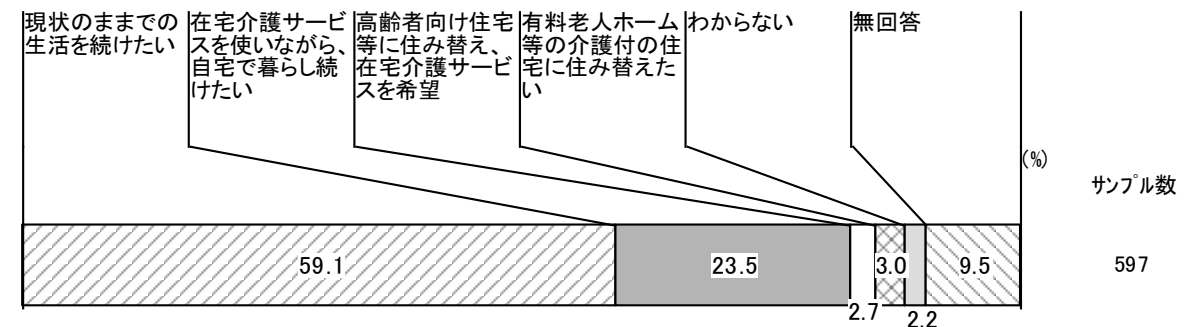


(要支援)

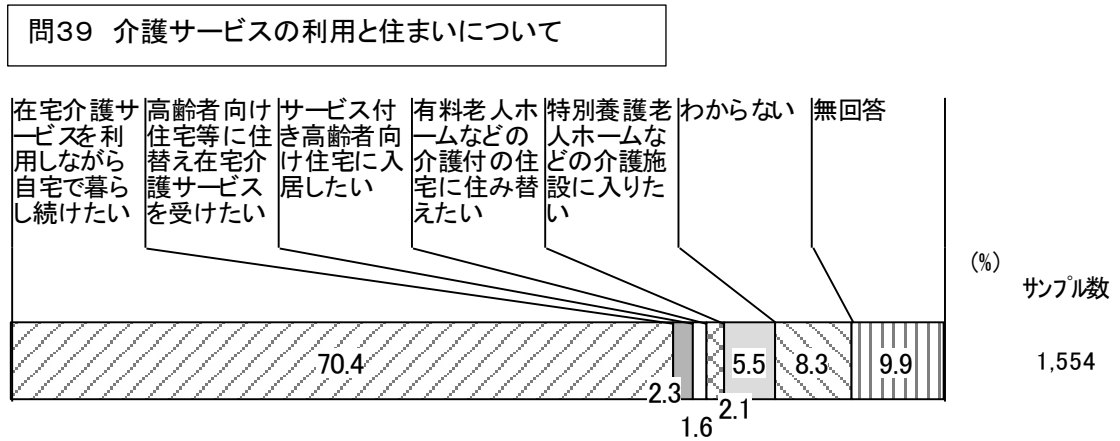
問44 介護サービスの利用と住まいについて



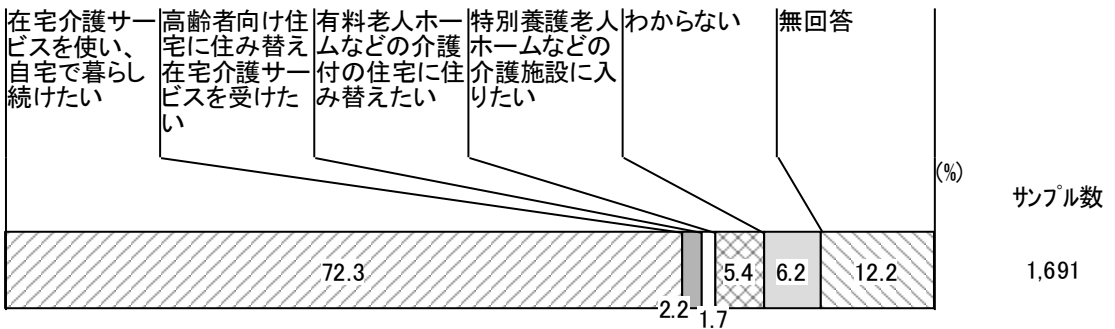
(要支援:前回)



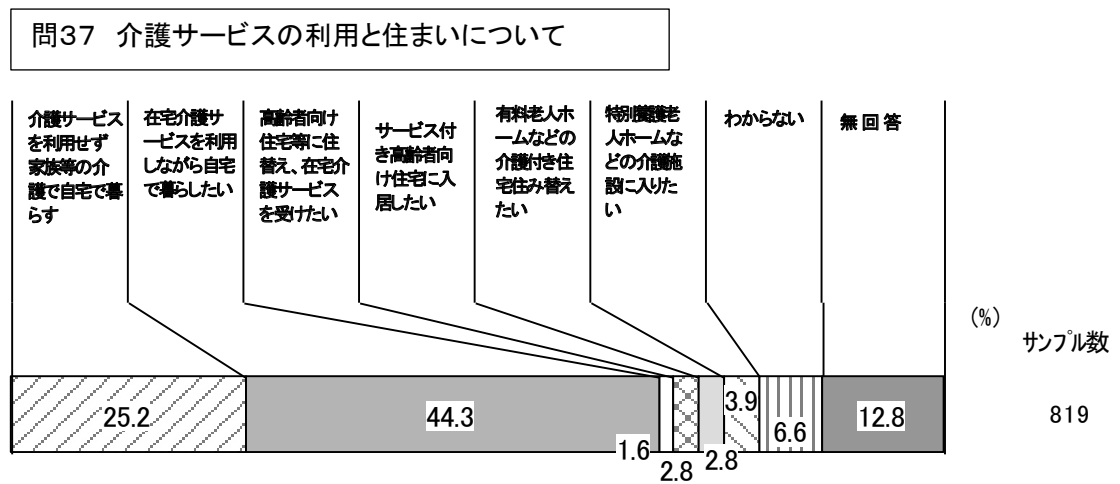
(要介護)



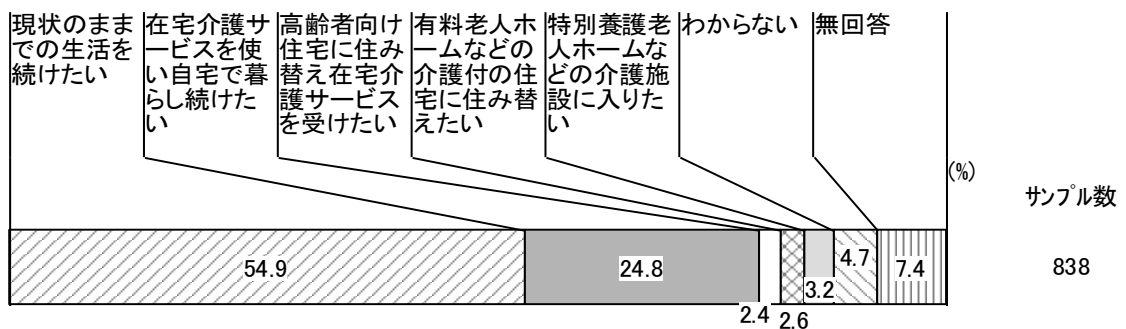
(要介護:前回)



(未利用)



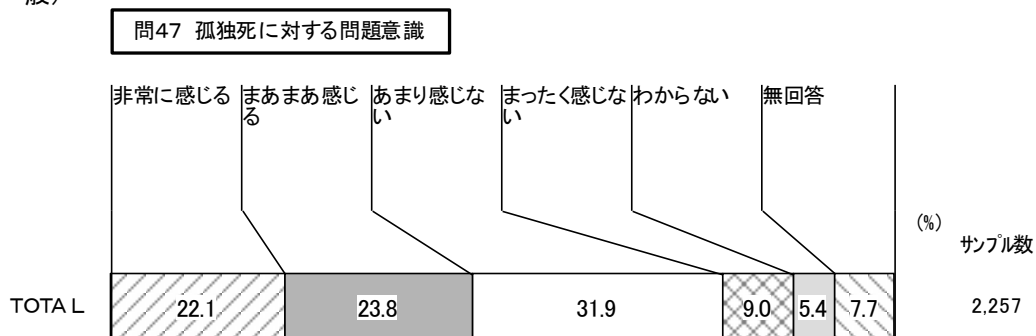
(未利用:前回)



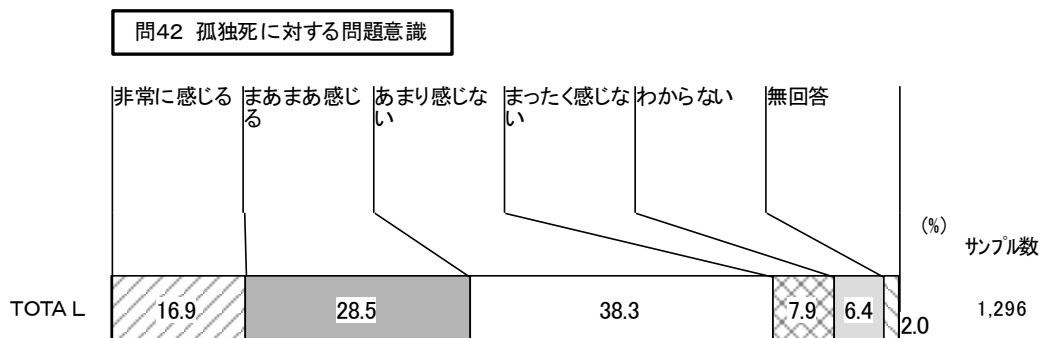
(10) 孤独死に対する認識（身近な問題とを感じるか）

孤独死を身近な問題と感じているかどうかをみると、「非常に感じる」「まあまあ感じる」を合わせた、「身近に感じる」割合は、高齢者一般で45.9%、一般（55～64歳）で45.4%となっている。また高齢者一般では「非常に感じる」が2割（22.1%）みられる。

(高齢者一般)



(一般 55歳～64歳)



3 健康・予防

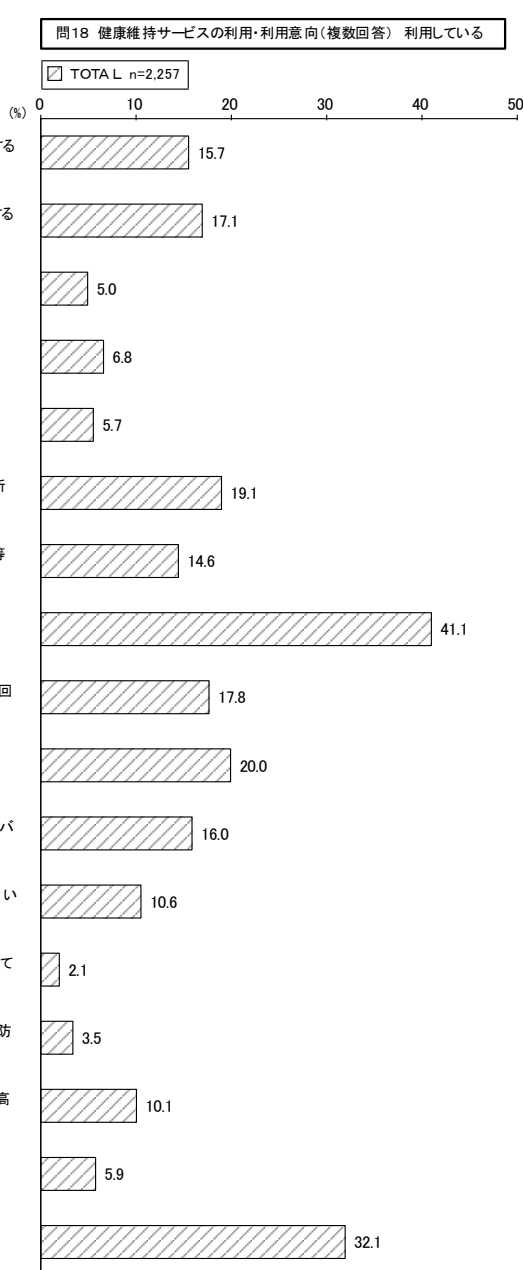
(1) 介護が必要とならないためのサービス利用

介護が必要とならないため（健康を維持するため、状態悪化を防ぐため）の各種サービスの利用状況、利用意向をみると、利用状況では「年1回の健康診断」は高齢者一般、予防、要支援、一般（55～64歳）それぞれで最も多い。

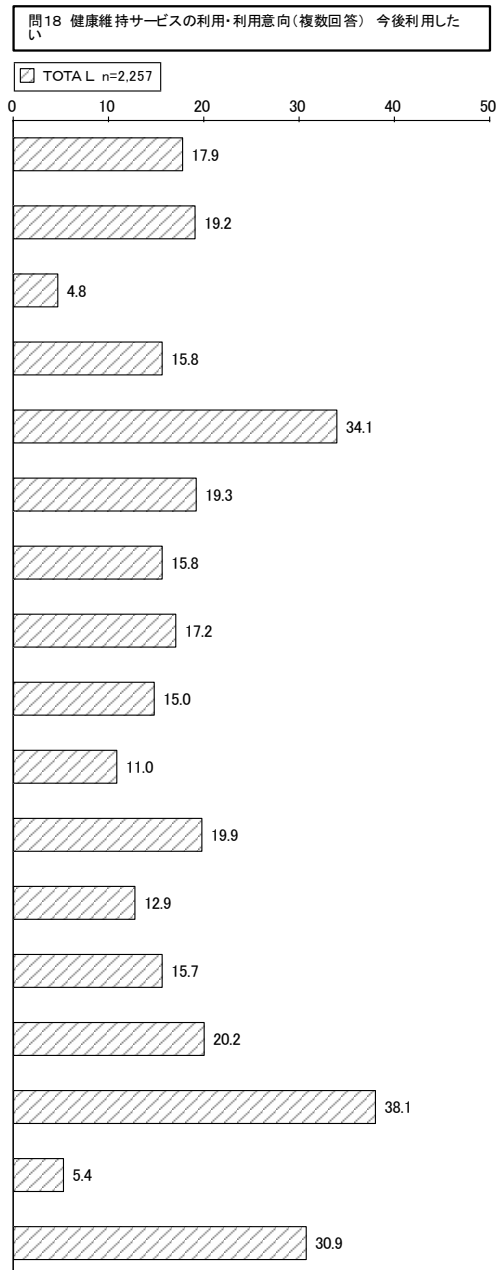
利用意向ではそれぞれで「自分にあった健康で自立した高齢期を送ることについて」のアドバイス、相談等が4割前後で最も高い。また、「認知症の予防に関すること」は、いずれの対象者でも3割～4割となっている。

なお、対象者別にみると、高齢者一般、予防、要支援では「ロコモティブシンドロームの予防について」（高齢者一般：20.2%、予防：33.3%、要支援：21.2%）、一般（55～64歳）では「運動できる場や方法等に関すること」（33.6%）、「体を動かしたり、運動する場所について」（32.6%）、「ストレッチ、筋力トレーニング、バランス運動」（30.7%）がそれぞれ2～3割みられる。

（高齢者一般） [利用状況]



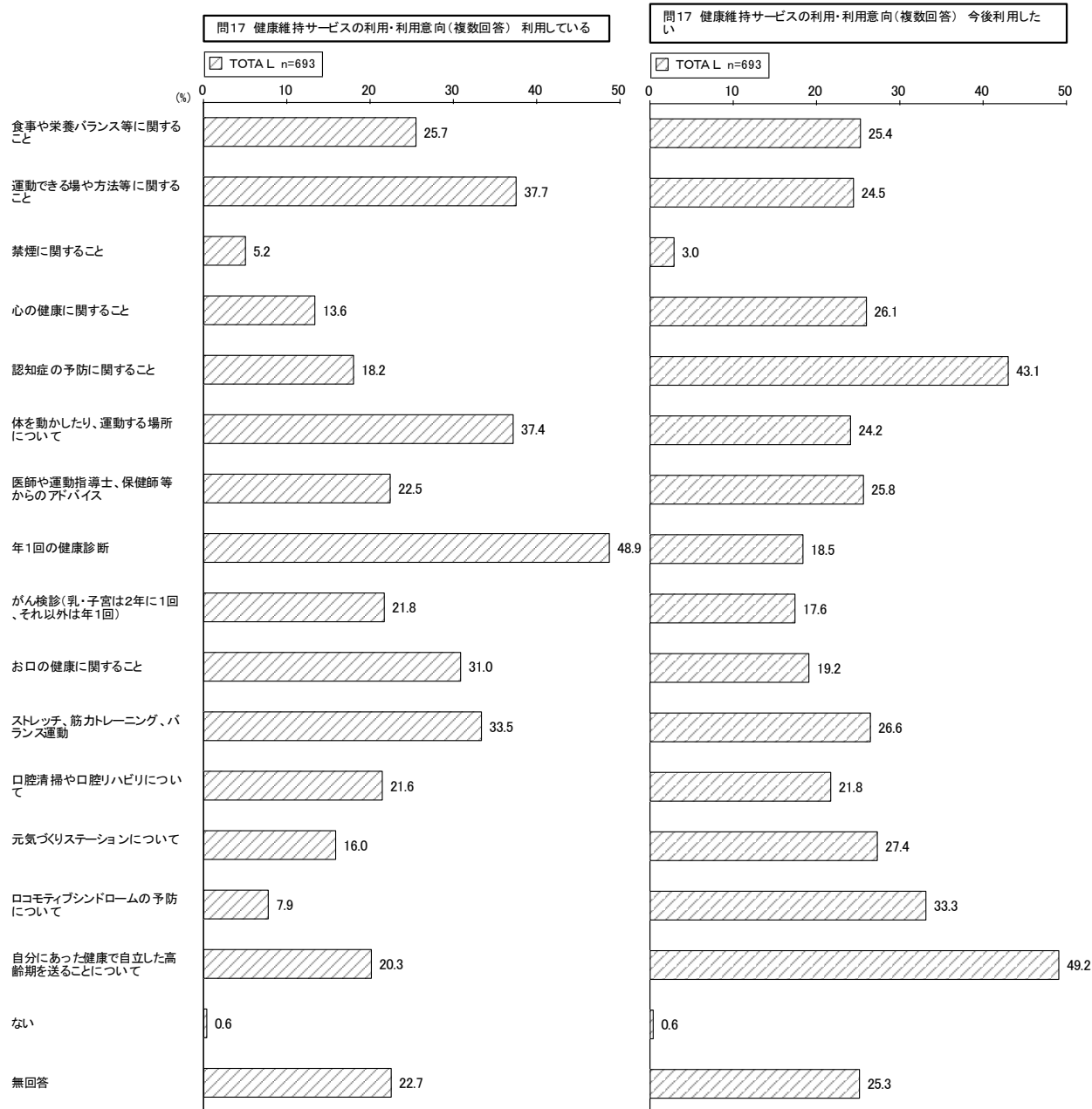
[利用意向]



〔予防〕

〔利用状況〕

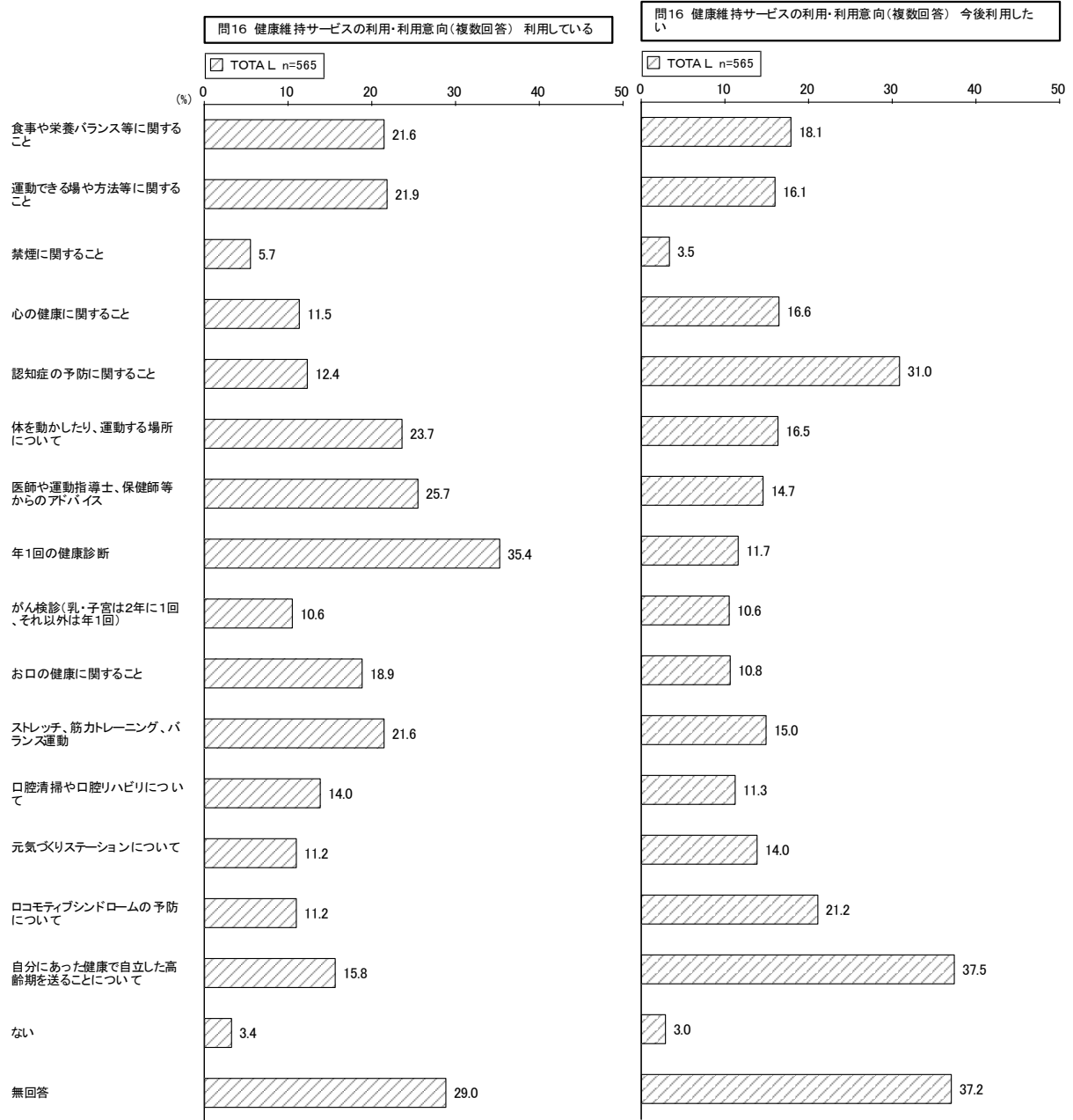
〔利用意向〕



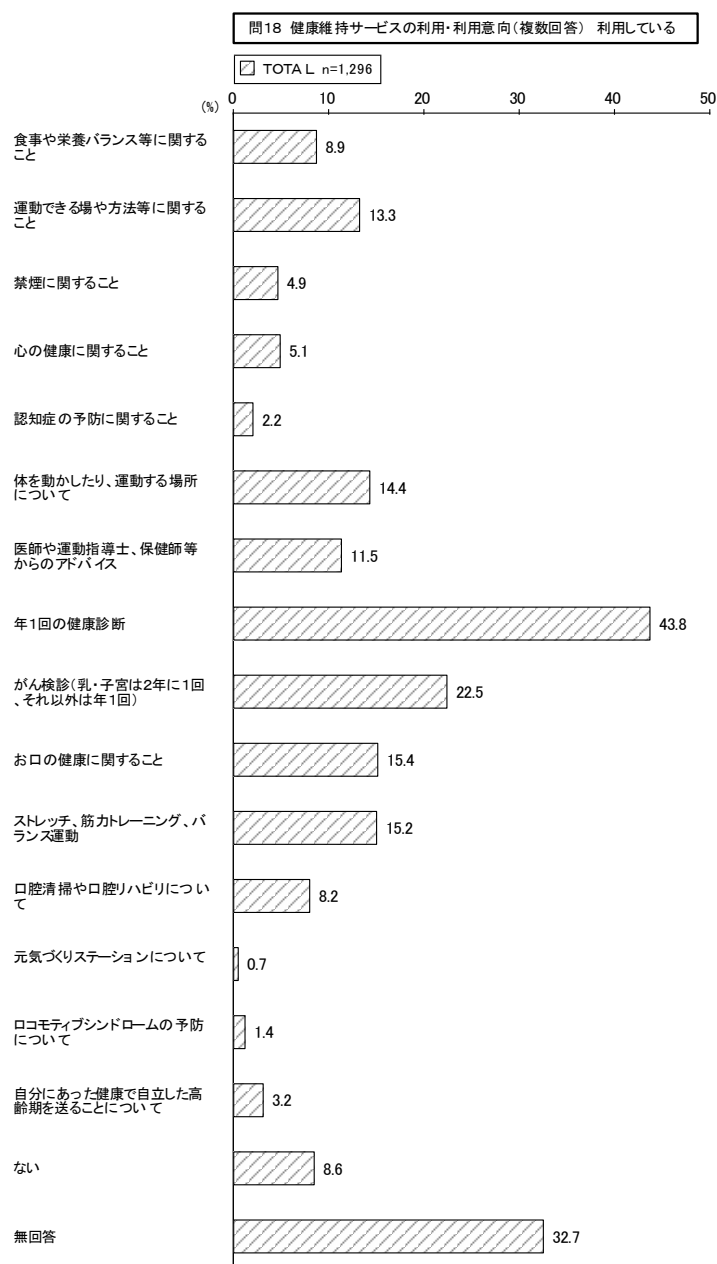
(要支援)

〔利用状況〕

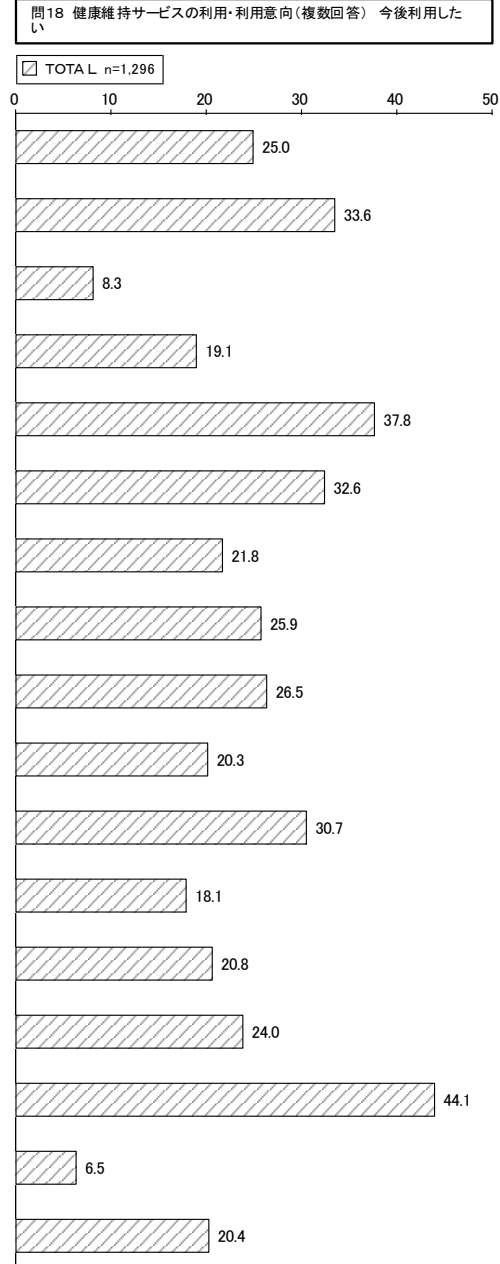
〔利用意向〕



(一般 55 歳～64 歳) [利用状況]



[利用意向]



(2) 外出についての意識

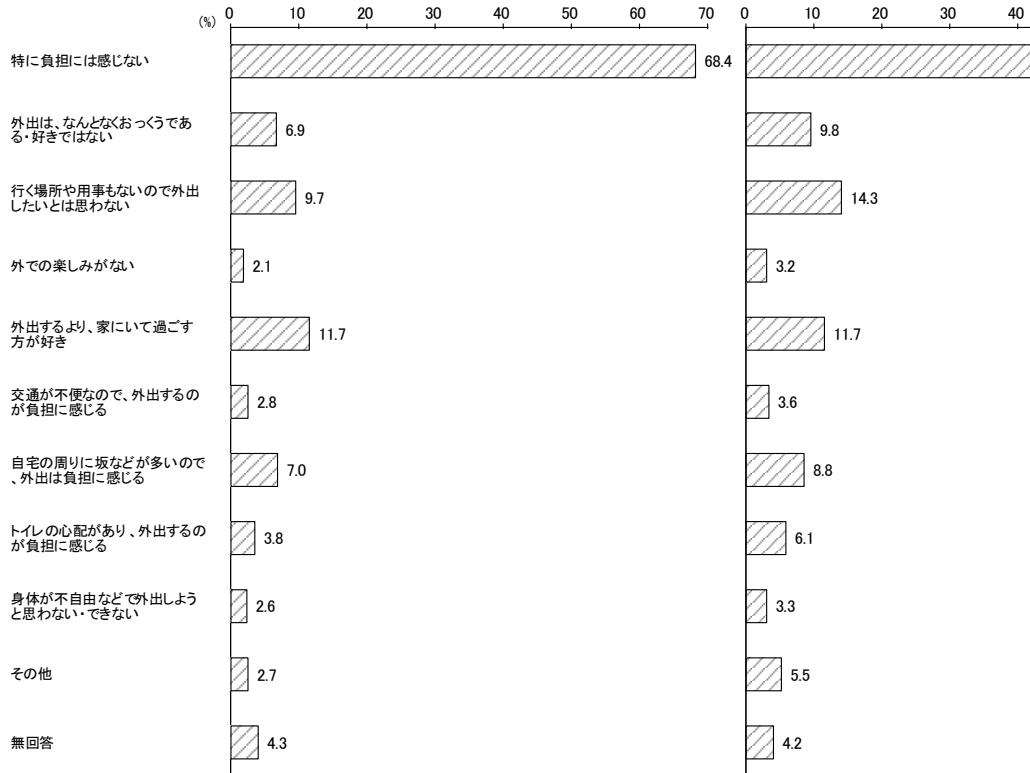
外出についての意識をみると、高齢者一般と予防の各対象者では、回答分布に大きな差はみられず、「特に負担には感じない」が6割みられる（高齢者一般：68.4%、予防：60.2%）。

要支援では、「特に負担には感じない」は26.5%で、「自宅の周りに坂や段差が多いので、外出するのが負担に感じる」（25.3%）、「外出は、なんとなくおっくうである・好きではない」（23.7%）、「外出するより、家にいて過ごす方が好き」（21.6%）がそれぞれ2割を超えている。

(高齢者一般)

問41 外出についての意識(複数回答)

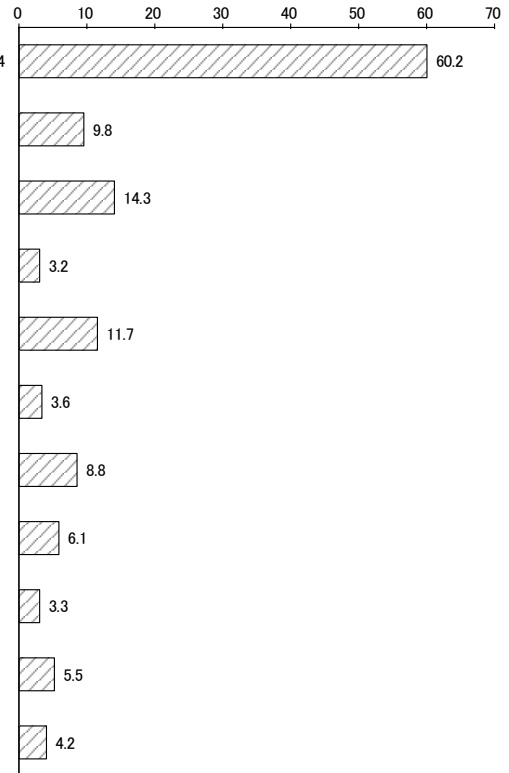
TOTAL n=2,257



(予防)

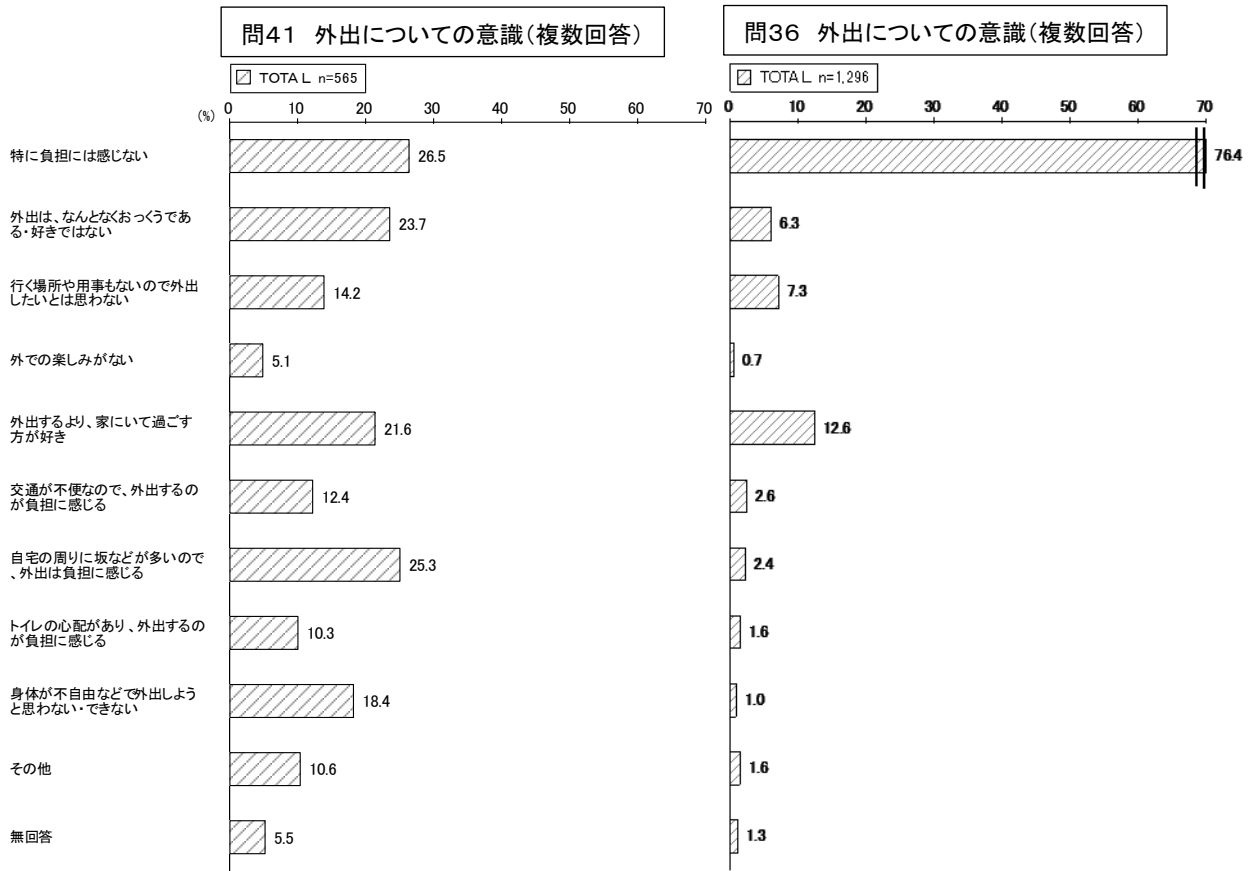
問42 外出についての意識(複数回答)

TOTAL n=693



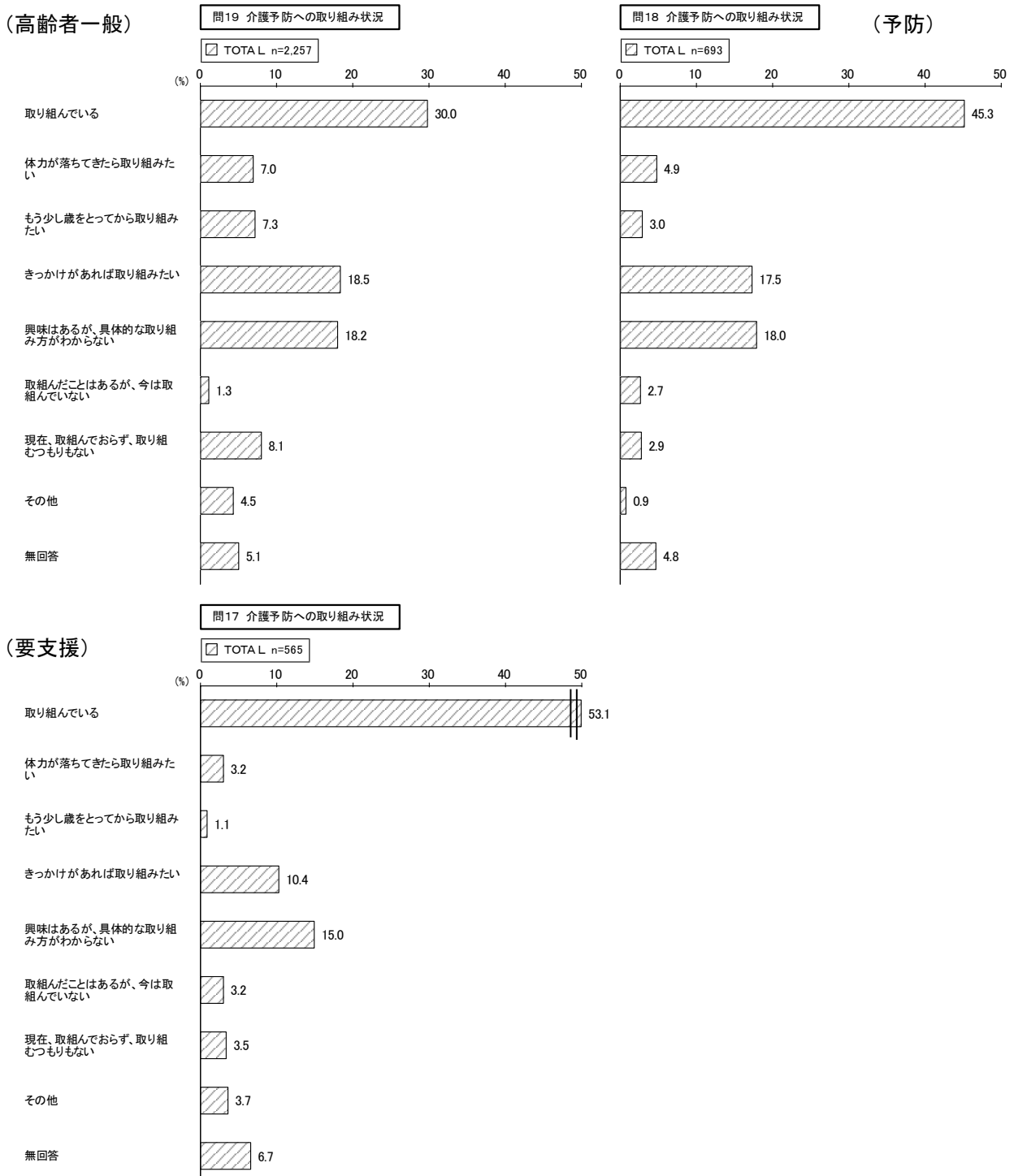
(要支援)

(一般 55 歳～64 歳)



(3) 介護予防への取り組み状況

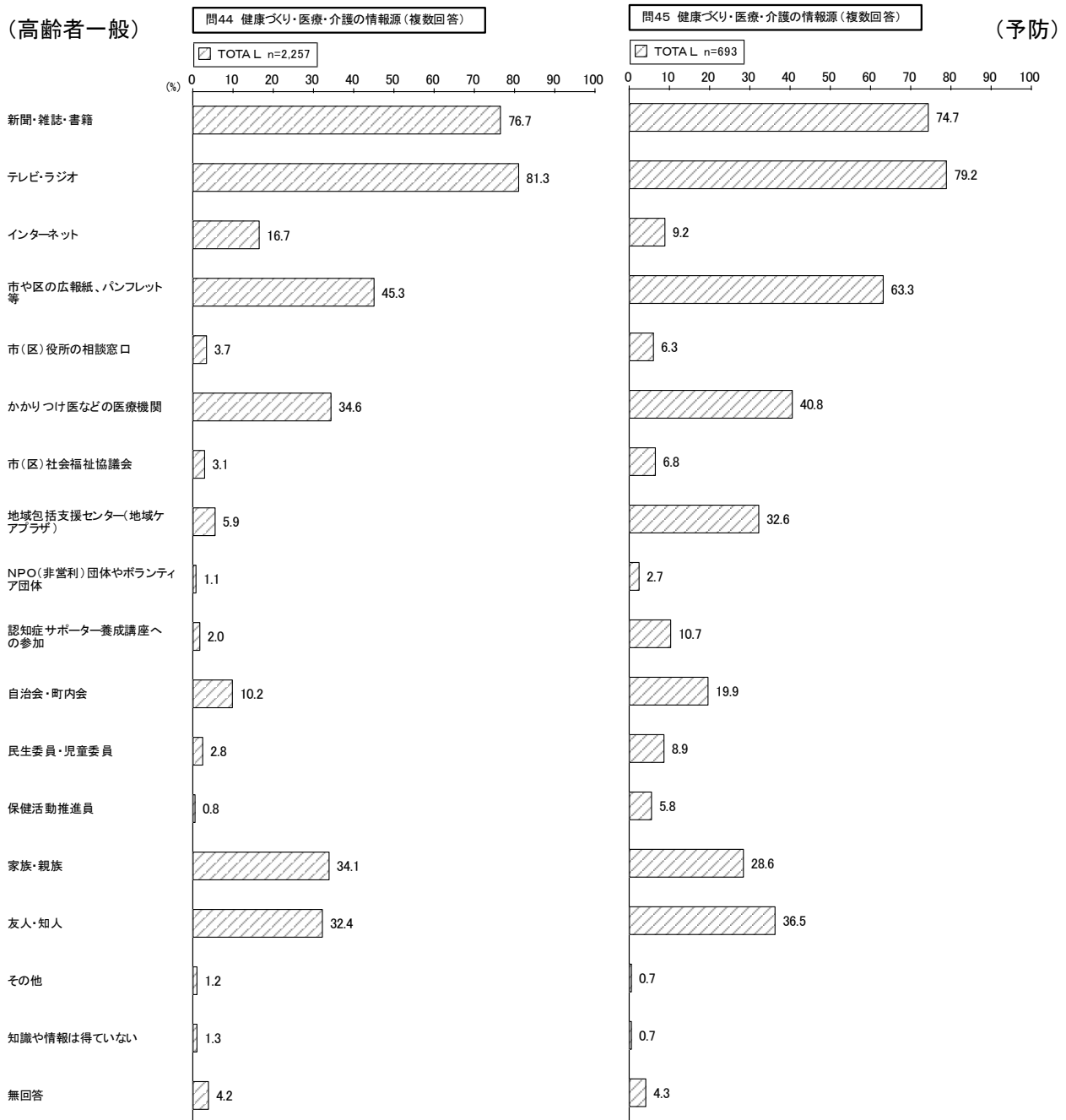
介護予防への取り組み状況をみると、要支援、予防では半数前後が「取り組んでいる」となっている（要支援：53.1%、予防：45.3%）。高齢者一般では「取り組んでいる」は30.0%で、「きっかけがあれば取り組みたい」が18.5%、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」が18.2%となっている。



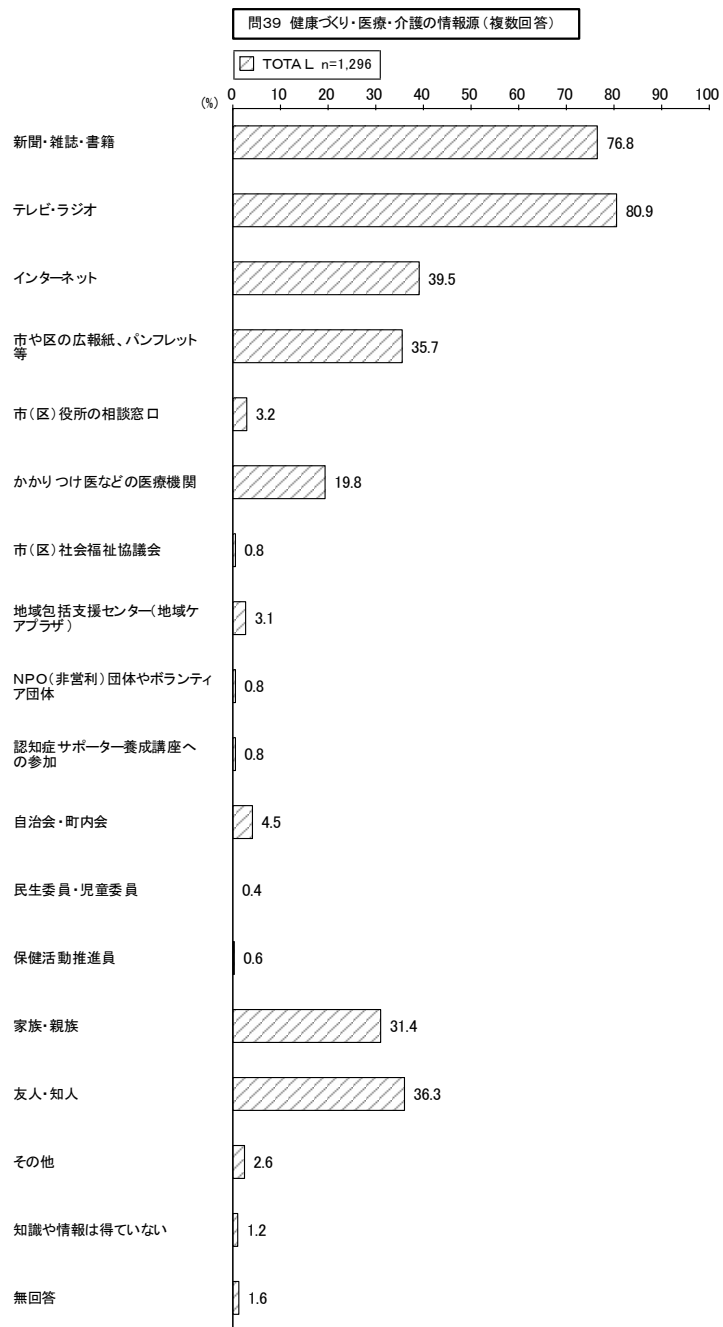
(4) 健康づくり・医療・介護等の情報源

健康づくり等の情報源をみると、「新聞・雑誌・書籍」「テレビ・ラジオ」は高齢者一般、予防、一般（55～64歳）で7～8割みられる。「市や区の広報紙、パンフレット等」は高齢者一般、予防でそれぞれ45.3%、63.3%となっている。一方、一般（55～64歳）では「市や区の広報紙、パンフレット等」35.7%、「インターネット」が39.5%みられる。

また、「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」は高齢者一般では5.9%、予防では32.6%となっている。



(一般 55 歳～64 歳)

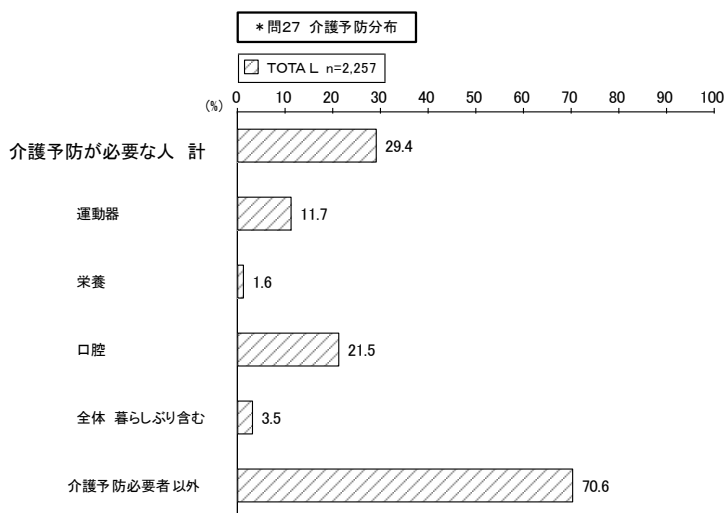


(5) 介護予防が必要な人の分布

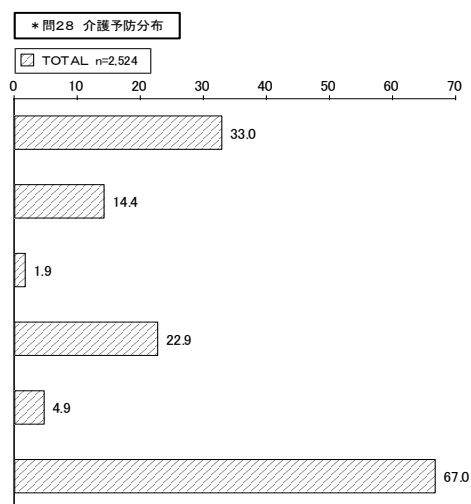
介護予防が必要な人の分布をみると、高齢者一般では29.4%（前回33.0%）、一般（55～64歳）では18.5%（前回20.6%）とそれぞれ前回に比べて介護予防が必要な人の割合が若干少なくなっており、高齢者一般では「運動器」が前回14.4%、今回11.7%となっている。また、介護予防が必要な人では高齢者一般、一般（55～64歳）ともに口腔の割合が一番高くなっている。

※ 「介護予防が必要な人」の分布は、各種調査における「暮らしぶりをチェックする設問」の回答を、運動器関係・栄養関係・口腔関係・全体の暮らしぶりなどの基準に照らして点数化し、介護予防が必要な人と必要としない人に分類し、集計している。

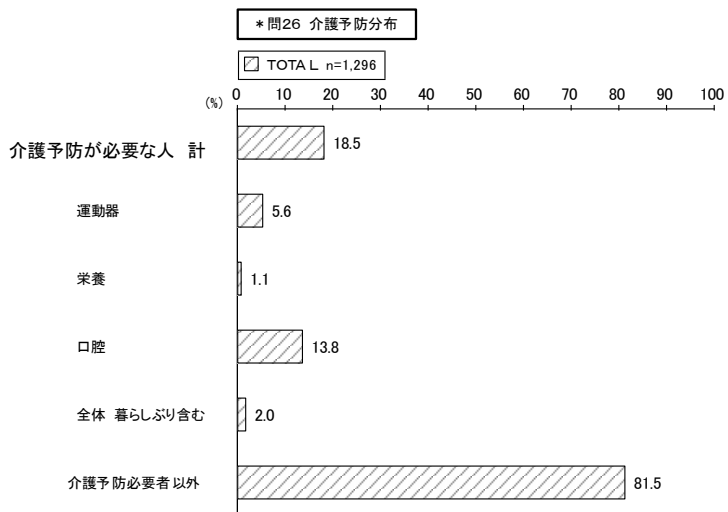
(高齢者一般)



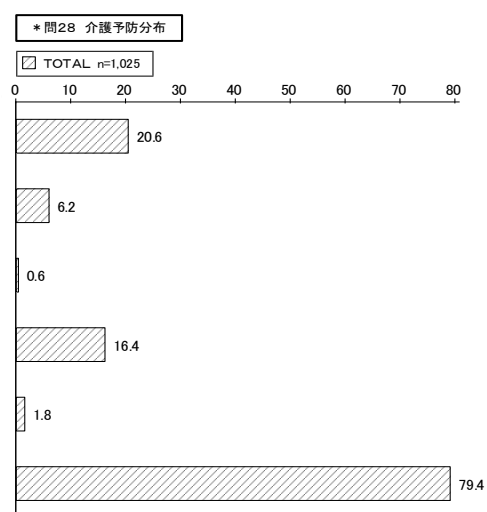
(高齢者一般：前回)



(一般 55歳～64歳)



(一般 55歳～64歳：前回)

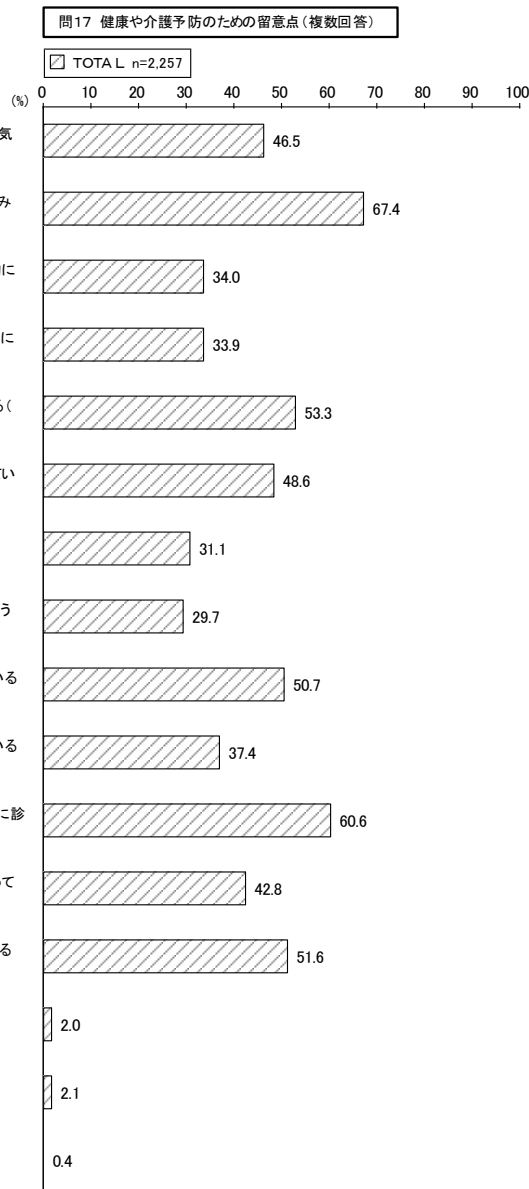


(6) 健康や介護予防のための留意点

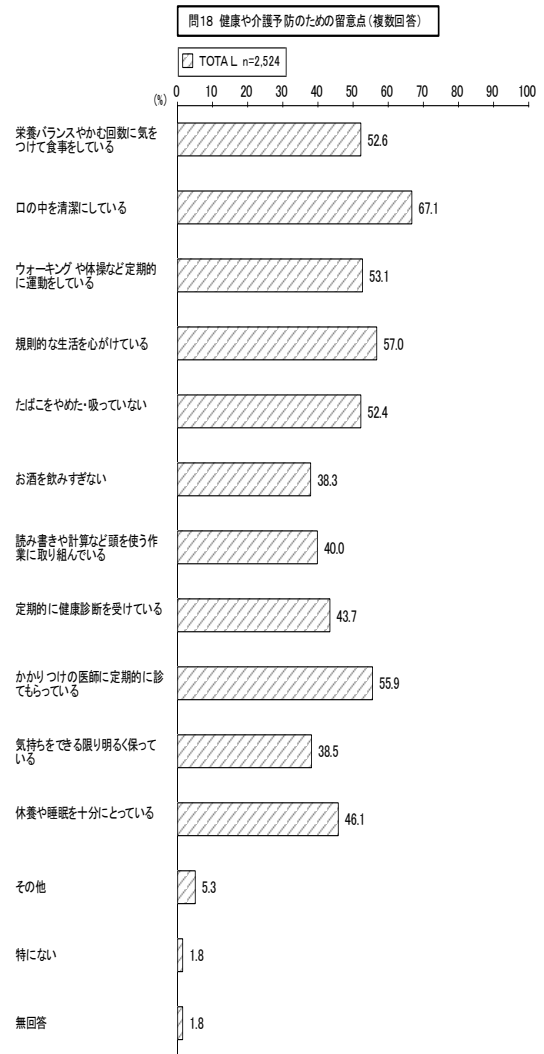
健康や介護予防のための留意点をみると、高齢者一般では回答割合の高い項目に大きな変化はみられず、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」が67.4%で最も多く、次いで「かかりつけの医師（主治医）に定期的に診てもらっている」60.6%、「規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）」53.3%の順となっている。

予防では、前回に比べて「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」57.6%（前回72.2%）、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」80.4%（前回84.9%）など、回答割合が少なくなっている。

(高齢者一般)



(高齢者一般：前回)

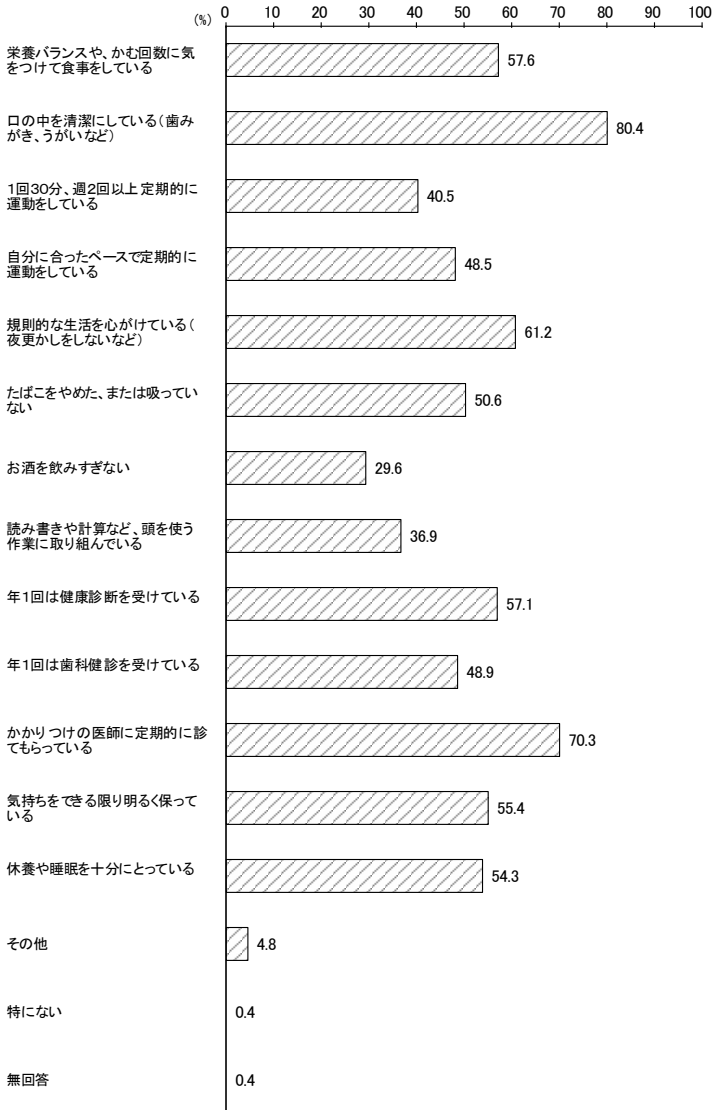


(予防)

(予防：前回)

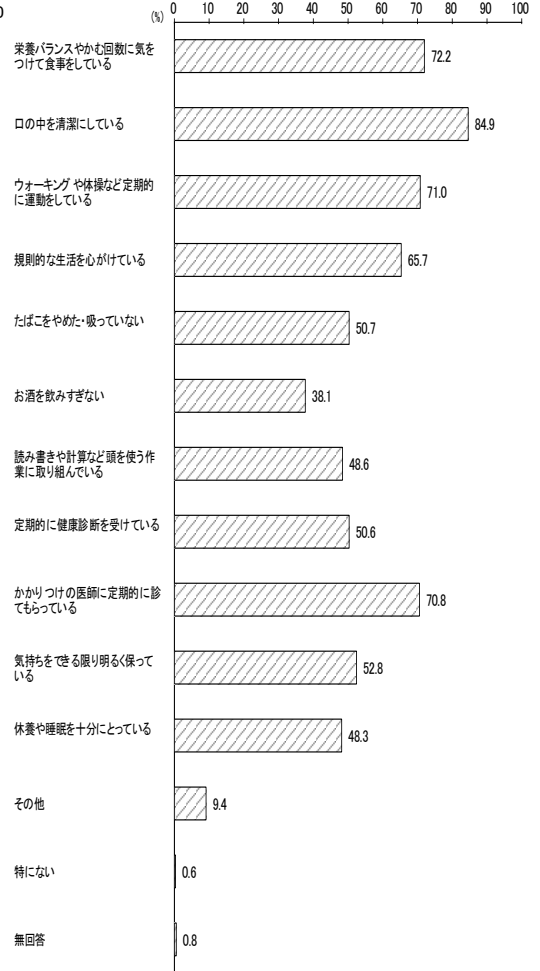
問16 健康や介護予防のための留意点(複数回答)

TOTAL n=693



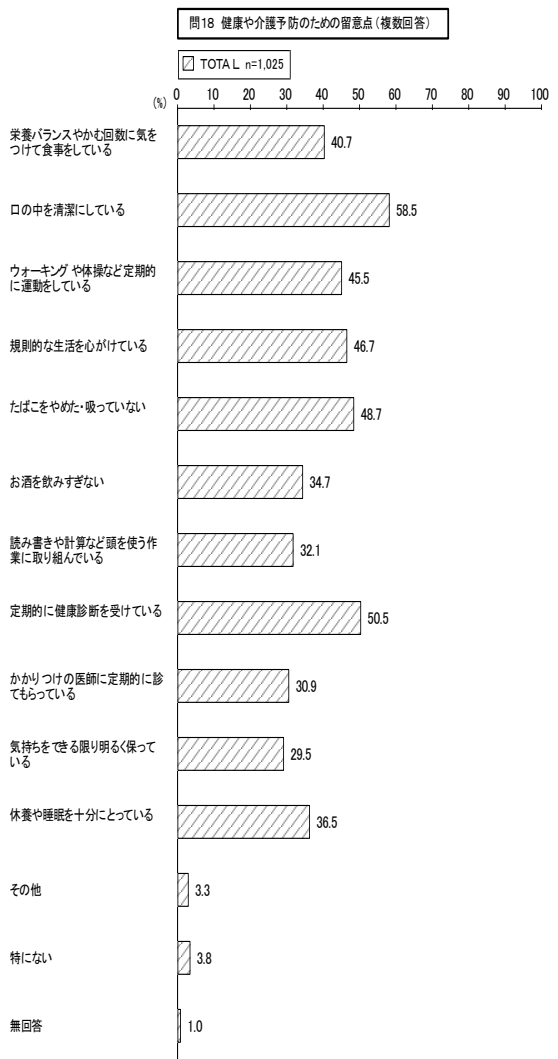
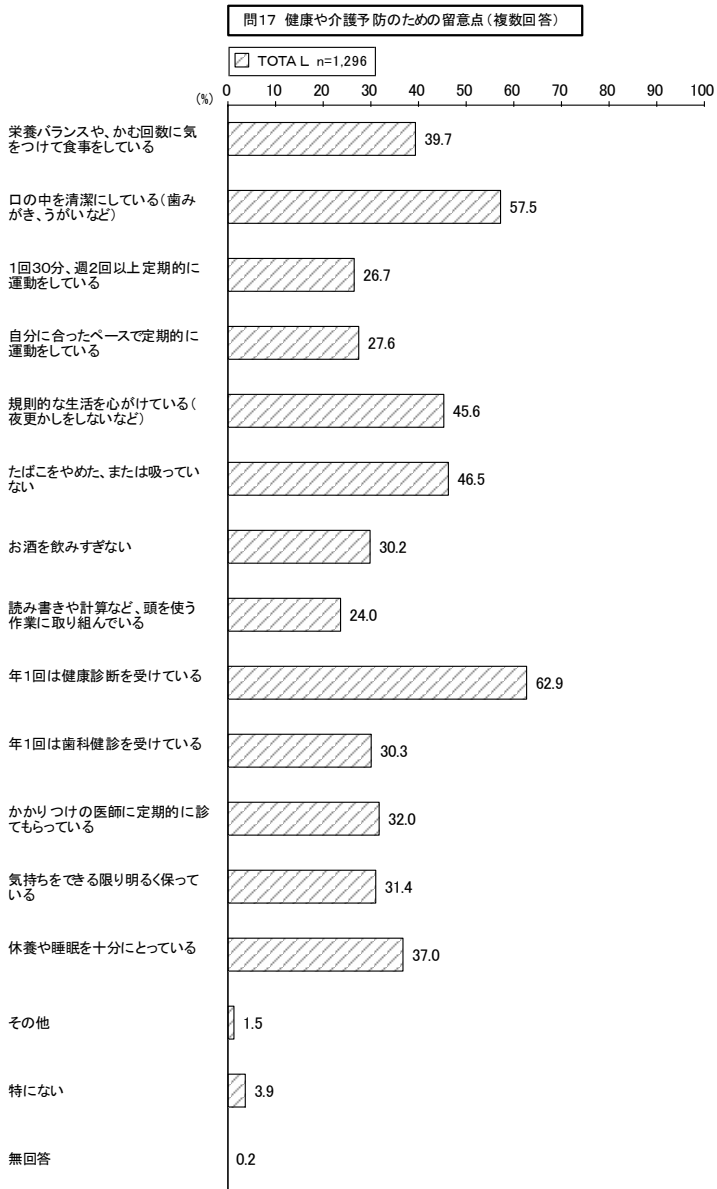
問17 健康や介護予防のための留意点(複数回答)

TOTAL n=720



(一般 55 歳～64 歳)

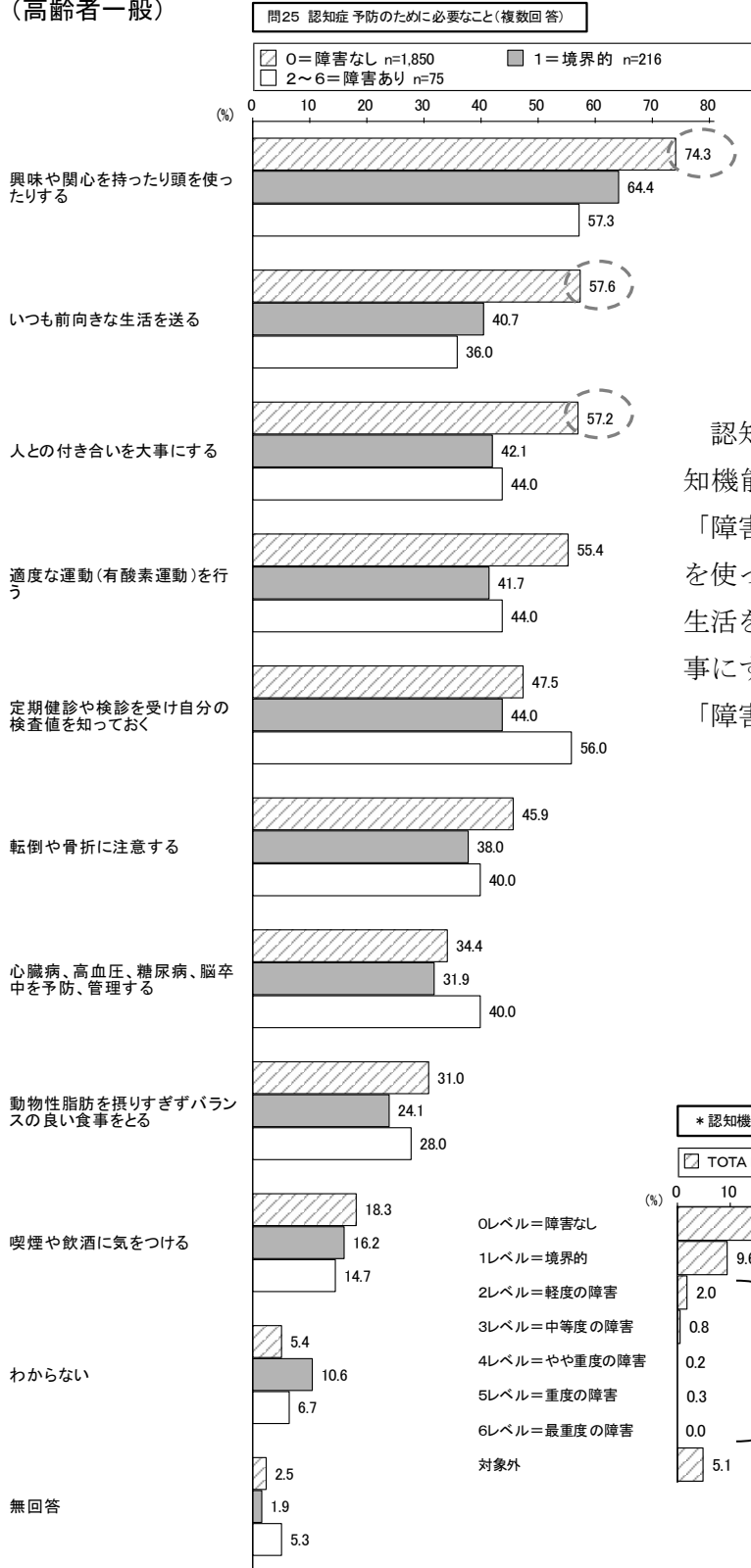
(一般 55 歳～64 歳：前回)



4 認知症について

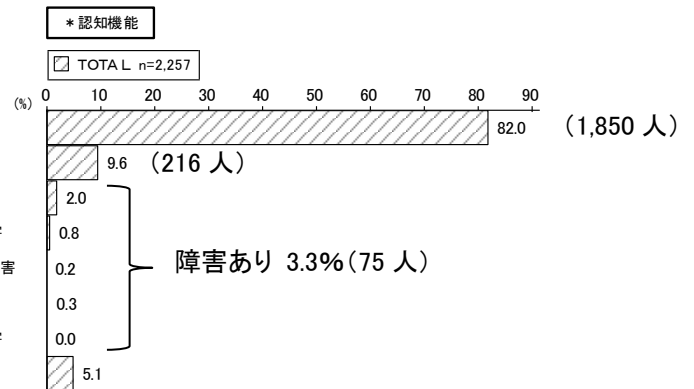
(1) 認知症予防について

(高齢者一般)



認知症予防のために必要なことについて、認知機能障害区別にみると、高齢者一般では「障害なし」では「興味や関心を持ったり、頭を使ったりする」が74.3%、「いつも前向きな生活を送る」が57.6%、「人との付き合いを大事にする」が57.2%となっており、「境界的」「障害あり」の回答を上回っている。

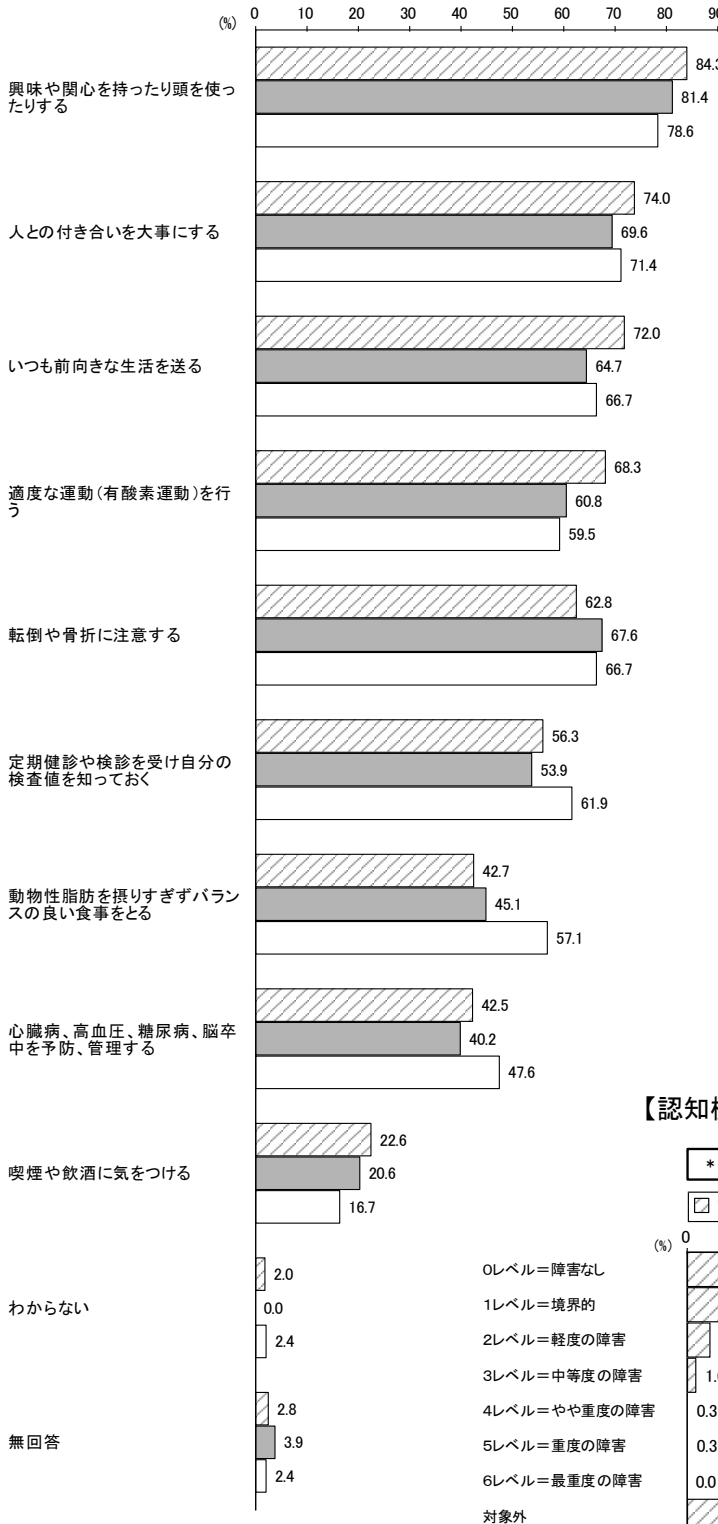
【認知機能障害区分による分布】



※点線○印は「障害あり」に比べて有意に差がみられる項目

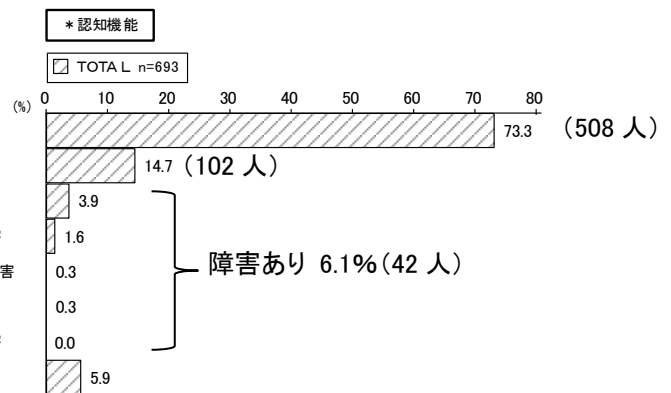
(予防)

問25 認知症 予防のために必要なこと(複数回答)



認知症予防のために必要なことについて、認知機能障害区別にみると、予防対象者のうちの「障害なし」では「興味や関心を持ったり、頭を使ったりする」が 84.3%、「人との付き合いを大事にする」が 74.0%、「いつも前向きな生活を送る」が 72.0%となっている。

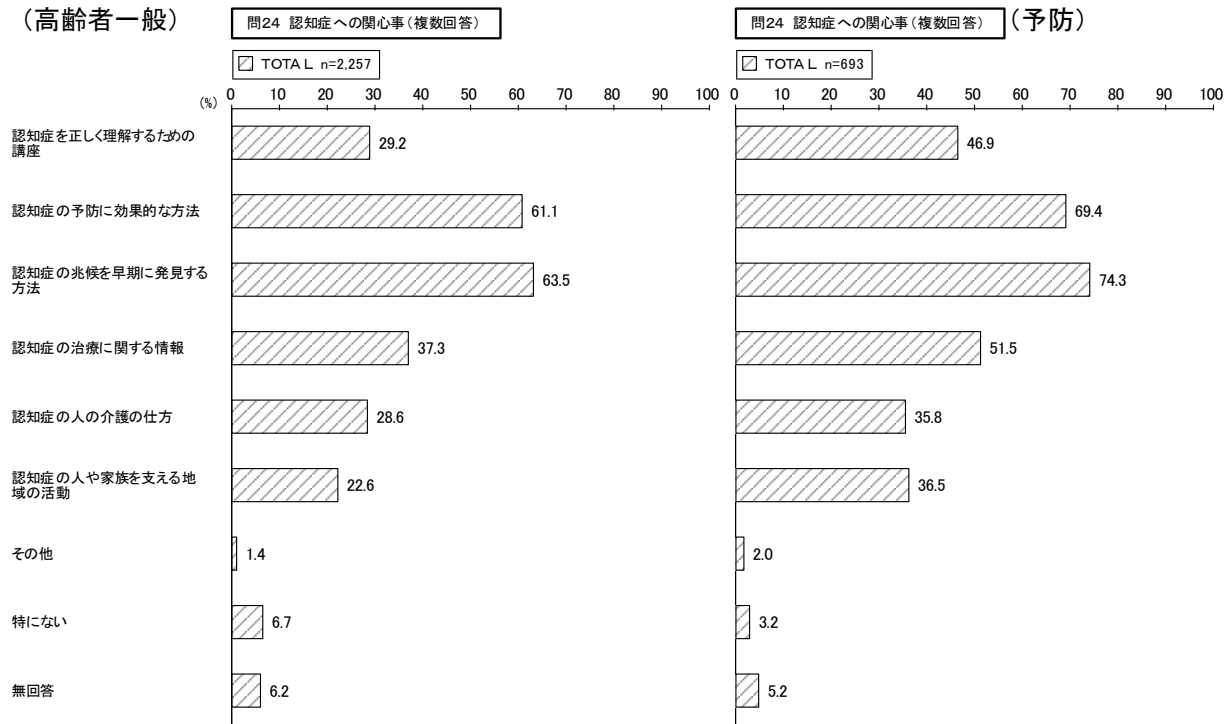
【認知機能障害区分による分布】



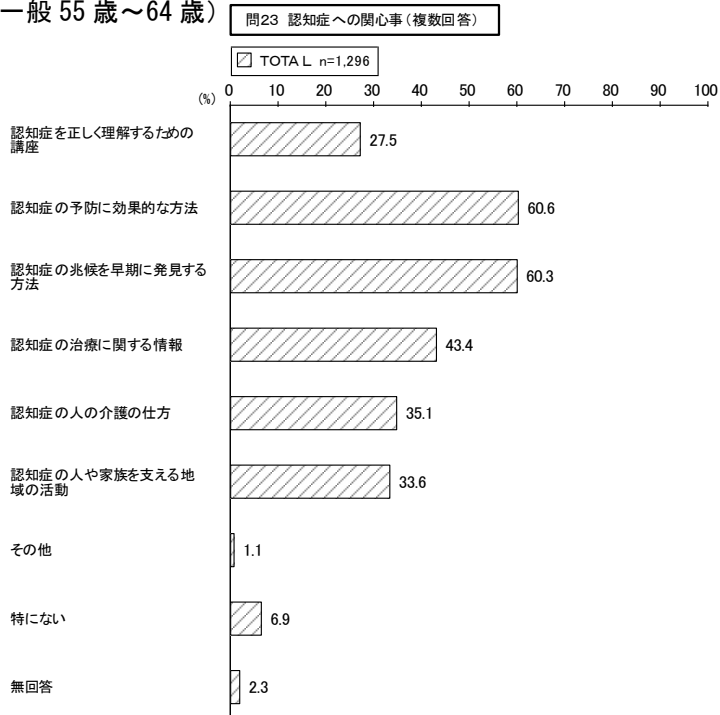
(2) 認知症についての関心事

認知症についての関心のある内容を見ると、高齢者一般、予防、一般（55～64歳）とも「認知症の兆候を早期に発見する方法」「認知症の予防に効果的な方法」への関心があるとする割合が多く、6～7割みられる。また、予防では「認知症の治療に関する情報」が51.5%、「認知症の人や家族を支える地域の活動」が36.5%、「認知症の人の介護の仕方」が35.8%となっている。一般（55～64歳）でも「認知症の人の介護の仕方」が35.1%、「認知症の人や家族を支える地域の活動」が33.6%となっている。

(高齢者一般)

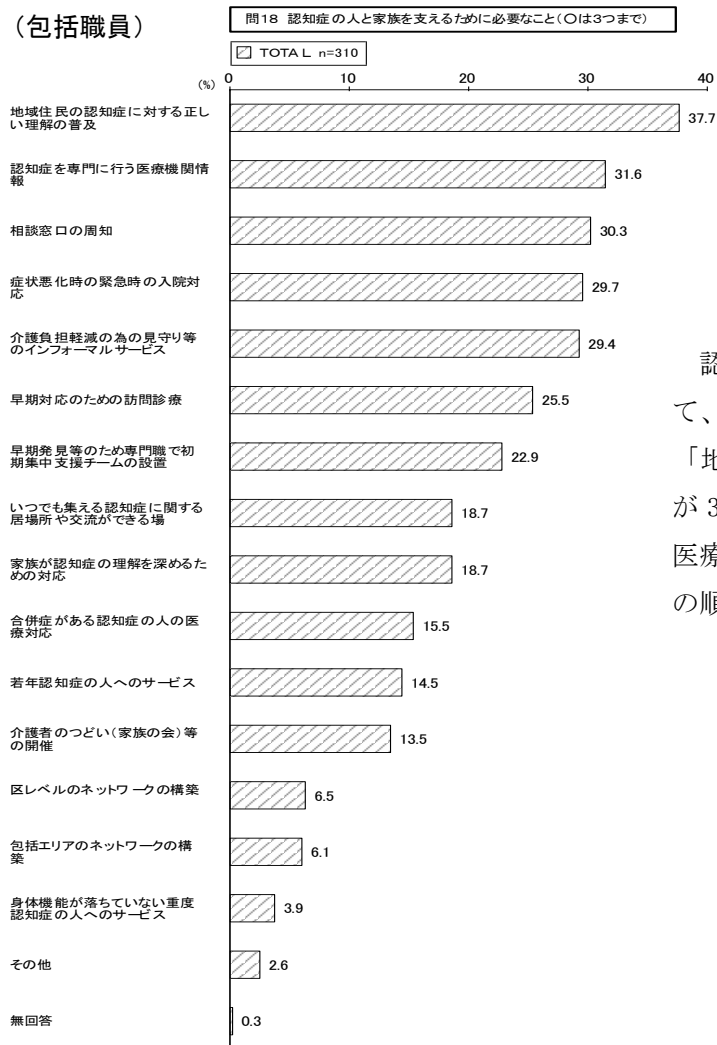


(一般 55歳～64歳)



(3) 認知症の方と家族を支えるための方策

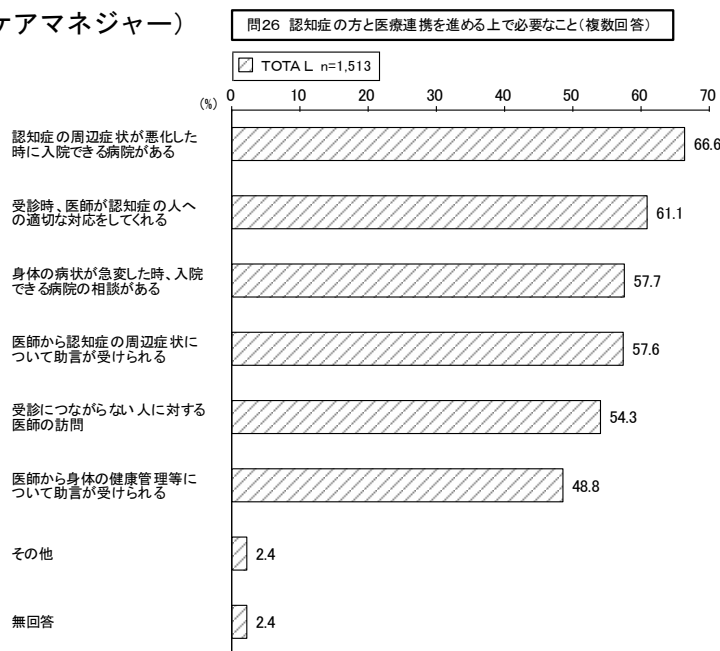
(包括職員)



認知症の方と家族を支えるための方策について、地域包括支援センター職員による回答では、「地域住民の認知症に対する正しい理解の普及」が37.7%で最も多く、以下「認知症を専門に行う医療機関情報」31.6%、「相談窓口の周知」30.3%の順となっている。

(4) 認知症の方に対する医療連携

(ケアマネジャー)

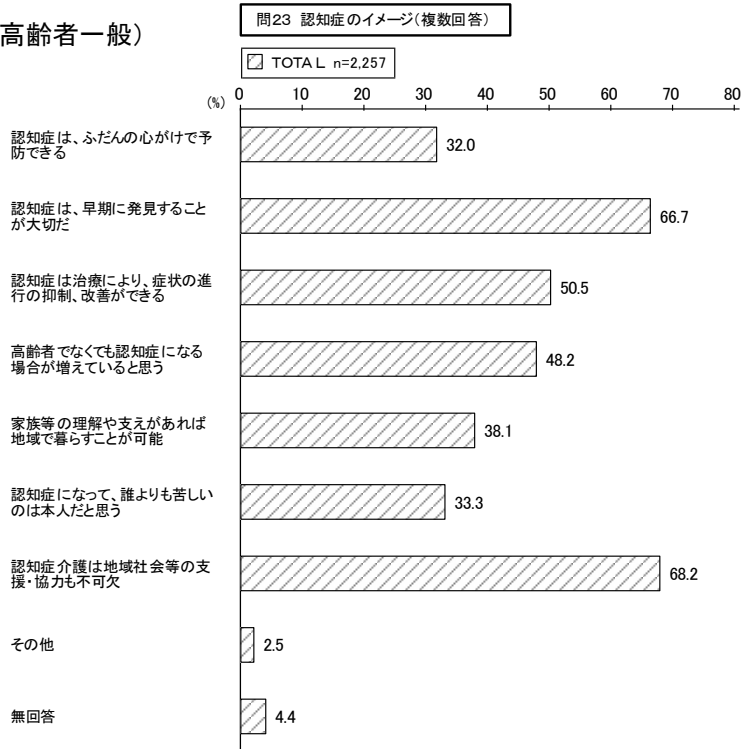


認知症の方に対する医療連携について、ケアマネジャーによる回答では「認知症の周辺症状が悪化したときに、入院できる病院があること」が66.6%で最も多く、次いで「受診時、医師が認知症の人への適切な対応をしてくれること」が61.1%と6割台の回答となっている。

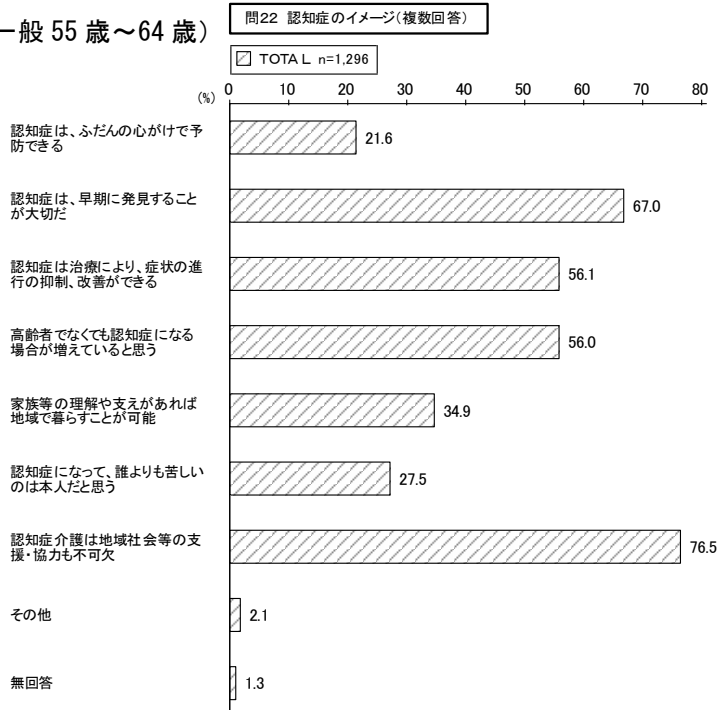
(5) 認知症のイメージ

認知症のイメージについては、「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が高齢者一般 68.2%、一般（55～64 歳） 76.5%で最も多く、「認知症は、早期に発見することが大切だ」高齢者一般 66.7%、一般（55～64 歳） 67.0%、「認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる」高齢者一般 50.5%、一般（55～64 歳） 56.1%の順となっている。

(高齢者一般)



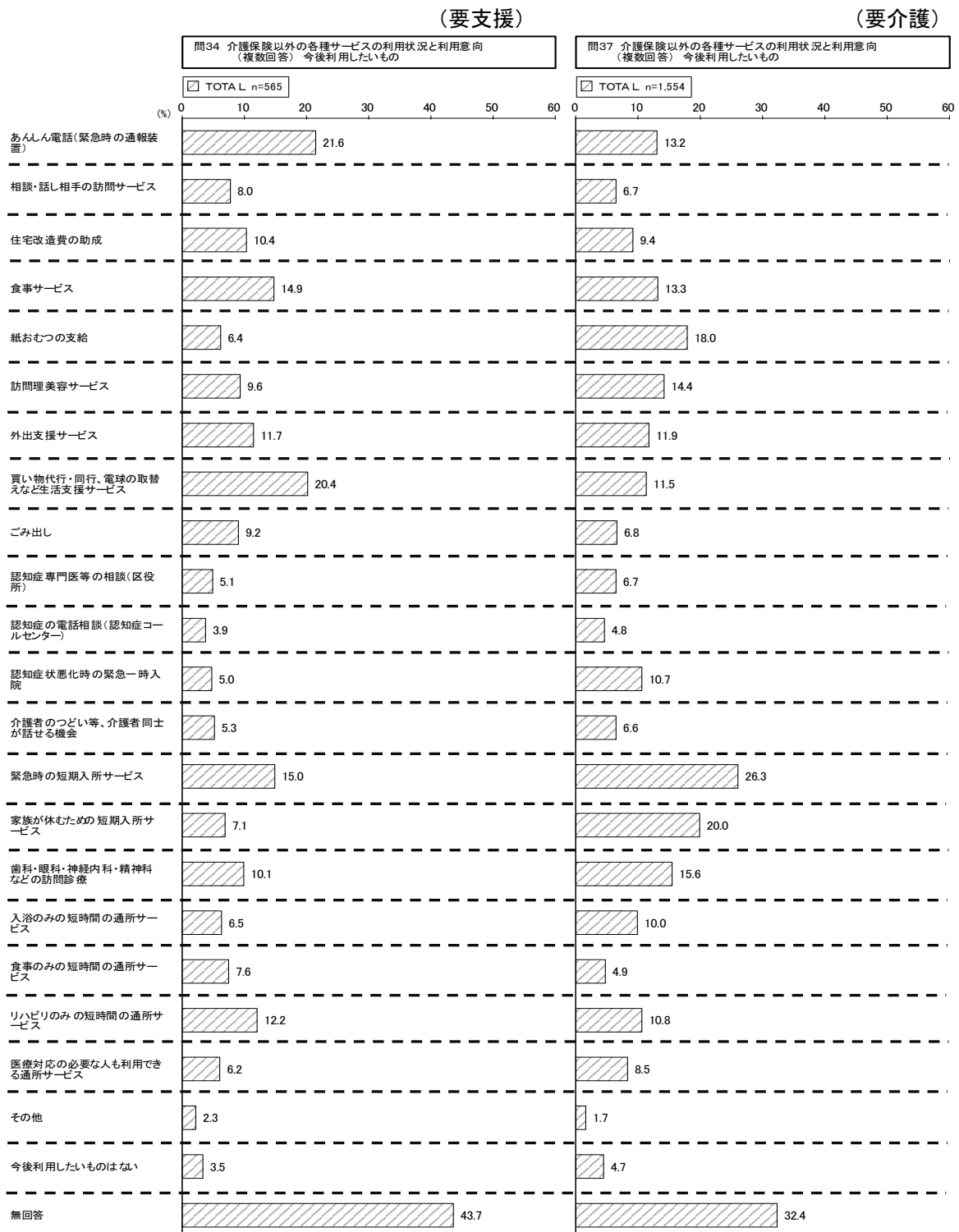
(一般 55 歳～64 歳)



5 生活支援

(1) 今後利用したい介護保険以外のサービス

今後利用したい介護保険以外のサービスについては、要支援では「あんしん電話（緊急時の通報装置）」21.6%、「買い物代行・同行、部屋の電球の取替えなど、ちょっとした生活支援サービス」20.4%など、自立生活を支援するサービスへの利用意向が多くなっている。一方、要介護では「緊急時の短期入所サービス」26.3%、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」「家族が休むための短期入所サービス」がともに20.0%、「紙おむつの支給」18.0%など、短期入所や医療対応、介護用品などの利用意向が多くなっている。

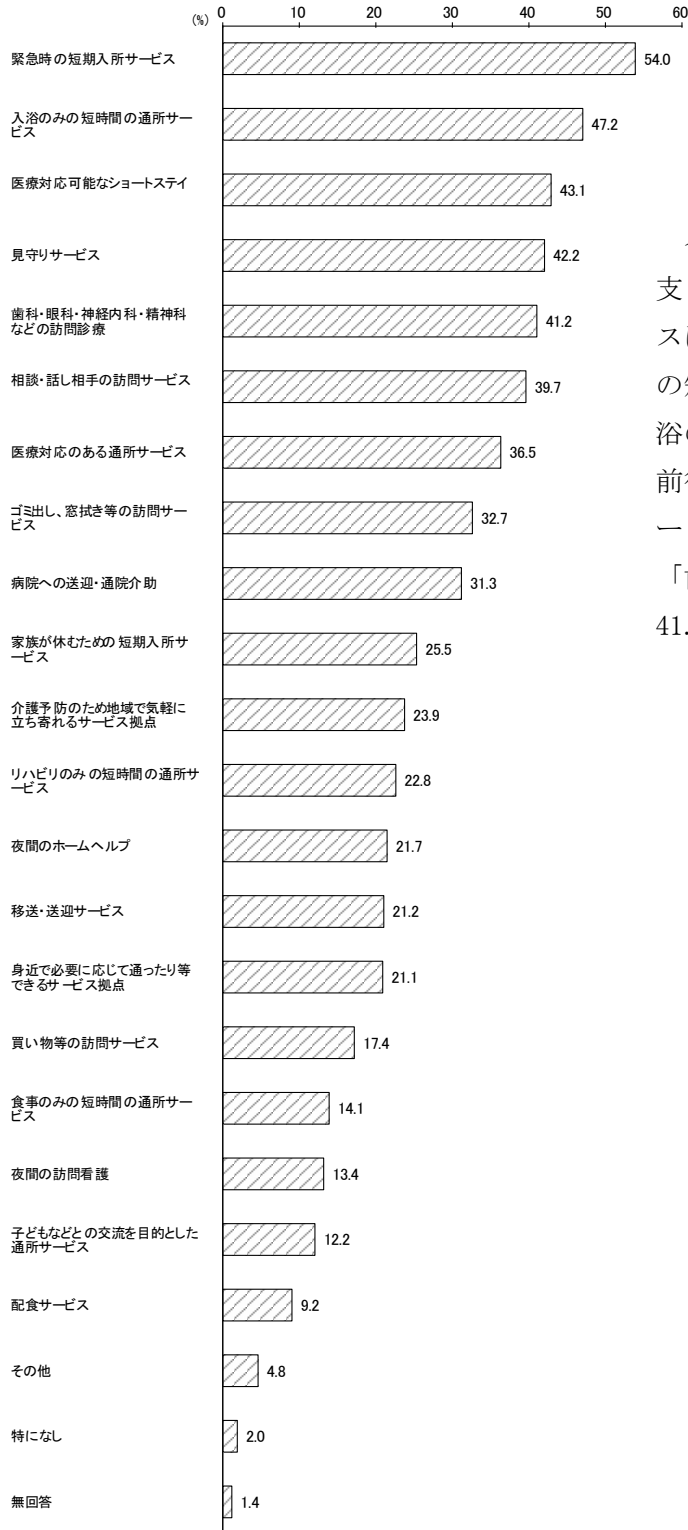


(2) 在宅生活支援に必要なサービス

(ケアマネジャー)

問17 担当地域での在宅生活支援に必要なサービス(複数回答)

TOTAL n=1,472

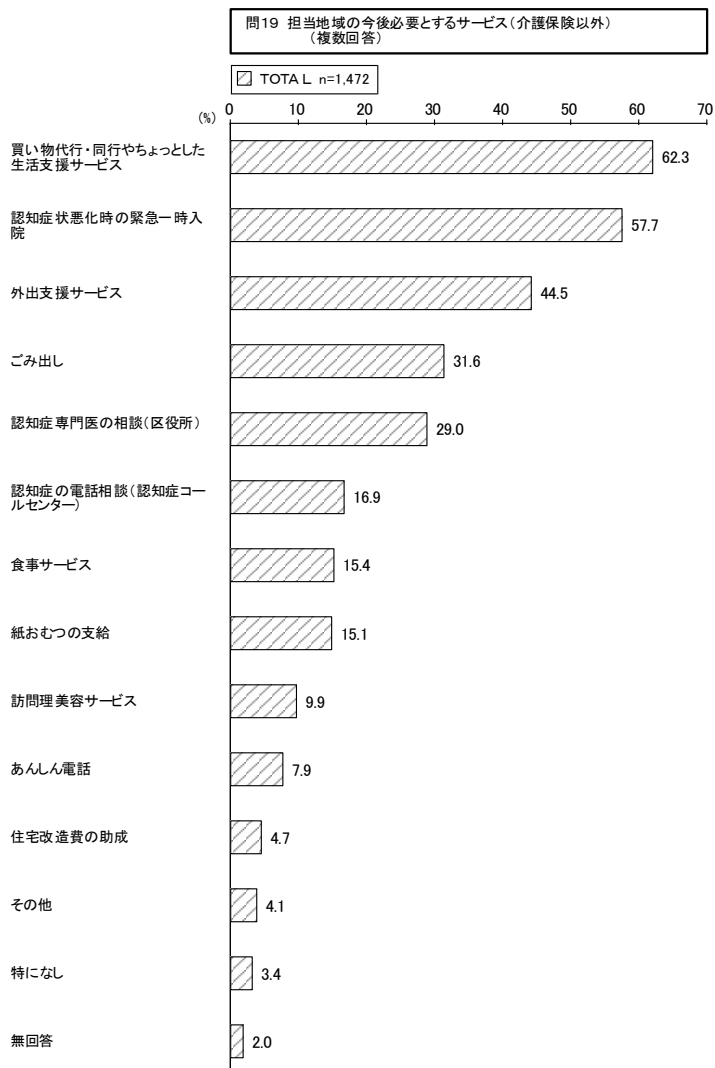


インフォーマルなサービスを含め、在宅生活を支えるために今後充実が必要だと感じるサービスについて、ケアマネジャーの回答では「緊急時の短期入所サービス」が 54.0%で最も多く、「入浴のみの短時間の通所サービス」47.2%と、5割前後となっている。次いで「医療対応可能なショートステイ」43.1%、「見守りサービス」42.2%、「歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療」41.2%の順となっている。

(3) 充実が必要な介護保険以外のサービス

今後充実が必要だと思う介護保険以外のサービスについて、ケアマネジャーの回答では「買い物代行・同行やちょっとした生活支援サービス」が62.3%で最も多く、以下「認知症状悪化時の緊急一時入院」57.7%、「外出支援サービス」44.5%の順となっている。

(ケアマネジャー)

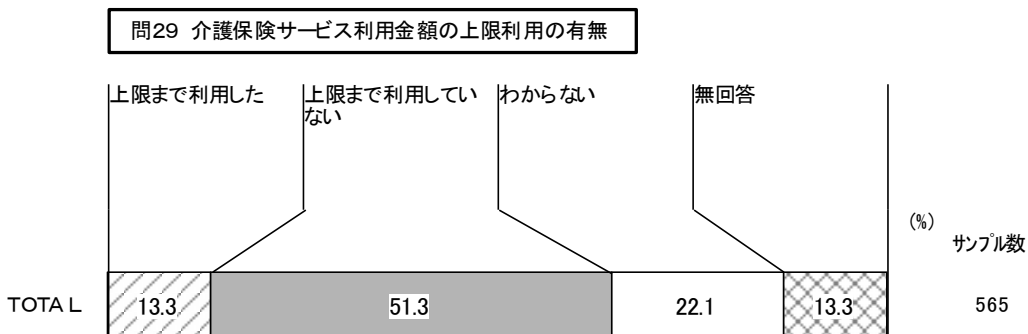


6 介護

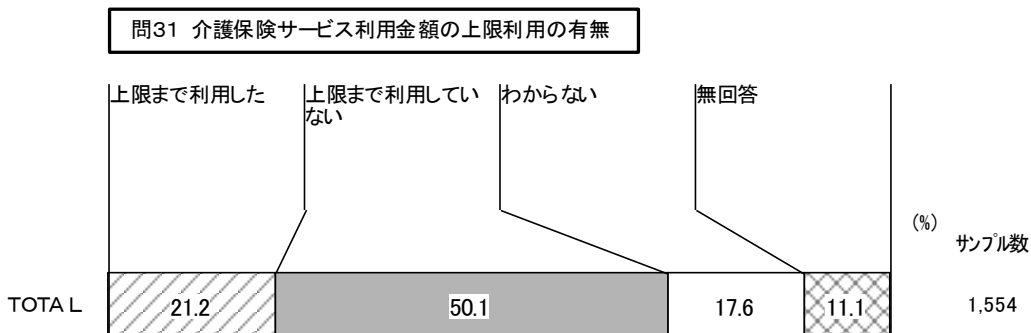
(1) 限度額に対する利用状況

介護保険サービスについて、限度額（利用料金の上限）に対する利用状況をみると、「上限まで利用した」とする割合は、要支援 13.3%、要介護 21.2%、特養申込者 37.4%となっている。

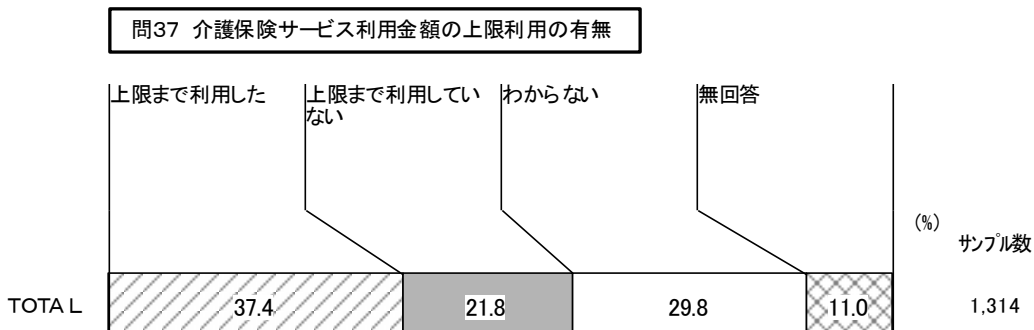
(要支援)



(要介護)



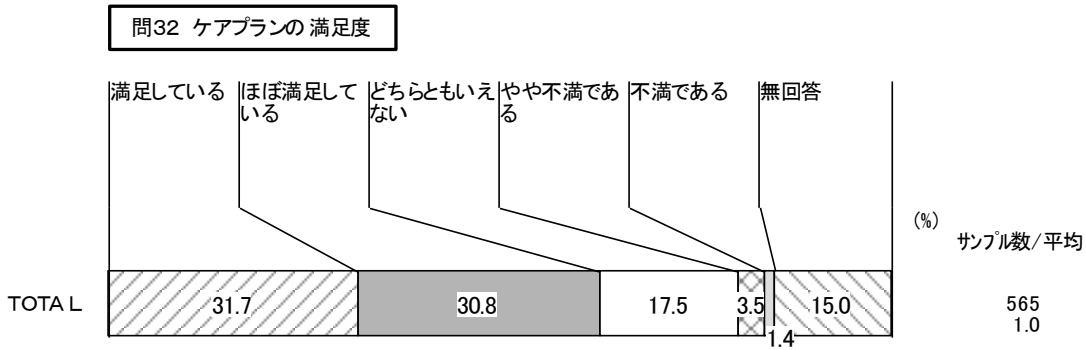
(特養申込者)



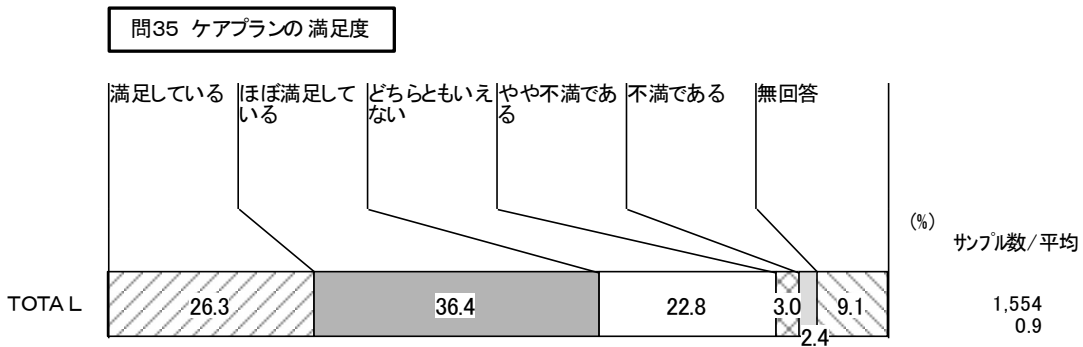
(2) ケアプランの満足度

ケアプランの満足度をみると、「満足している」「ほぼ満足している」を合わせて、満足していると
する割合は、要支援、要介護とも6割（要支援：62.5%、要介護：62.7%）となっている。

(要支援)

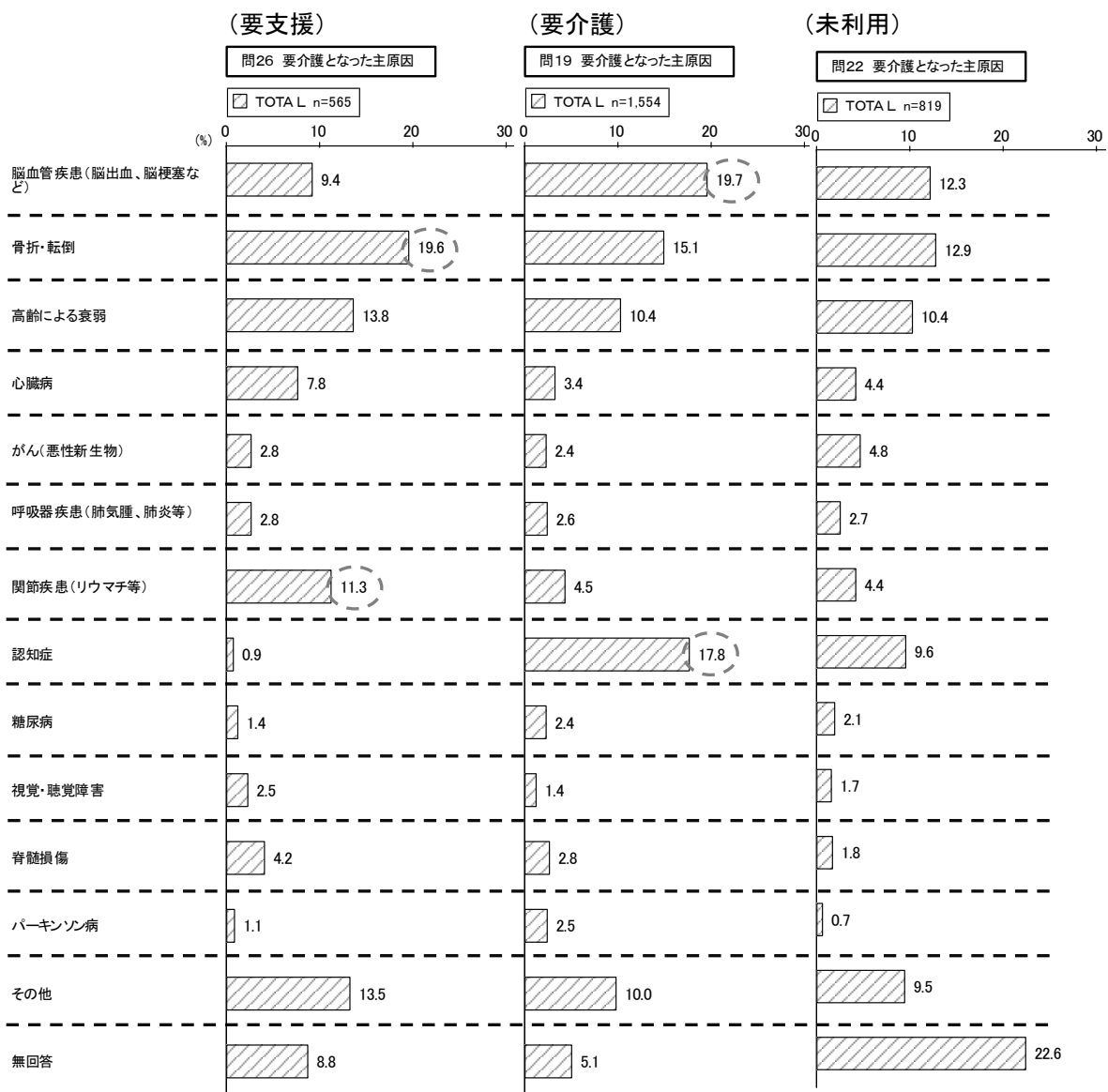


(要介護)



(3) 介護が必要になった理由（主原因の傷病）

介護が必要になった主な原因（傷病）についてみると、要支援では「骨折・転倒」が19.6%で最も多く、「高齢による転倒」13.8%、「関節疾患」11.3%の順となっている。要介護では「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」が19.7%、「認知症」17.8%、「骨折・転倒」15.1%の順となっている。未利用では、「骨折・転倒」が12.9%、「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」12.3%、「高齢による衰弱」10.4%、「認知症」9.6%の順となっている。

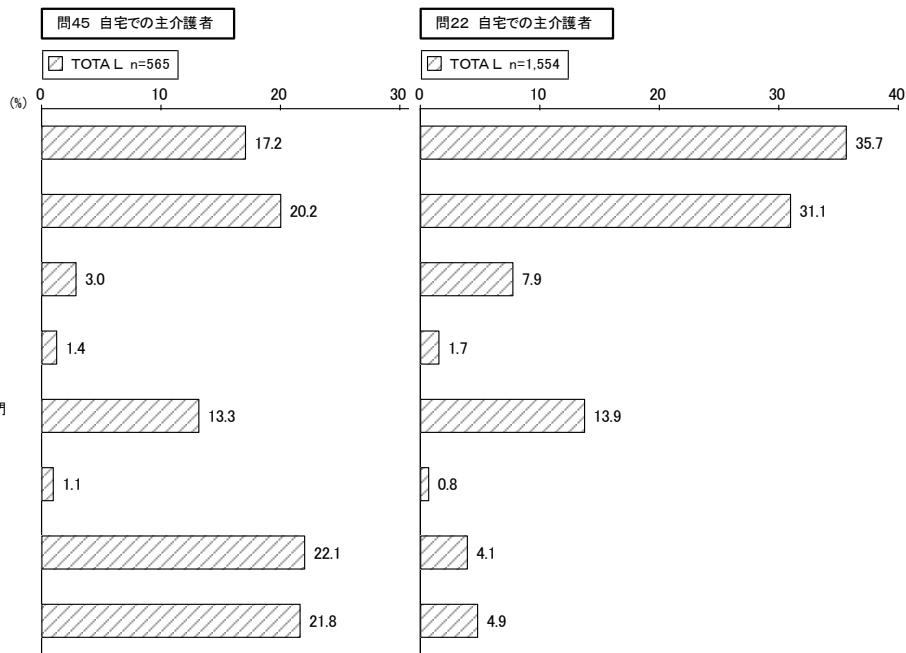


※ 点線○印は、主原因が他の調査に比べて有意に差がみられる項目

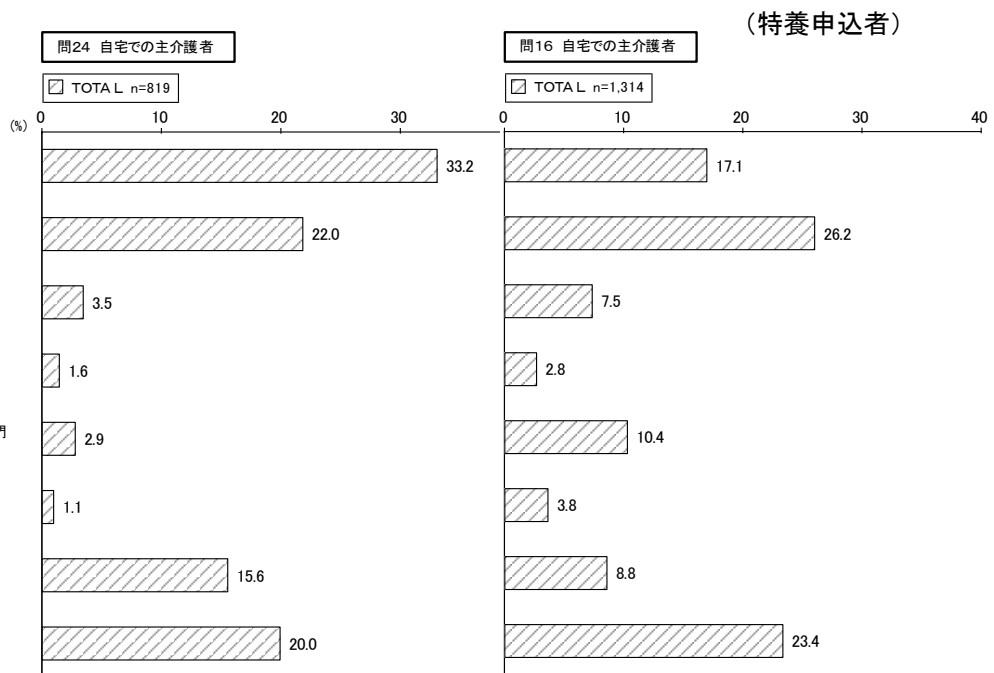
(4) 主な介護者

自宅での主な介護者をみると、要介護、未利用では「配偶者」が3割（要介護 35.7%、未利用 33.2%）となっている。また要介護では「子」が 31.1%となっている。要支援、要介護、特養申込者では、「ホームヘルパー等介護の専門職」がそれぞれ1割（要支援：13.3%、要介護：13.9%、特養申込者：10.4%）となっている。一方、要支援では「介護している人はいない」が 22.1%となっている。

(要支援)



(未利用)

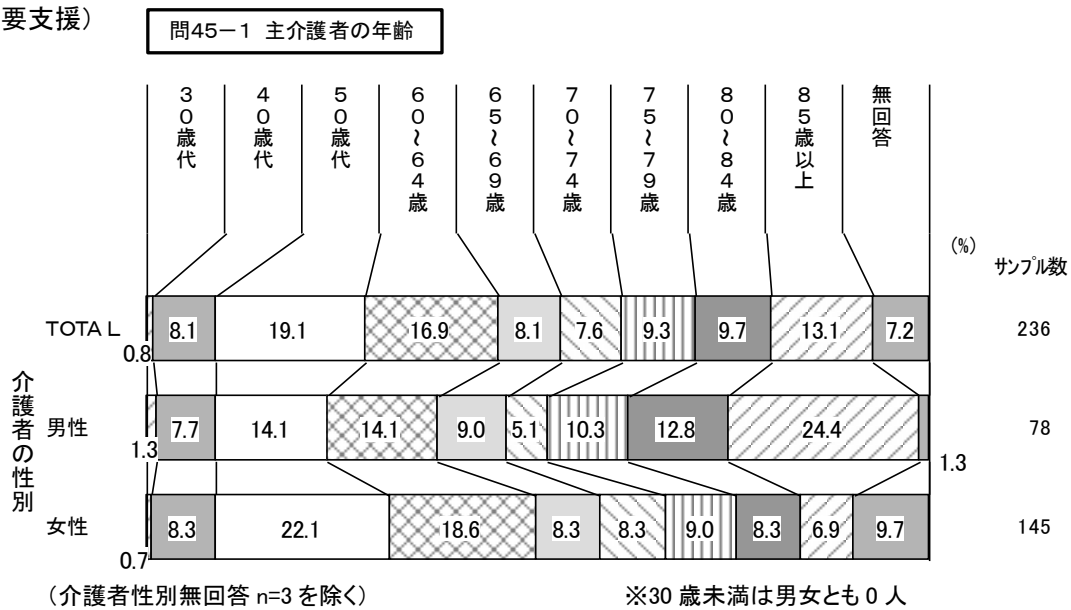


(5) 主たる介護者の年齢と健康状況

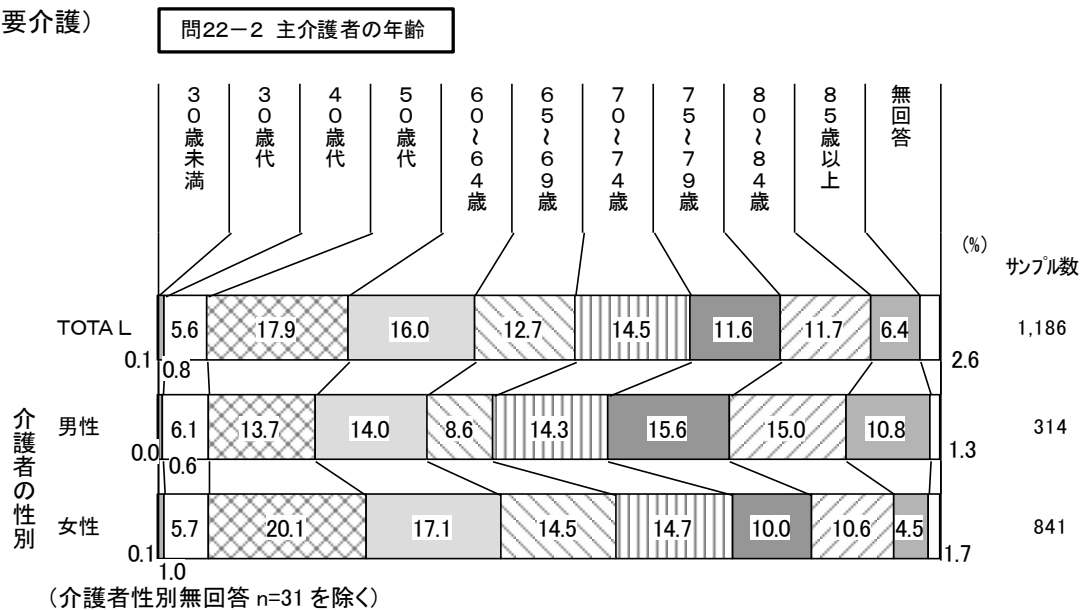
①年齢

主たる介護者の年齢をみると、75歳以上（後期高齢者）の割合は未利用で約4割（38.9%）、要支援（32.1%）、要介護（29.7%）が3割前後、特養申込者 25.6%となっている。介護者の性別でみると、要支援、要介護、未利用、特養申込者それぞれで女性介護者に比べて男性介護者の年齢が高く、未利用の男性介護者の半数（55.6%）は75歳以上である。また要支援の男性介護者のうち2割（24.4%）は85歳以上となっている。

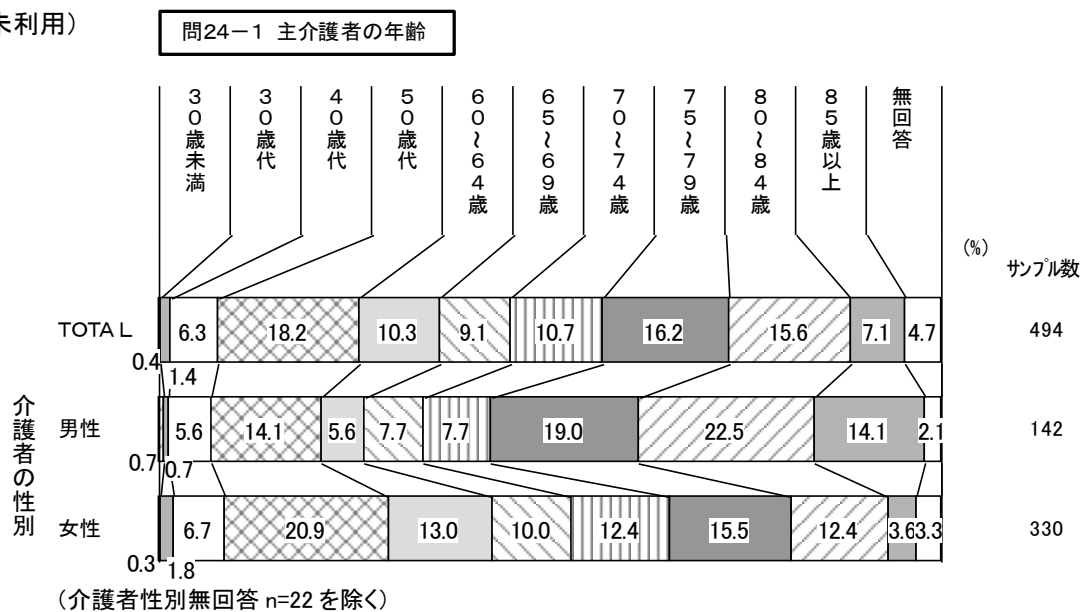
(要支援)



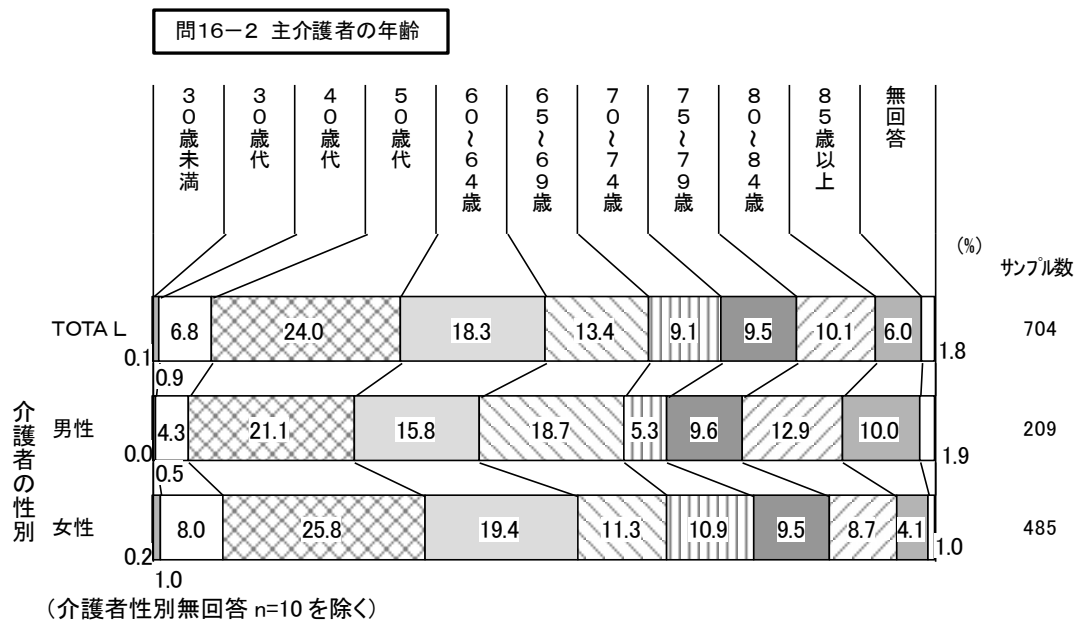
(要介護)



(未利用)



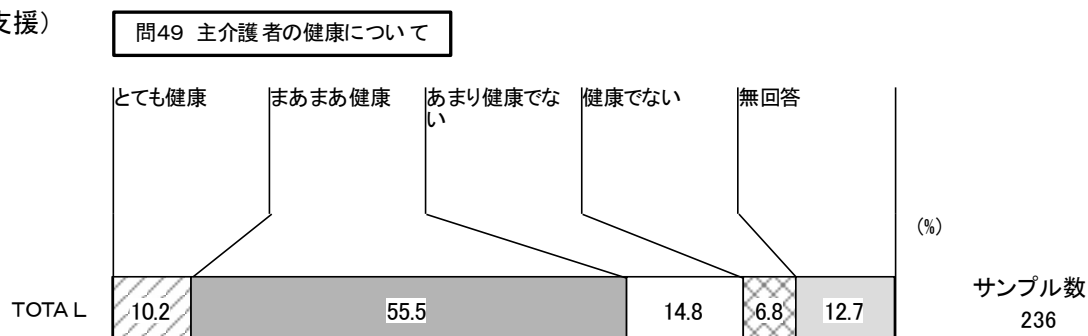
(特養申込者)



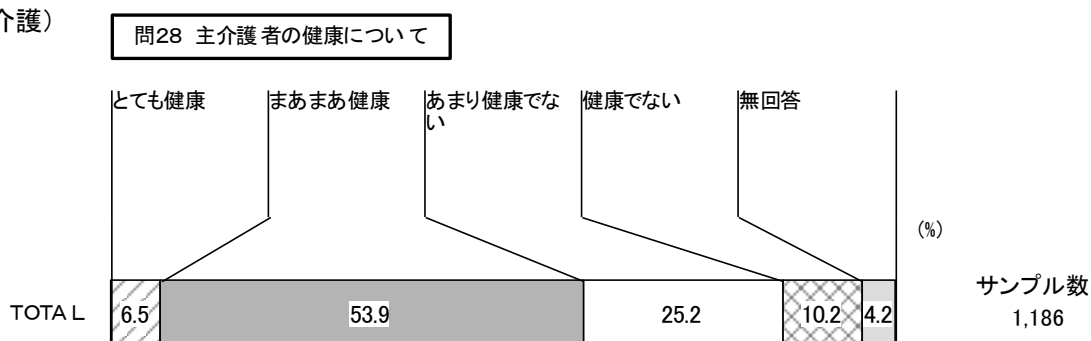
②健康状況

介護者の健康状況をみると、「とても健康」「まあまあ健康」を合わせた、健康であるとする割合は、要支援、要介護の介護者の6割（要支援：65.7%、要介護：60.4%）であるのに対し、特養申込者の介護者では48.7%となっている。

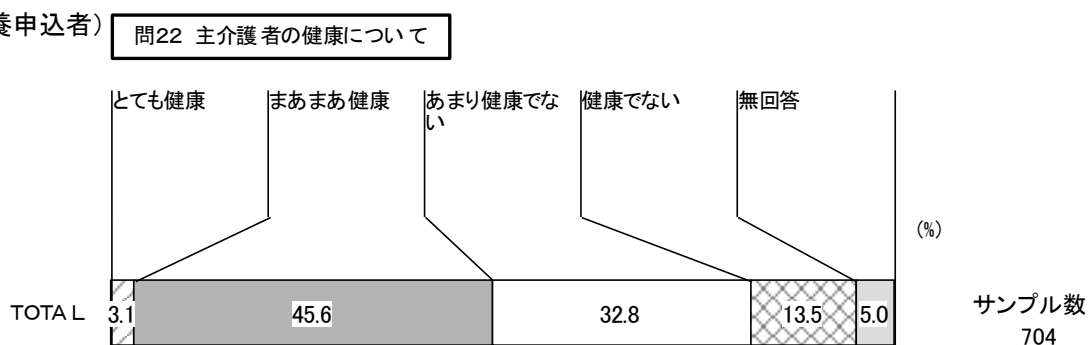
(要支援)



(要介護)



(特養申込者)



(6) 介護負担・困りごと

〔意思疎通〕

要介護の介護者では、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」が 33.9%（前回 33.5%）、「本人の言動が理解できないことがある」30.3%（前回 32.9%）が 3 割を超えている。

特養申込者の介護者では、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」が 57.7%（前回 56.9%）、「本人の言動が理解できないことがある」が 47.0%（前回 51.9%）で 5 割前後となっている。

〔介護の仕方〕

要支援の介護者では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 18.2%（前回 23.9%）となっている。

要介護の介護者では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 43.8%（前回 48.7%）となっている。また「症状への対応がわからない」13.3%（前回 13.5%）、「他の家族等に介護を協力してもらえない」13.0%（前回 7.8%）、「適切な介護方法がわからない」10.7%（前回 10.1%）がそれぞれ 1 割みられる。

特養申込者の介護者では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 56.5%（前回 58.1%）となっているほか、「他の家族等に介護を協力してもらえない」が 31.8%（前回 19.2%）、「症状への対応がわからない」が 22.2%（前回 20.0%）、「適切な介護方法がわからない」が 19.7%（前回 17.1%）となっている。

〔サービス利用〕

要介護の介護者では、「サービスを思うように利用できない、サービスが足りない」が 10.4%（前回 11.0%）となっている。

特養申込者の介護者では、「サービスを思うように利用できない、サービスが足りない」が 15.6%（前回 17.3%）となっている。

〔介護者自身のこと〕

要支援の介護者では、「精神的なストレスがたまっている」が 12.7%（前回 23.9%）、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が 11.4%（前回 20.7%）と 1 割を超えている。

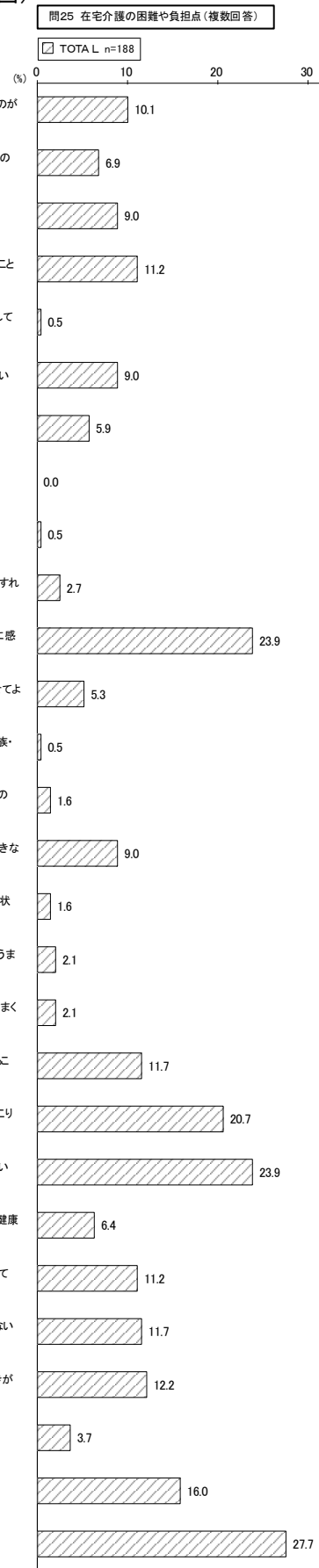
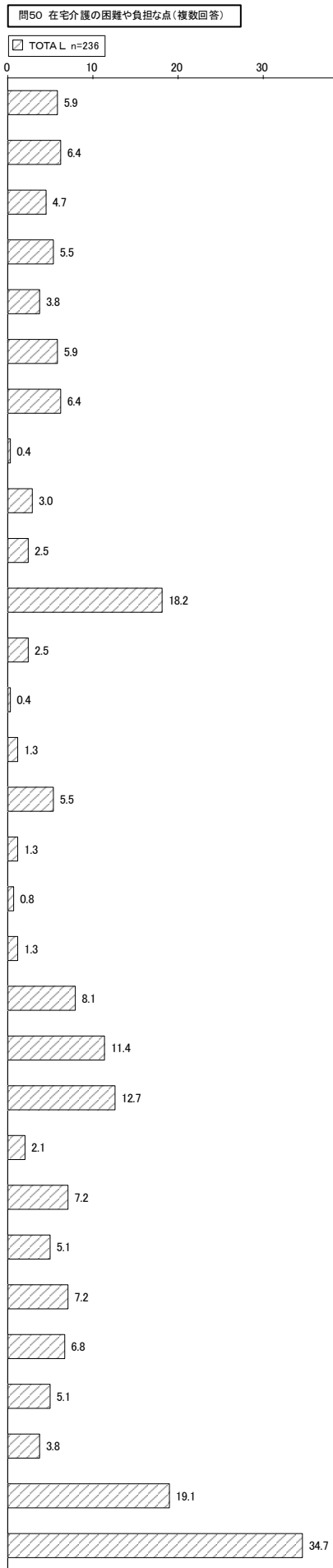
要介護の介護者では、「精神的なストレスがたまっている」が 49.6%（前回 54.0%）で約 5 割となっているほか、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が 34.2%（前回 33.7%）、「自分の自由になる時間が持てない」が 32.3%（前回 39.1%）で 3 割となっている。

特養申込者の介護者では、「精神的なストレスがたまっている」が 74.3%（前回 75.5%）で 7 割となっているほか、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が 54.5%（前回 56.9%）、「自分の自由になる時間が持てない」が 50.7%（前回 54.8%）で 5 割となっている。

(要支援)

(要支援：前回)

- 意思疎通
- 介護の仕方
- サービス利用
- 介護者自身のこと



(要介護)

(要介護：前回)

意思疎通

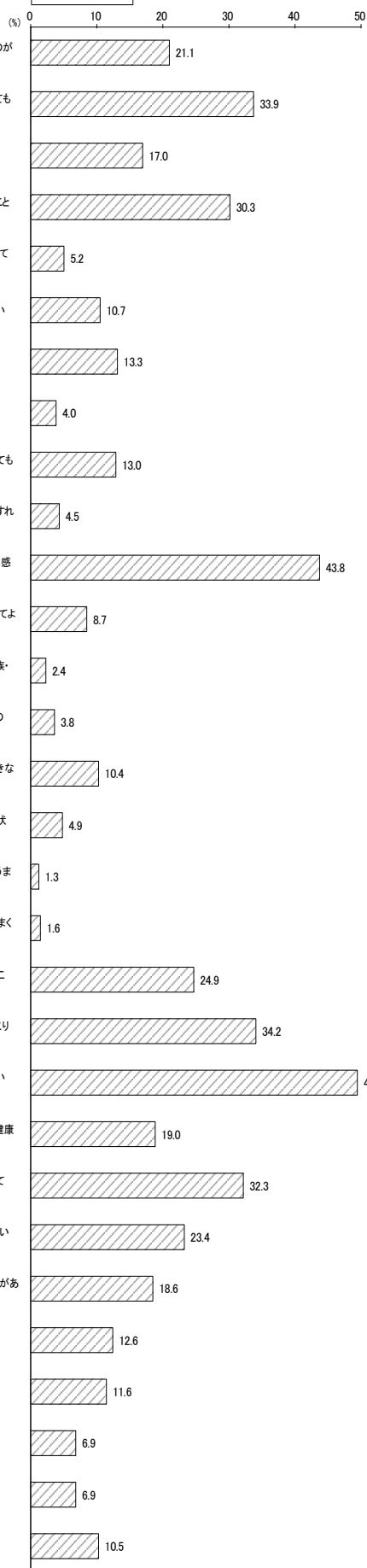
介護の仕方

サービス利用

介護者自身のこと

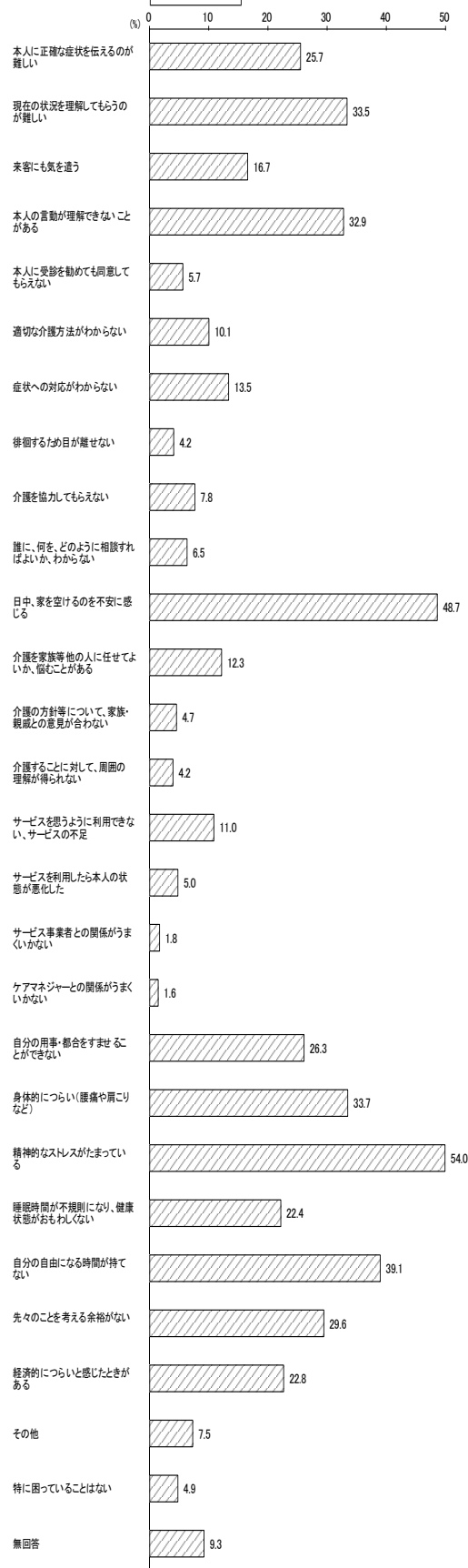
問29 在宅介護の困難や負担な点(複数回答)

TOTAL n=1,186



問24 在宅介護の困難や負担な点(複数回答)

TOTAL n=1,203



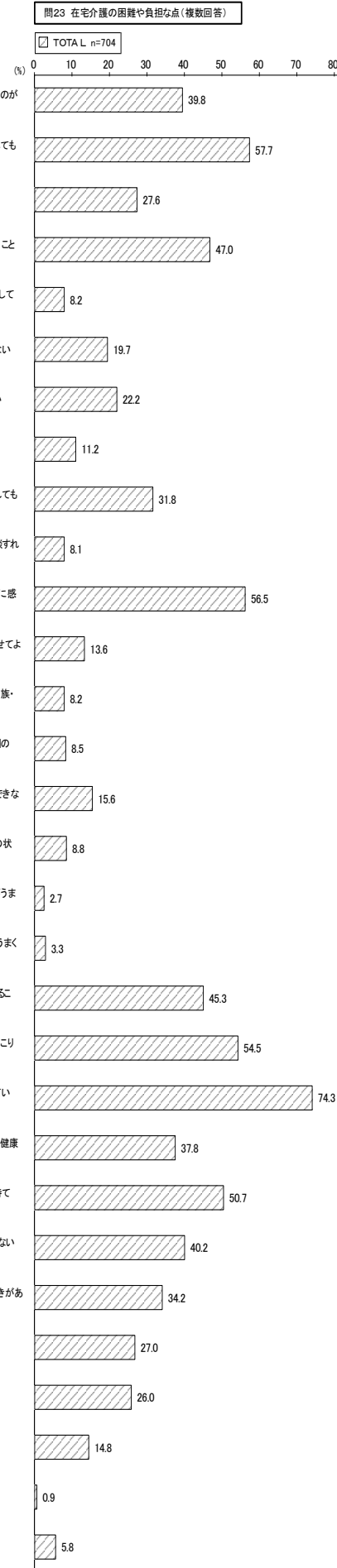
意思疎通

介護の仕方

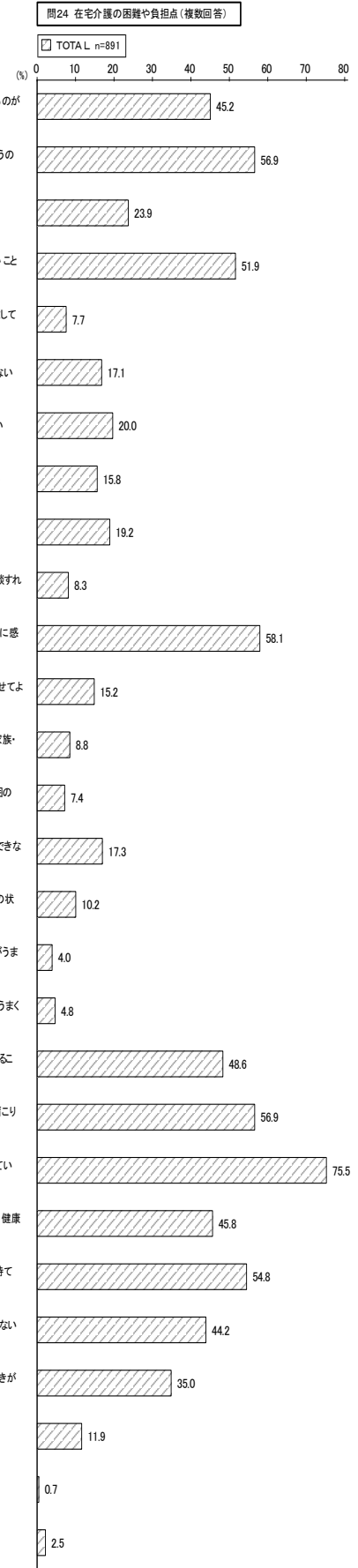
サービス利用

介護者自身のこと

(特養申込者)



(特養申込者: 前回)

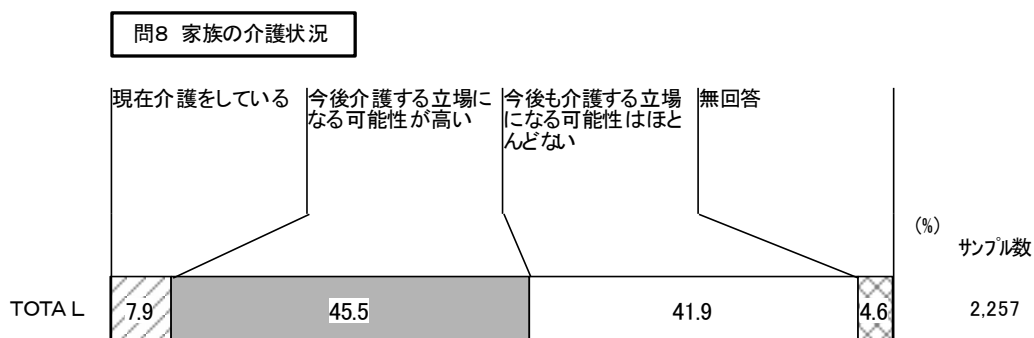


(7) 家族の介護状況

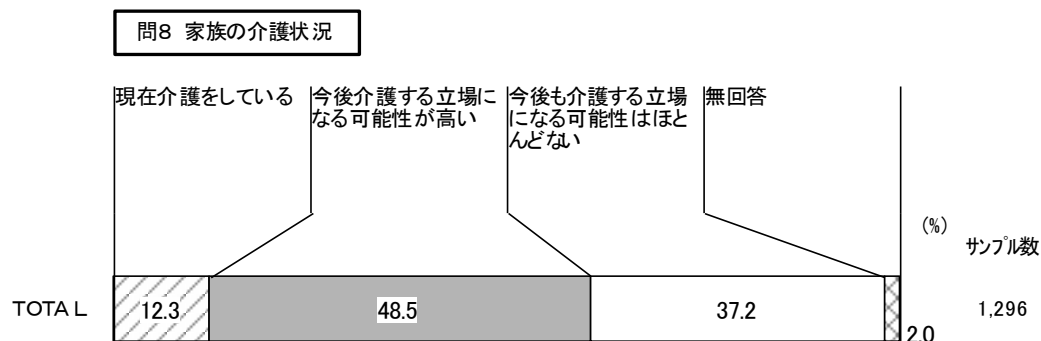
家族の介護状況を見ると、高齢者一般では「現在介護をしている」「現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い」を合わせて、5割(53.4%)が介護に関わることになるとしている。

一般(55~64歳)では「現在介護をしている」「現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い」を合わせて、6割(60.8%)が介護に関わることになるとしている。

(高齢者一般)



(一般 55歳~64歳)

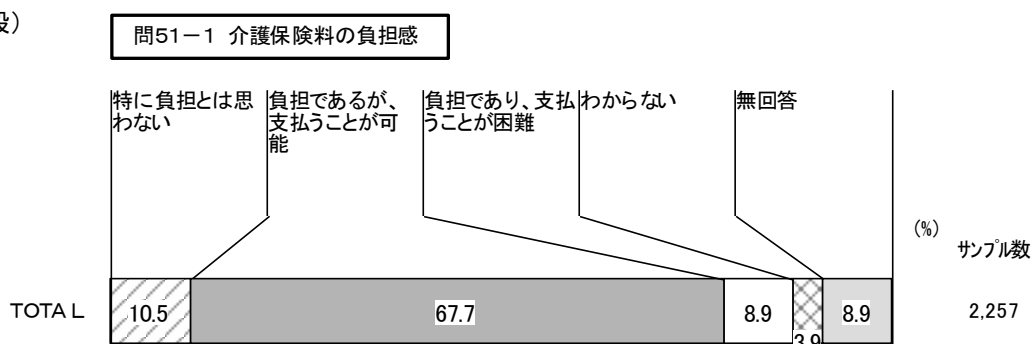


7 介護保険料

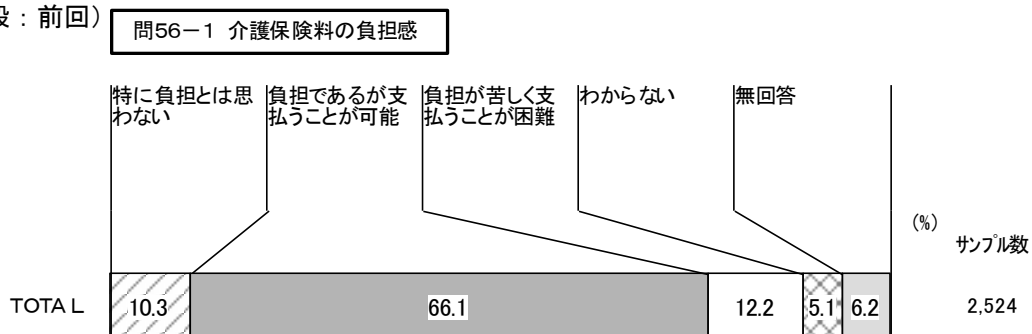
(1) 介護保険料の負担感

介護保険料の負担感については、前回と比較して回答割合に大きな変化はみられず、「特に負担とは思わない」「負担であるが、支払うことが可能」を合わせた割合は高齢者一般で78.2%（前回76.4%）、予防76.9%（前回69.1%）、要支援73.8%（前回75.7%）、要介護72.2%（前回75.5%）、未利用60.8%（前回70.1%）、特養申込者75.8%（前回75.4%）となっている。

(高齢者一般)

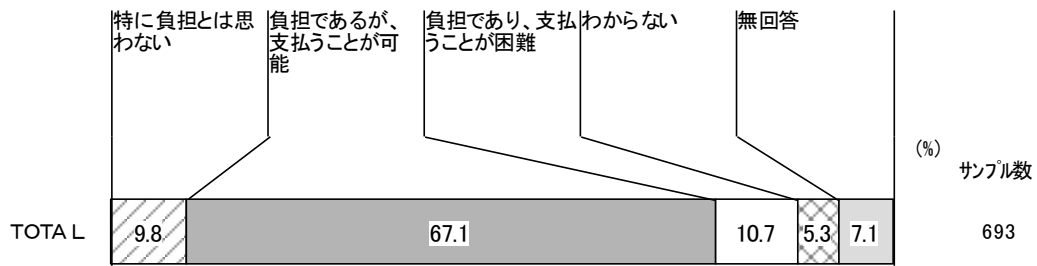


(高齢者一般：前回)



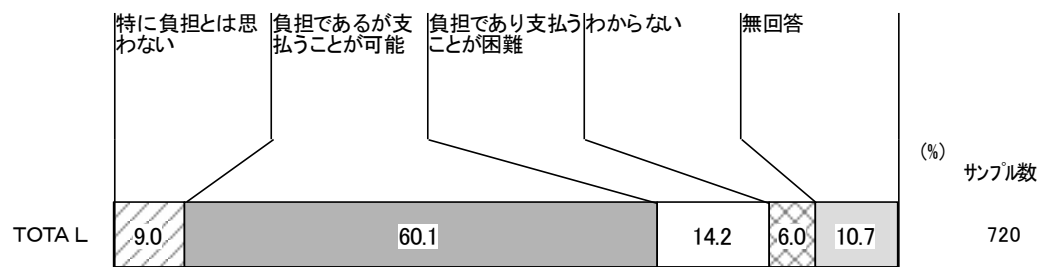
(予防)

問52-1 介護保険料の負担感



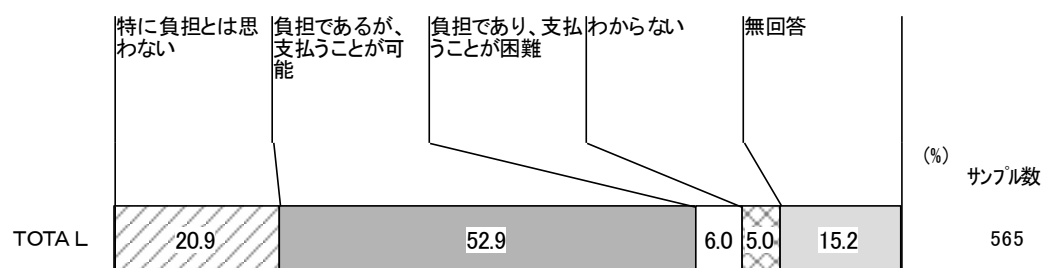
(予防：前回)

問53-1 介護保険料の負担感



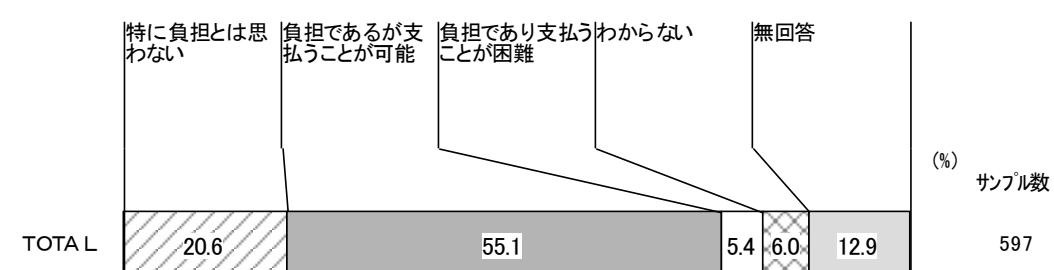
(要支援)

問54-1 介護保険料の負担感



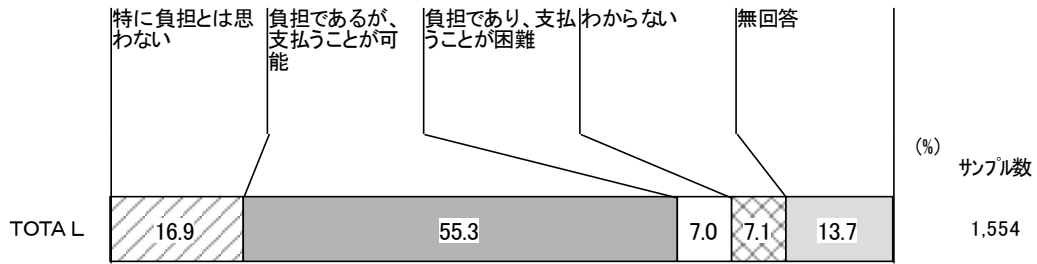
(要支援：前回)

問57-1 介護保険料の負担感



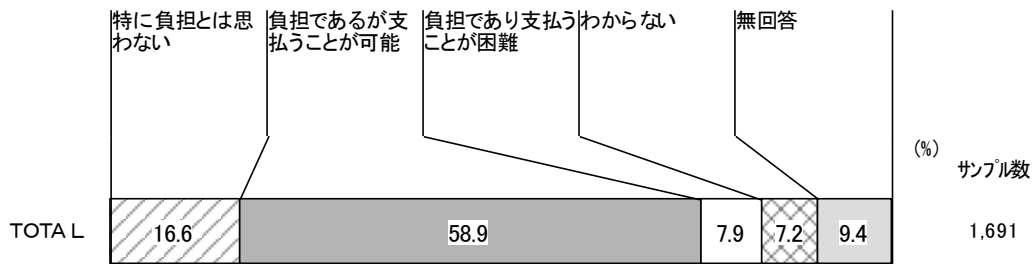
(要介護)

問43-1 介護保険料の負担感



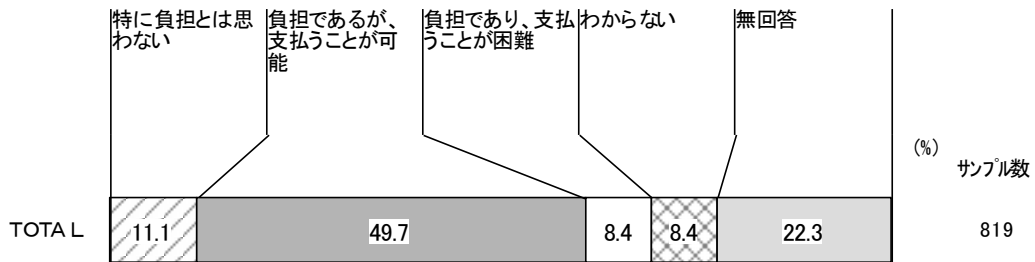
(要介護：前回)

問46-1 介護保険料の負担感



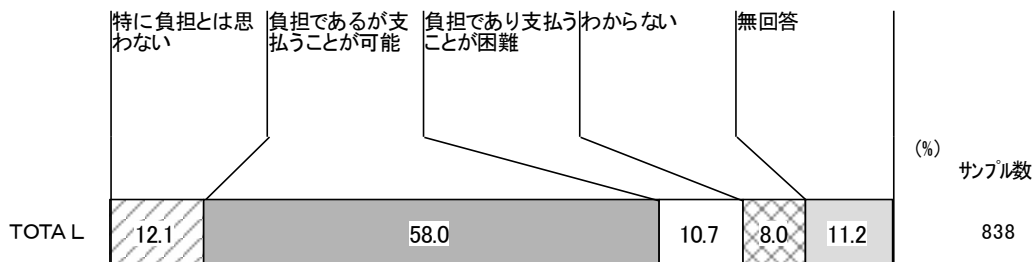
(未利用)

問41-1 介護保険料の負担感

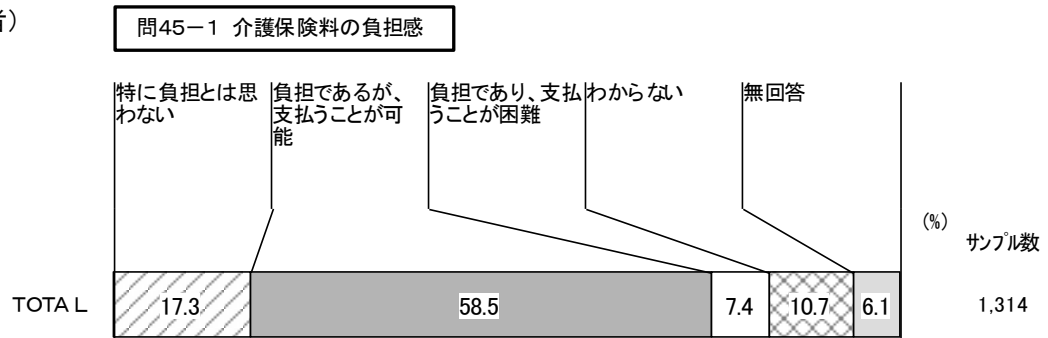


(未利用：前回)

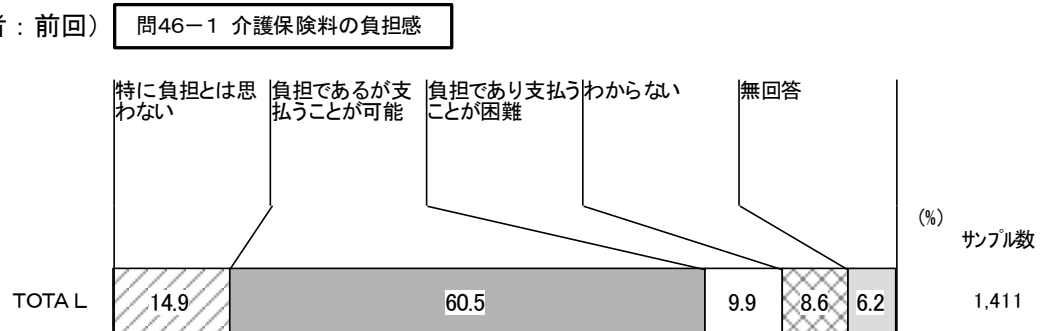
問41-1 介護保険料の負担感



(特養申込者)



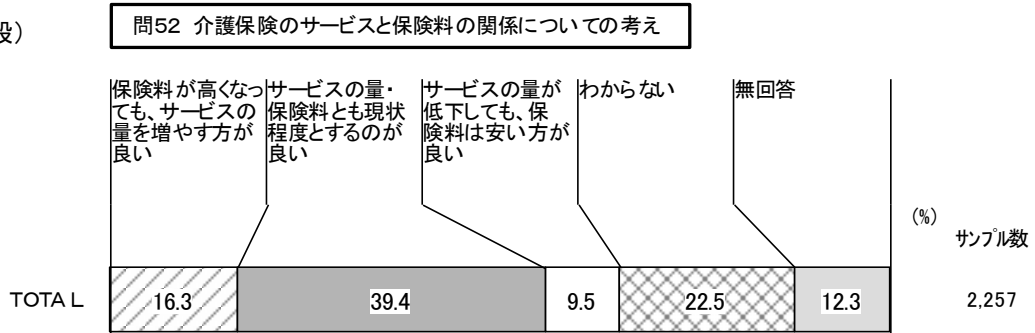
(特養申込者：前回)



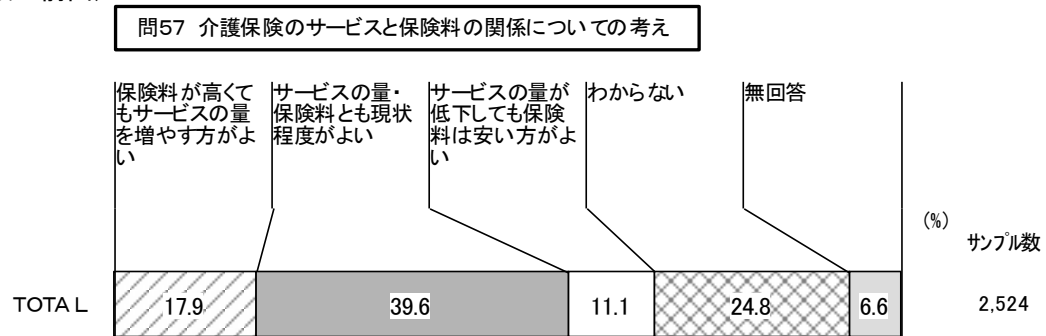
(2) 介護サービスと保険料の関係について

介護サービスと保険料の関係については、前回と比較して回答割合に大きな変化はみられず、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」「施設や在宅サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とするのが良い」を合わせた割合は高齢者一般で 55.7% (前回 57.5%)、予防 56.8% (前回 55.9%)、要支援 63.4% (前回 62.2%)、要介護 67.7% (前回 59.9%)、未利用 47.8% (前回 52.6%)、特養申込者 70.1% (前回 69.5%) となっている。

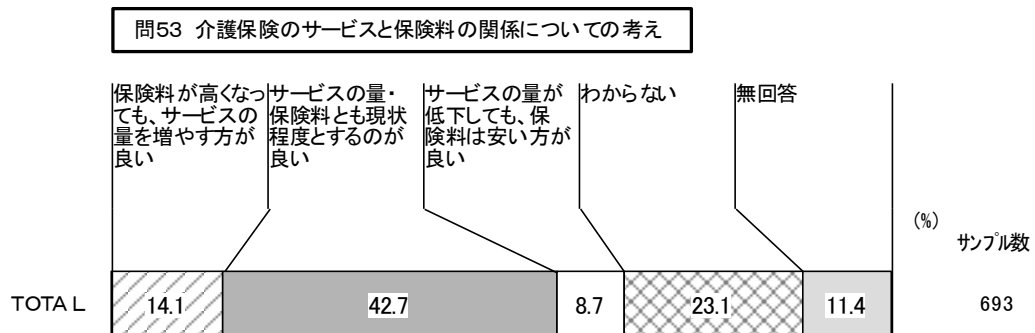
(高齢者一般)



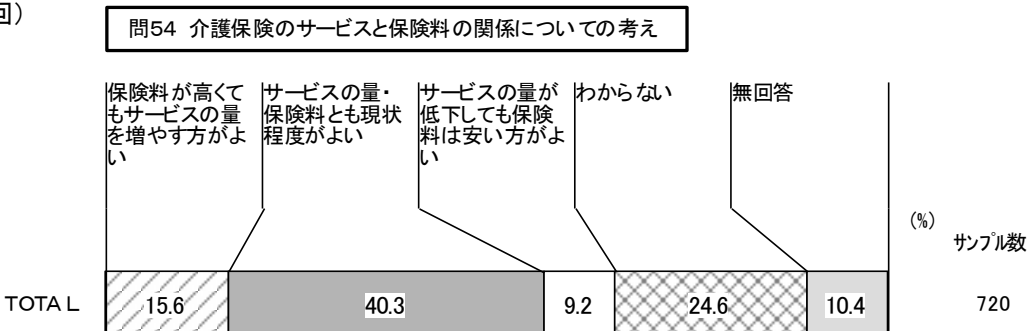
(高齢者一般：前回)



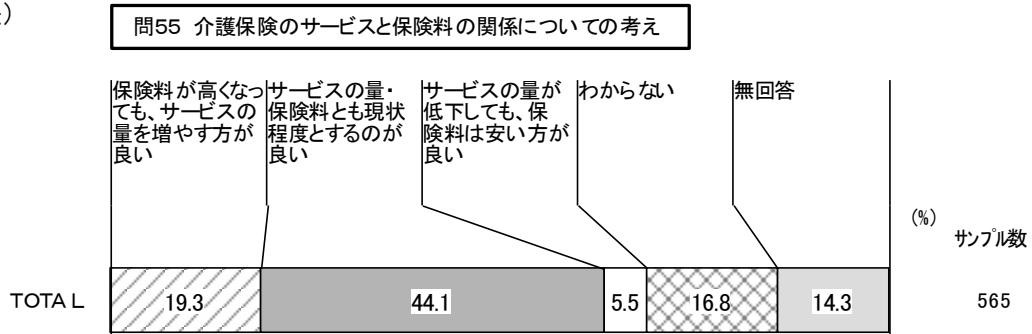
(予防)



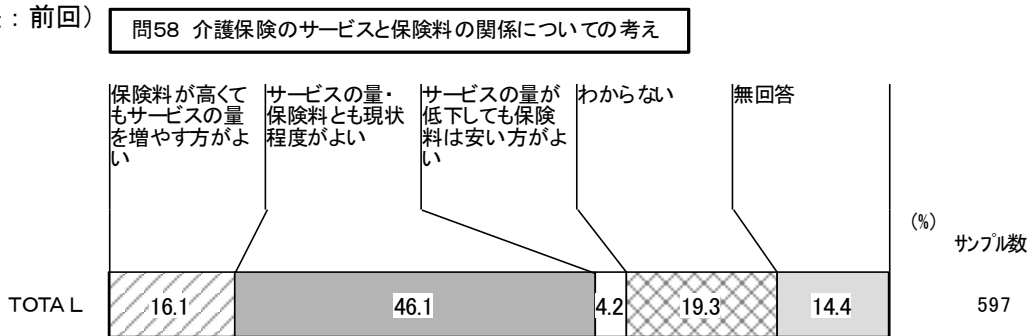
(予防：前回)



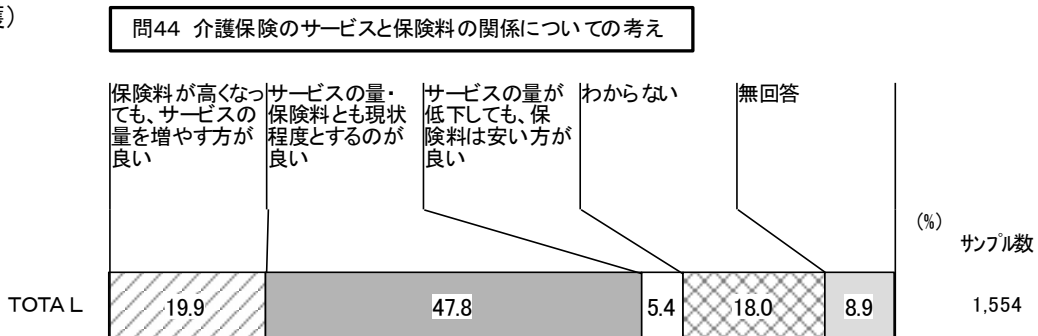
(要支援)



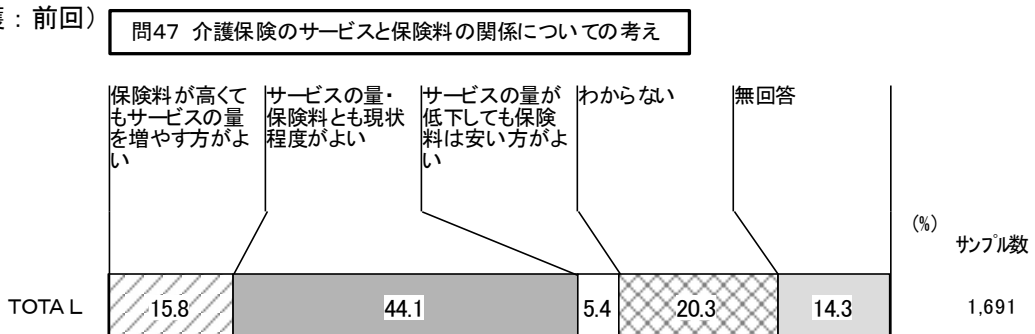
(要支援：前回)



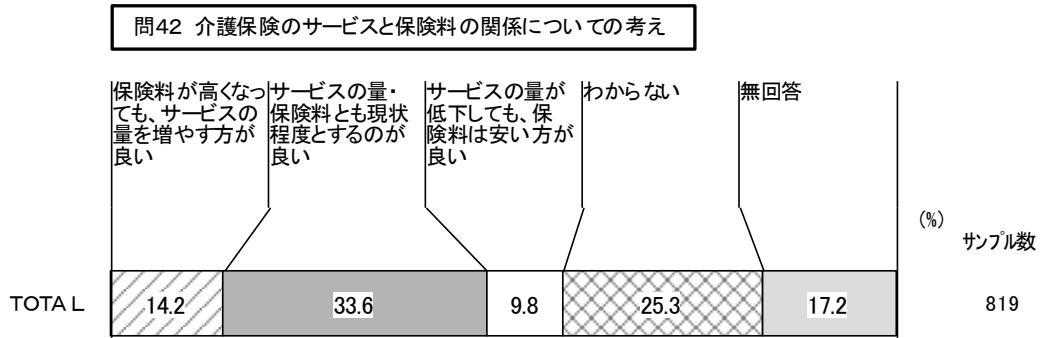
(要介護)



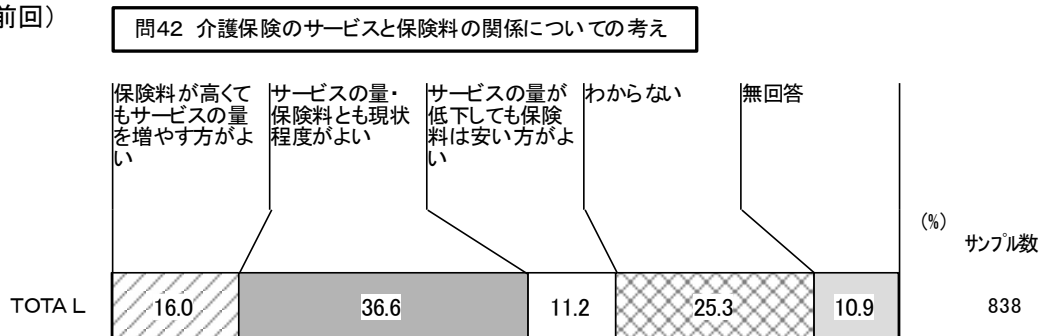
(要介護：前回)



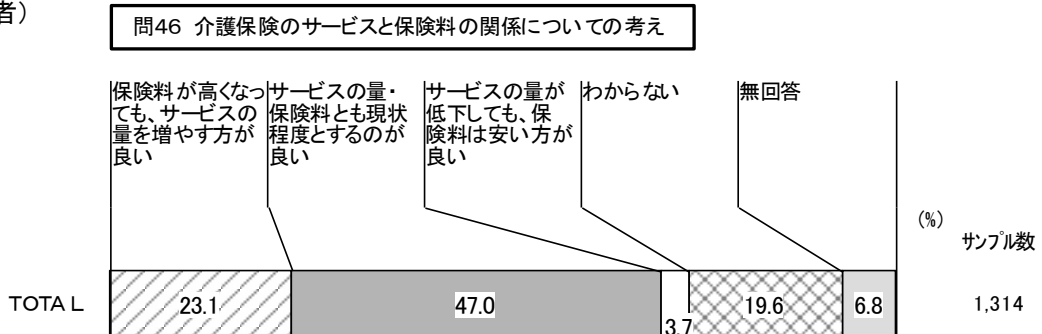
(未利用)



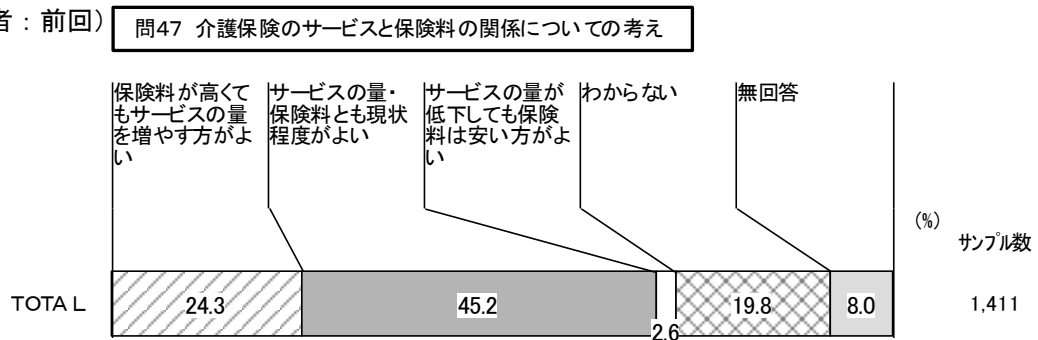
(未利用：前回)



(特養申込者)



(特養申込者：前回)

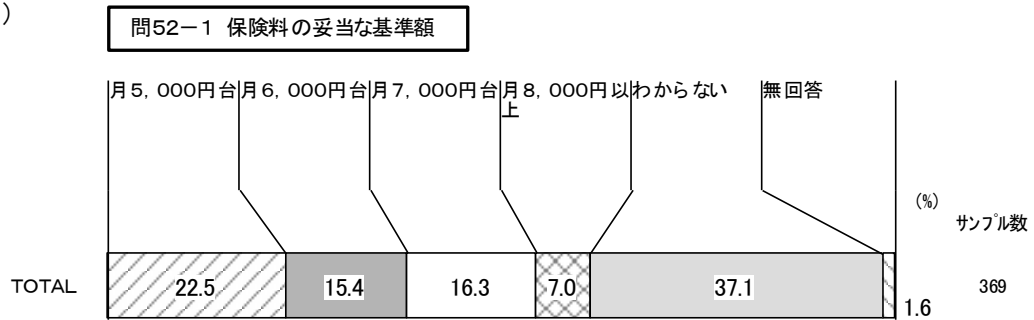


(3) 妥当な保険料基準額

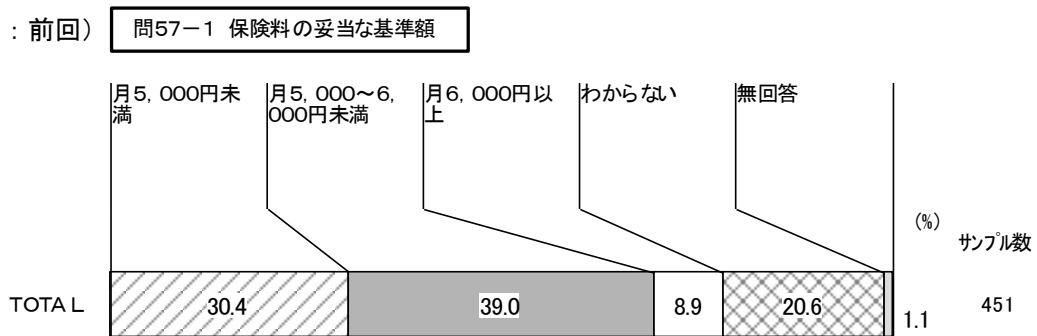
「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」と回答した方に、妥当な保険料基準額を聞いた。

「月 6,000 円台」「月 7,000 円台」「月 8,000 円以上」を合わせた割合は、高齢者一般で 38.7%、予防で 36.7%、要支援で 24.8%、要介護で 32.7%、未利用で 40.5%、特養申込者で 44.9%となっている。前回に比べ「わからない」の割合が増えており、高齢者一般で 37.1%、要支援で 40.4%、要介護で 37.9%、未利用で 31.9%、特養申込者で 29.7%となっている。

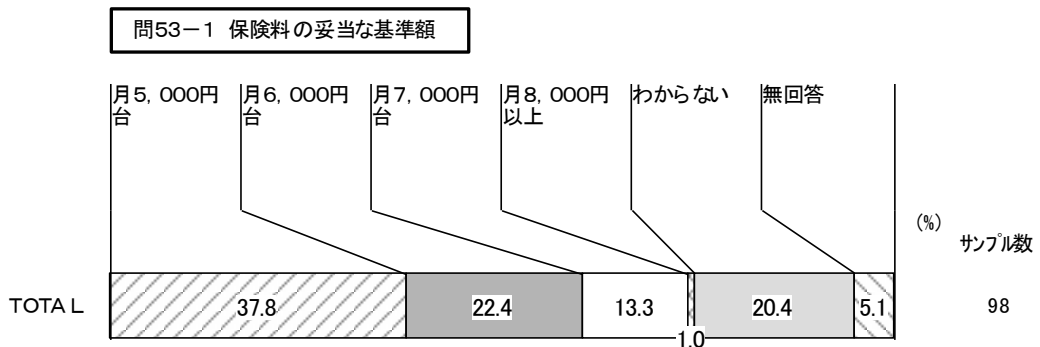
(高齢者一般)



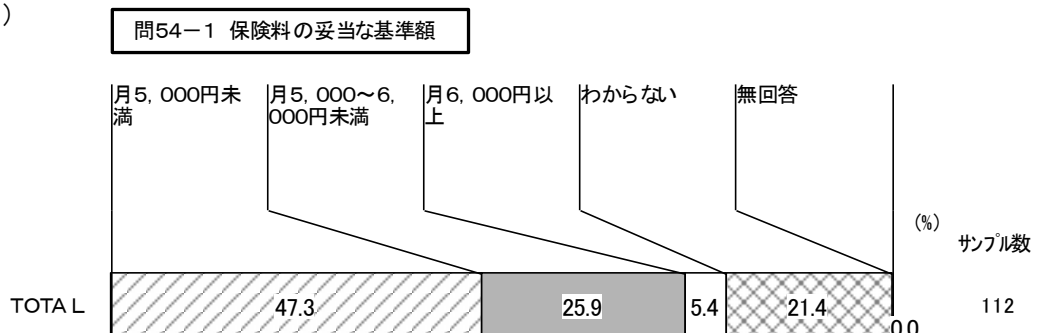
(高齢者一般：前回)



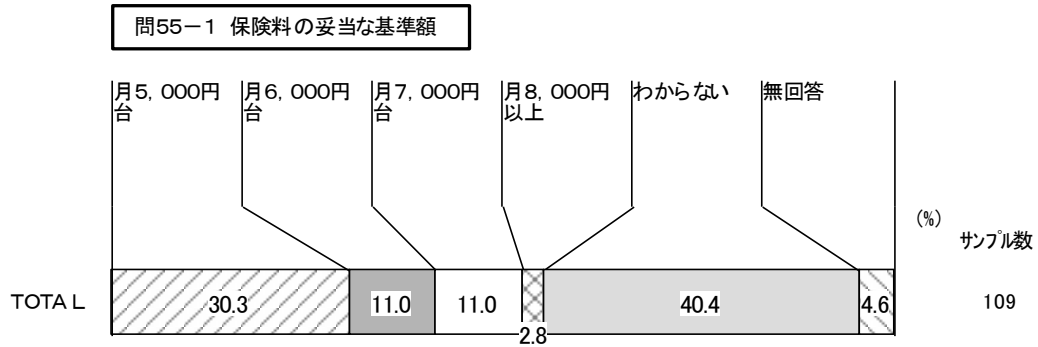
(予防)



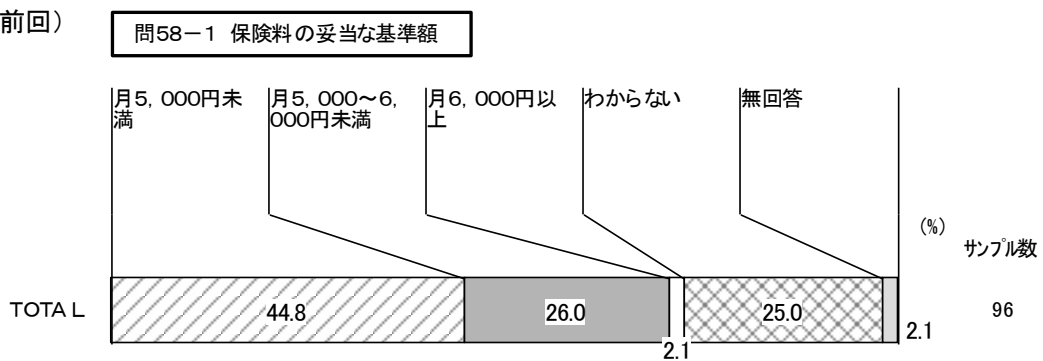
(予防：前回)



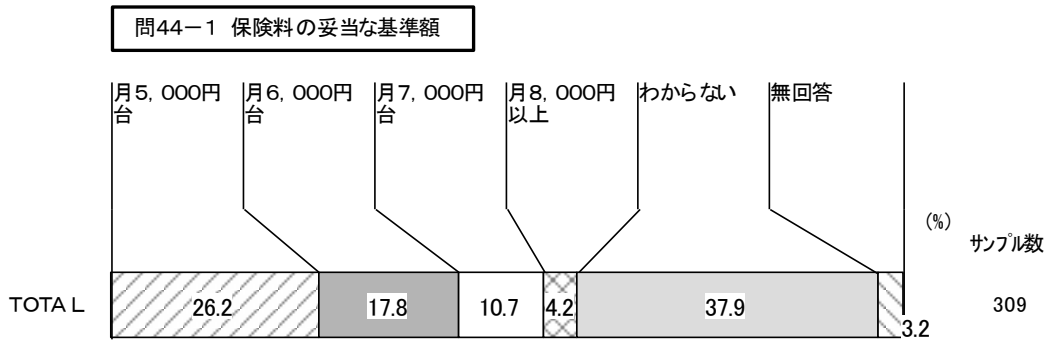
(要支援)



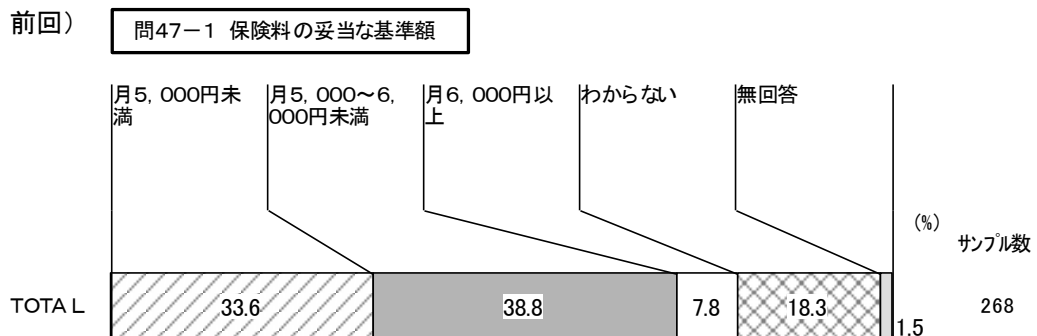
(要支援：前回)



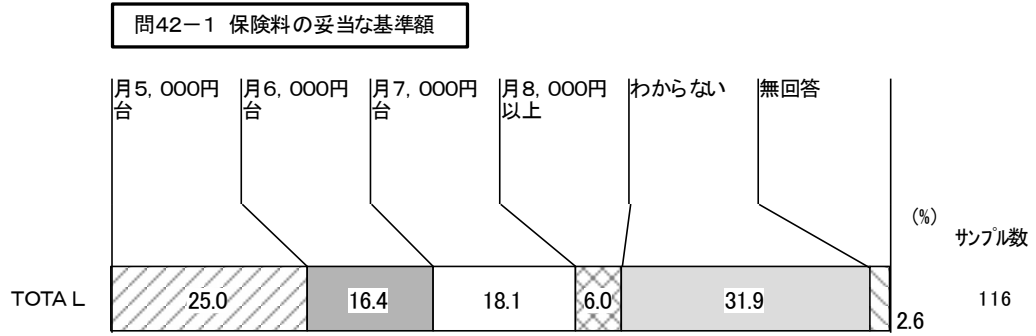
(要介護)



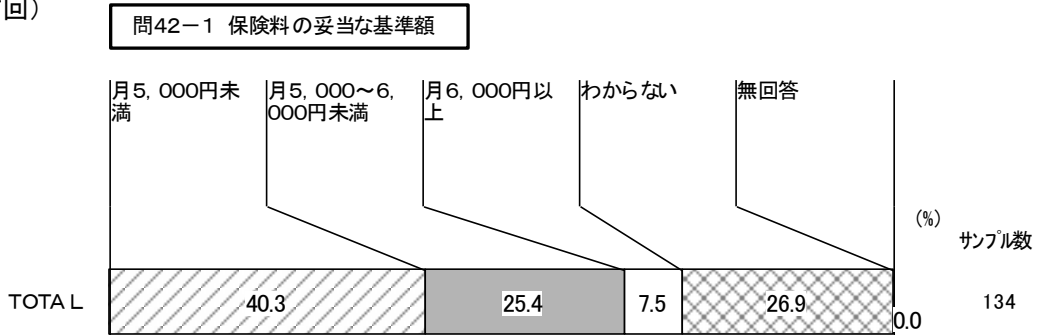
(要介護：前回)



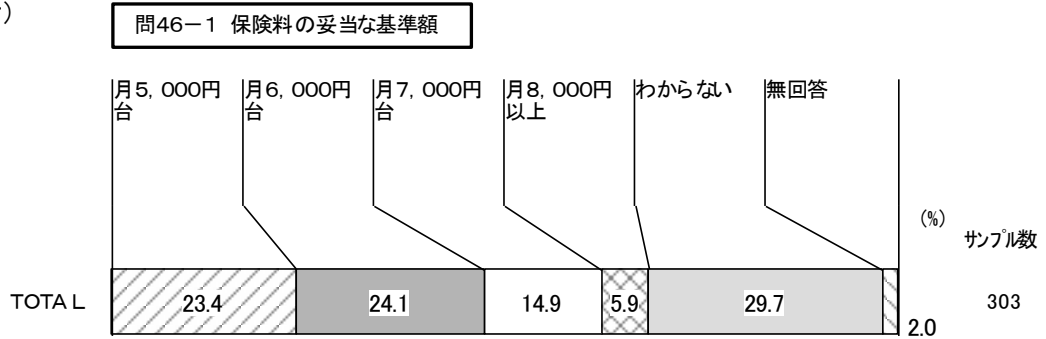
(未利用)



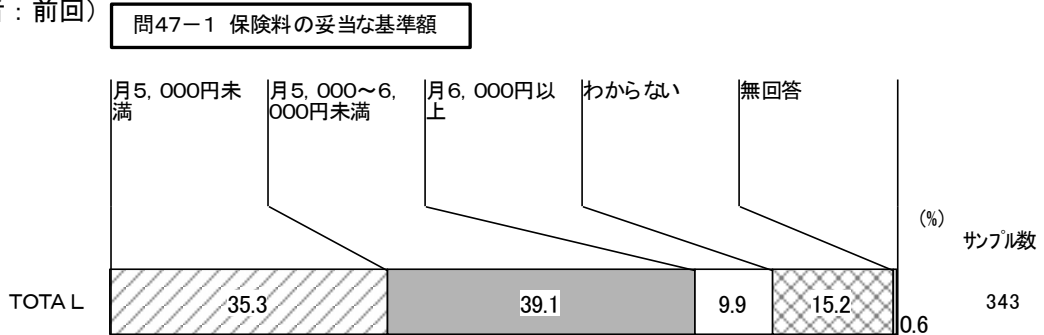
(未利用：前回)



(特養申込者)



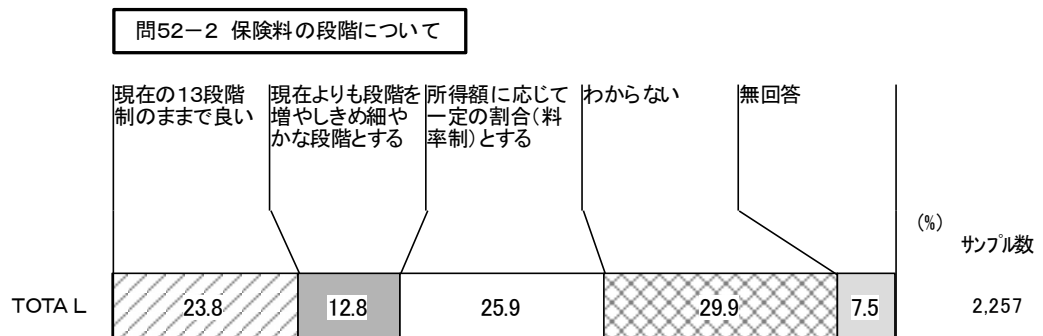
(特養申込者：前回)



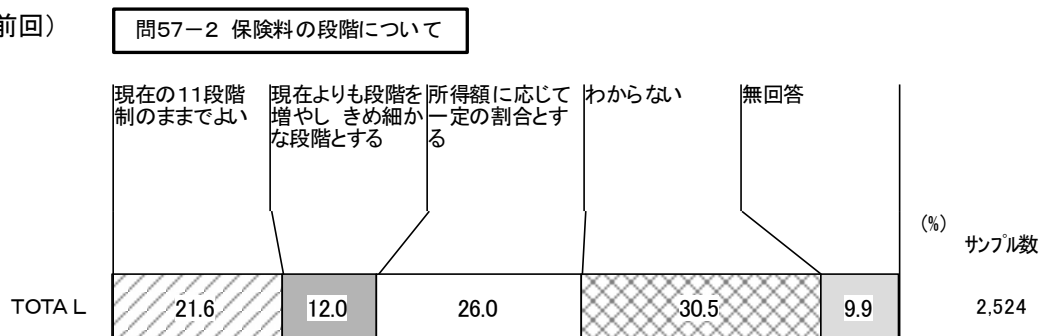
(4) 保険料段階について

現在の保険料段階(13段階制)については、「現在の13段階制のままで良い」は、高齢者一般で23.8%、予防で19.2%、要支援で26.4%、要介護で24.6%、未利用で21.2%、特養申込者で26.5%となっている。一方、「国民健康保険や税金のように、所得額に応じて一定の割合(料率制)とする」は、高齢者一般で25.9%、予防で26.7%、要支援で14.5%、要介護で17.3%、未利用で17.1%、特養申込者で23.6%となっている。

(高齢者一般)

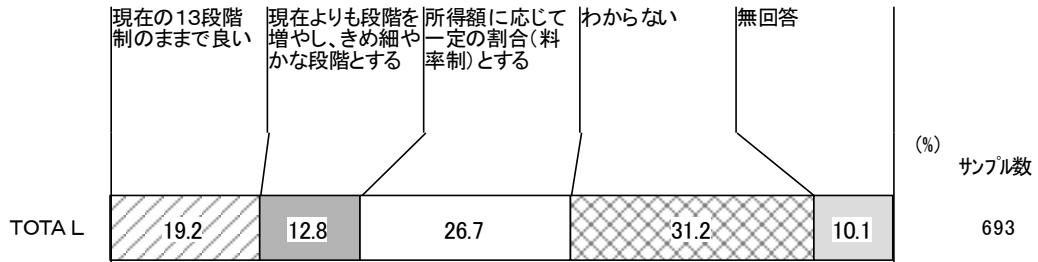


(高齢者一般：前回)



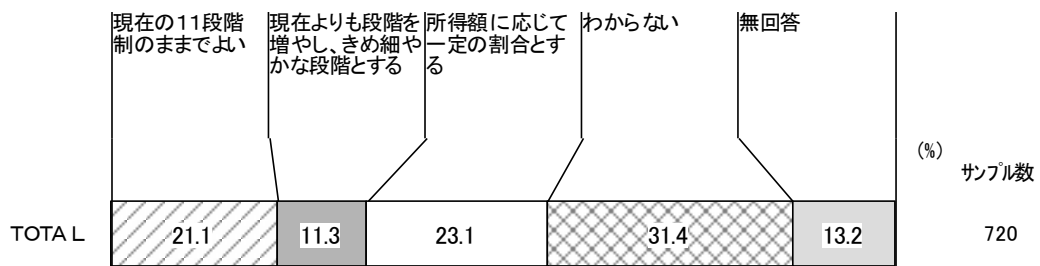
(予防)

問53-2 保険料の段階について



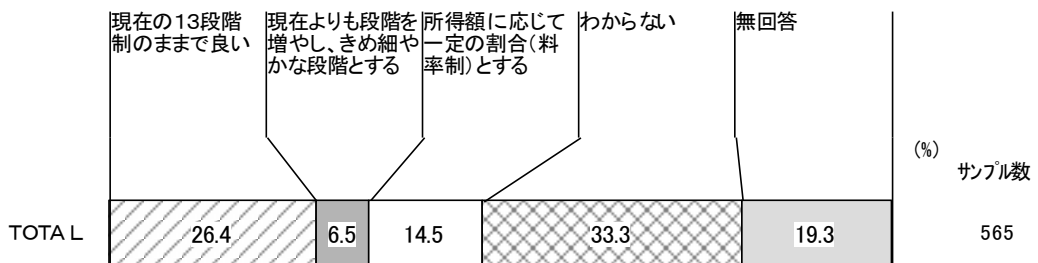
(予防：前回)

問54-2 保険料の段階について



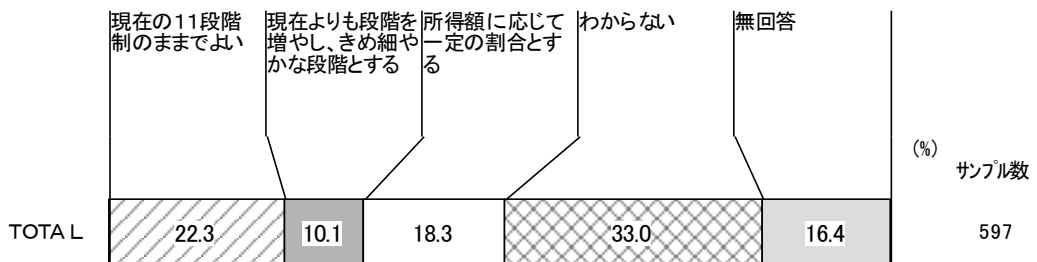
(要支援)

問55-2 保険料の段階について



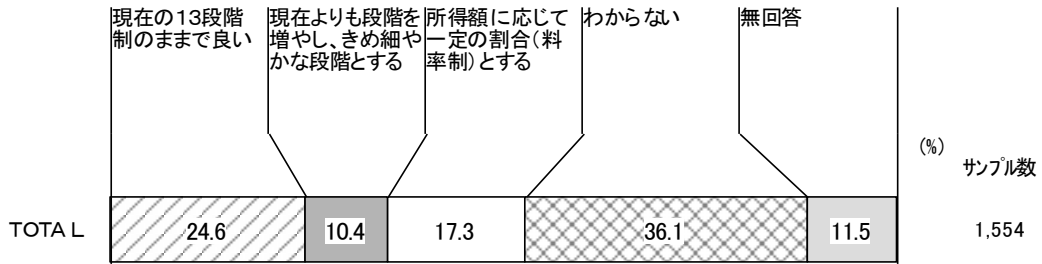
(要支援：前回)

問58-2 保険料の段階について



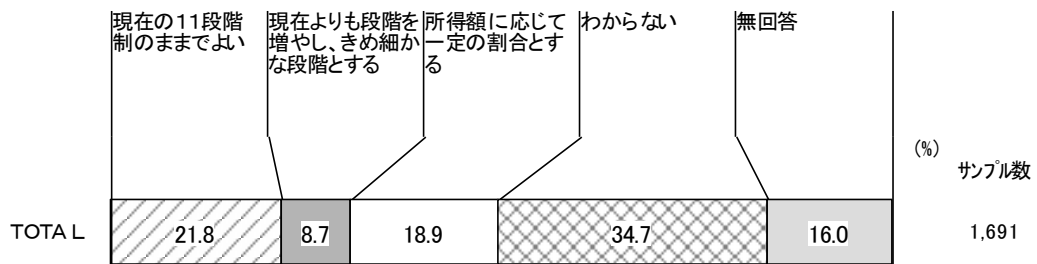
(要介護)

問44-2 保険料の段階について



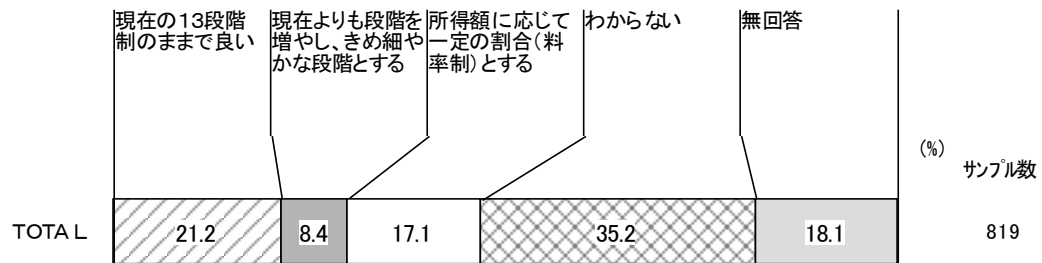
(要介護：前回)

問48 保険料の段階について



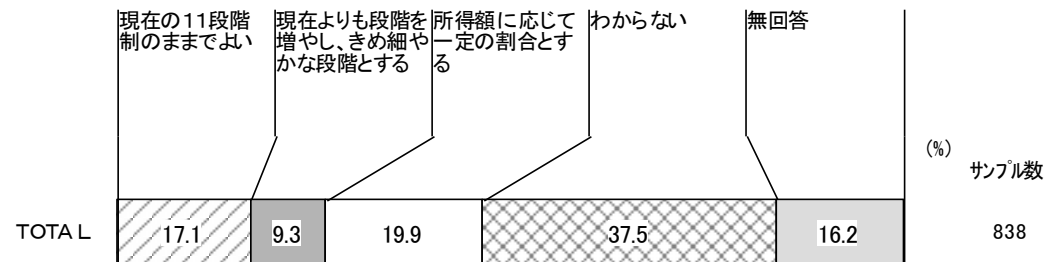
(未利用)

問42-2 保険料の段階について

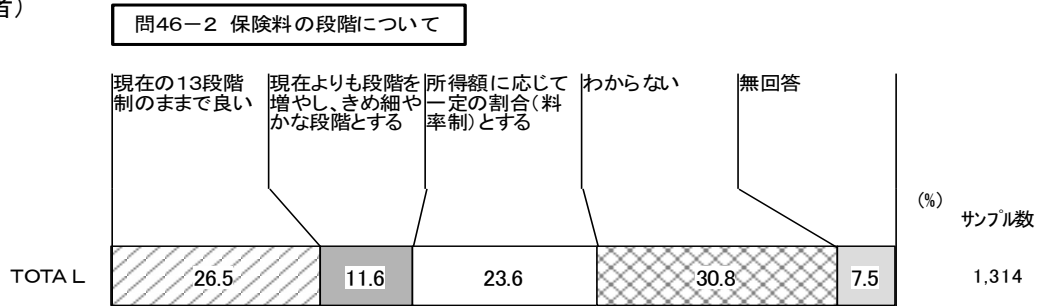


(未利用：前回)

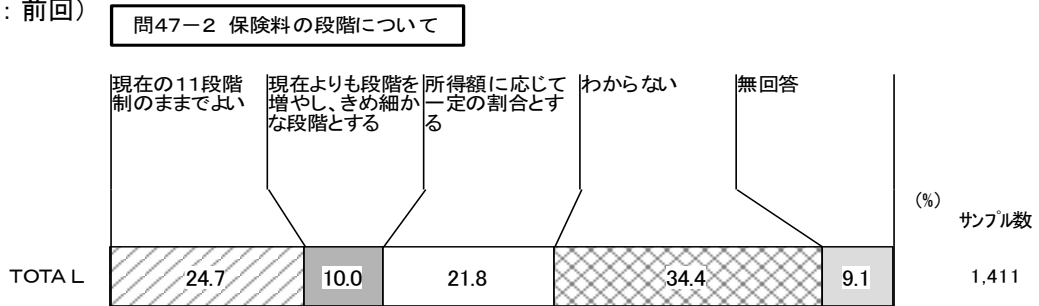
問43 保険料の段階について



(特養申込者)



(特養申込者：前回)



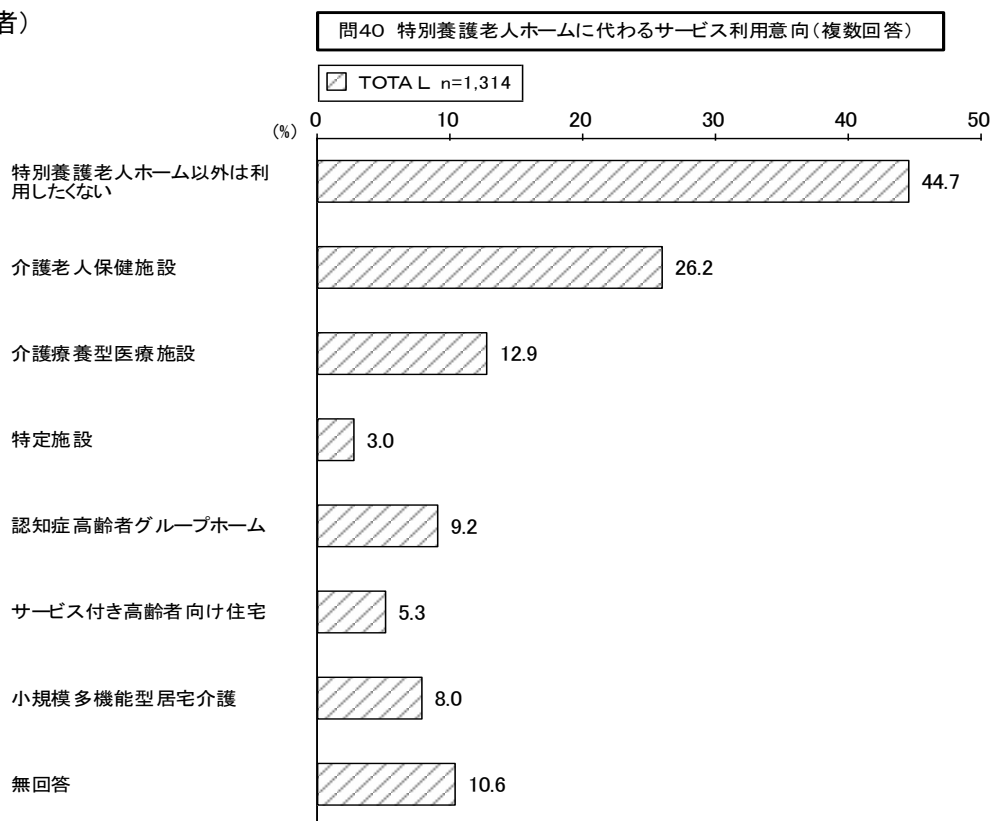
8 特別養護老人ホーム

(1) 特養に代わるサービスの利用意向

特別養護老人ホームに代わるサービスの利用意向をみると、特養申込者では「介護老人保健施設」が26.2%で最も多く、次いで「介護療養型医療施設」12.9%、「認知症グループホーム」9.2%、「小規模多機能型居宅介護」8.0%の順となっている。

なお、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」は44.7%となっている。

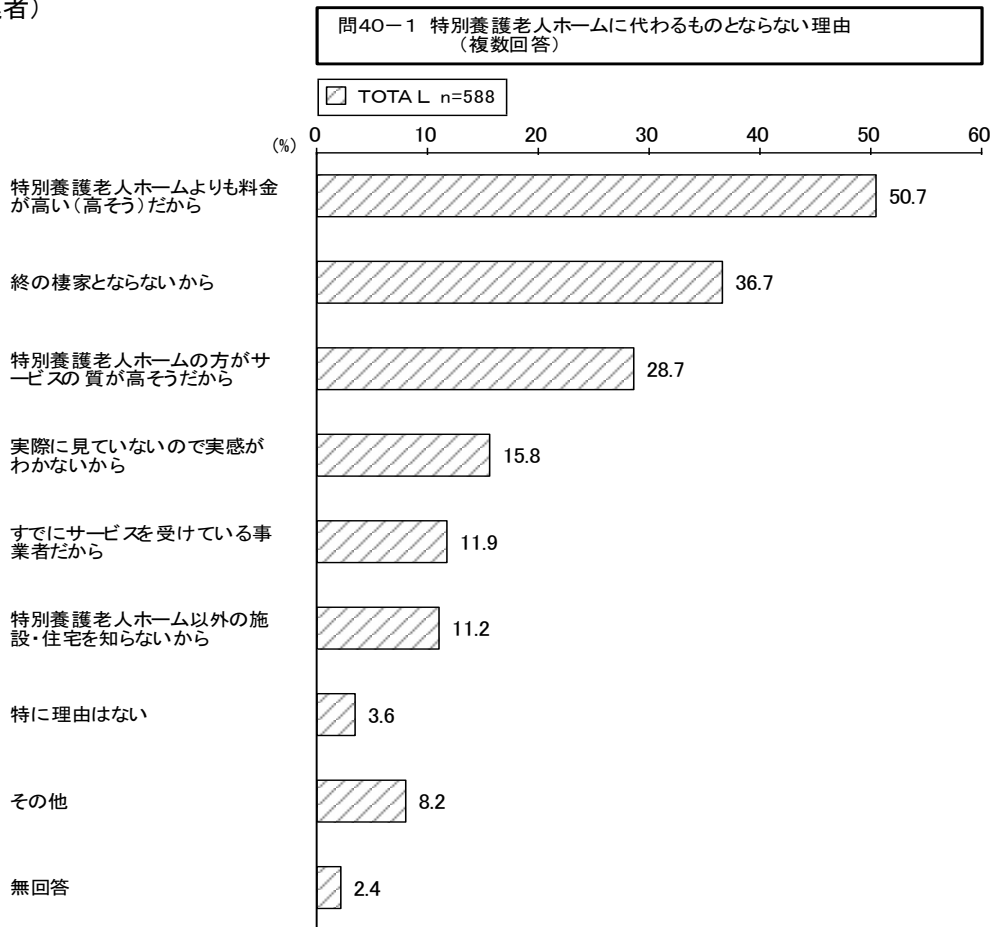
(特養申込者)



(2) 特養に代わるものとならない理由

「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」と回答した方に、特養に代わるものとならない理由を聞いたところ、「特別養護老人ホームよりも料金が低い(高そう)だから」が 50.7%で最も多く、次いで「終の棲家とならないから」が 36.7%、「特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから」が 28.7%の順となっている。

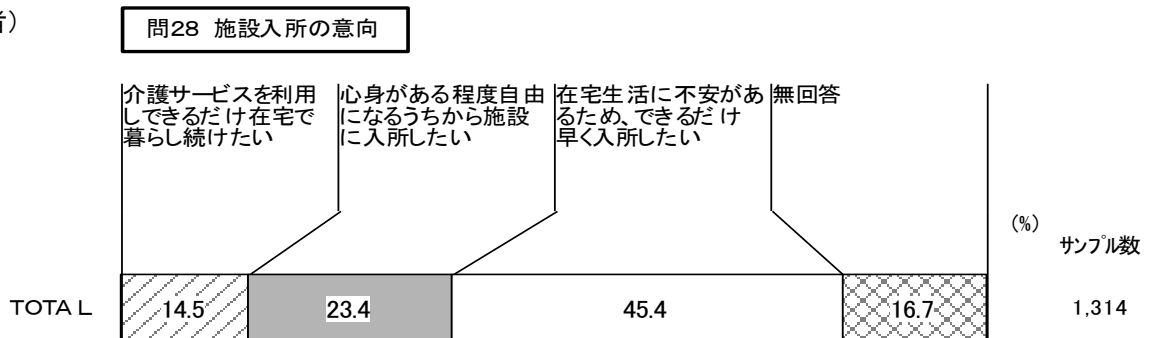
(特養申込者)



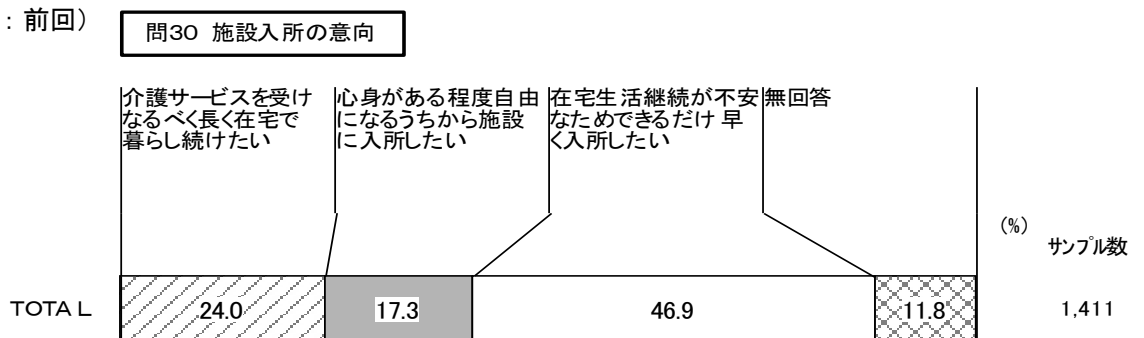
(3) 特養入所の意向

特養入所の意向をみると、特養申込者の14.5%は「在宅介護サービスを利用しながら、できるだけ長く在宅で暮らし続けたい」としており、前回結果(24.0%)を下回っている。一方、23.4%は「先々が心配なので、心身がある程度自由になるうちから施設に入所したい」となっており、前回結果(17.3%)を上回っている。

(特養申込者)



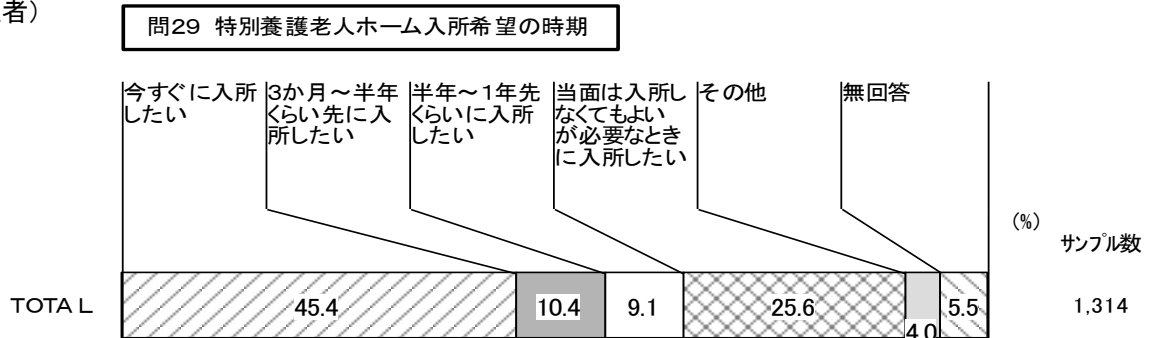
(特養申込者：前回)



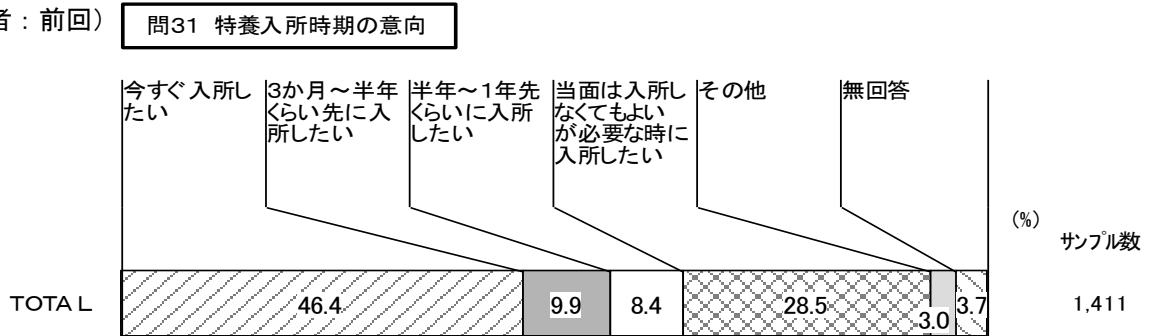
(4) 特養入所時期の意向

特養入所時期の意向については、前回回答割合との大きな差はみられず、45.4%が「今すぐに入所したい」となっている。また、25.6%は「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」となっている。

(特養申込者)



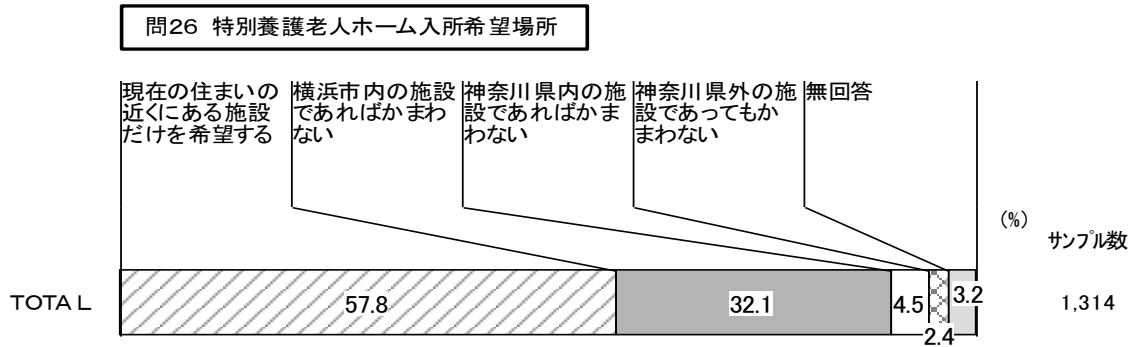
(特養申込者：前回)



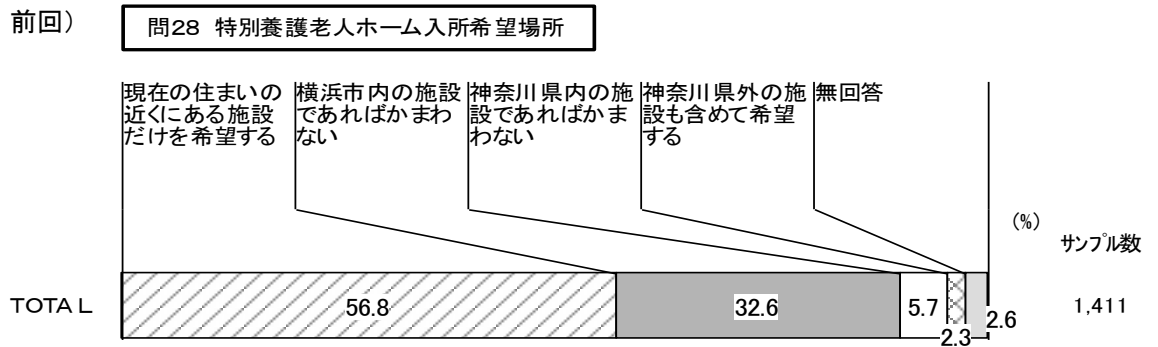
(5) 特養入所希望場所

特養入所希望場所については、前回回答割合との大きな差はみられず、57.8%が「現在の住まいの近くにある施設だけを希望する」となっている。また 32.1%が「横浜市内の施設であればかまわない」となっている。

(特養申込者)



(特養申込者：前回)

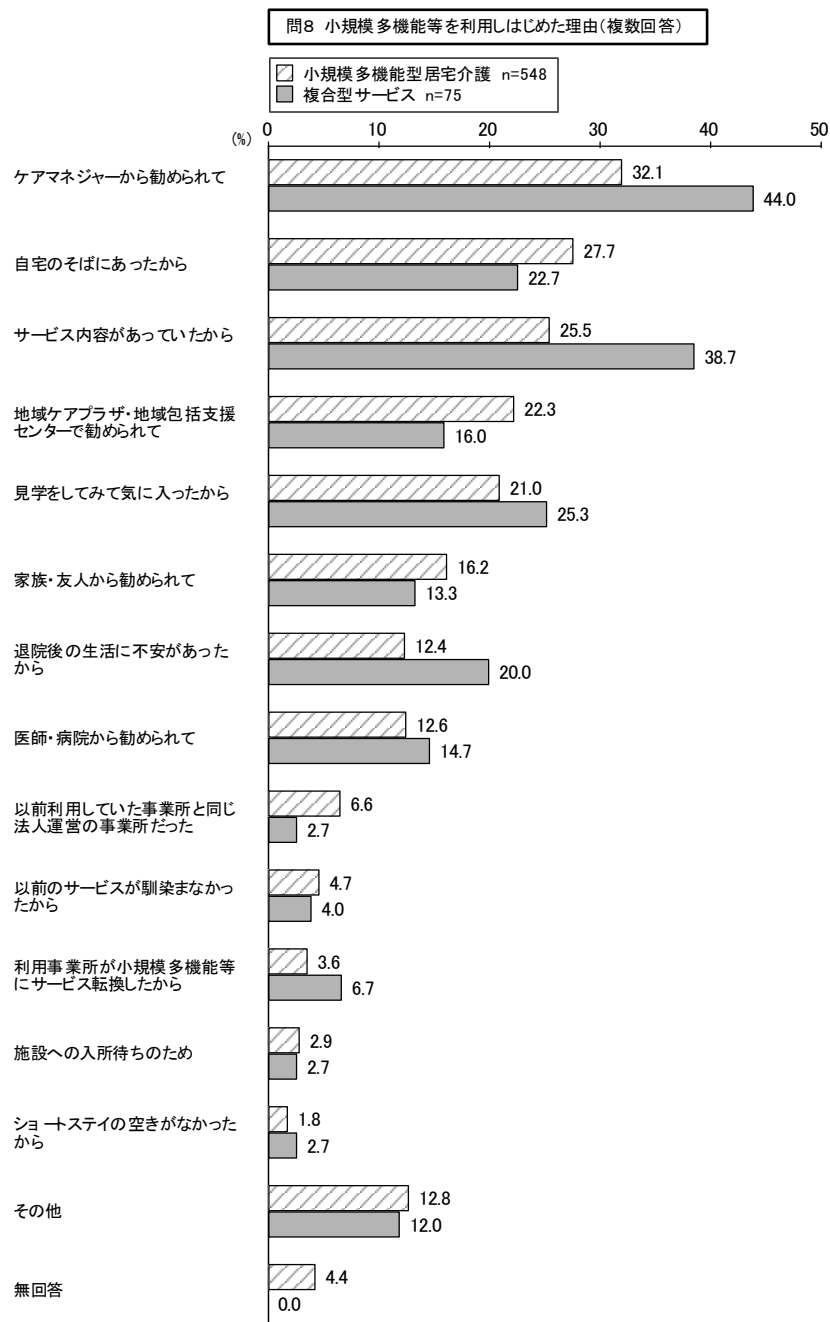


9 地域密着型サービス

(1) 小規模多機能型居宅介護、複合型サービスを利用したきっかけ

地域密着型サービスのうち、小規模多機能型居宅介護、複合型サービスの各利用者について、利用のきっかけをみると、「ケアマネジャーから勧められて」が小規模多機能型居宅介護利用者の32.1%、複合型サービス利用者の44.0%となっており、それぞれ最も多い。

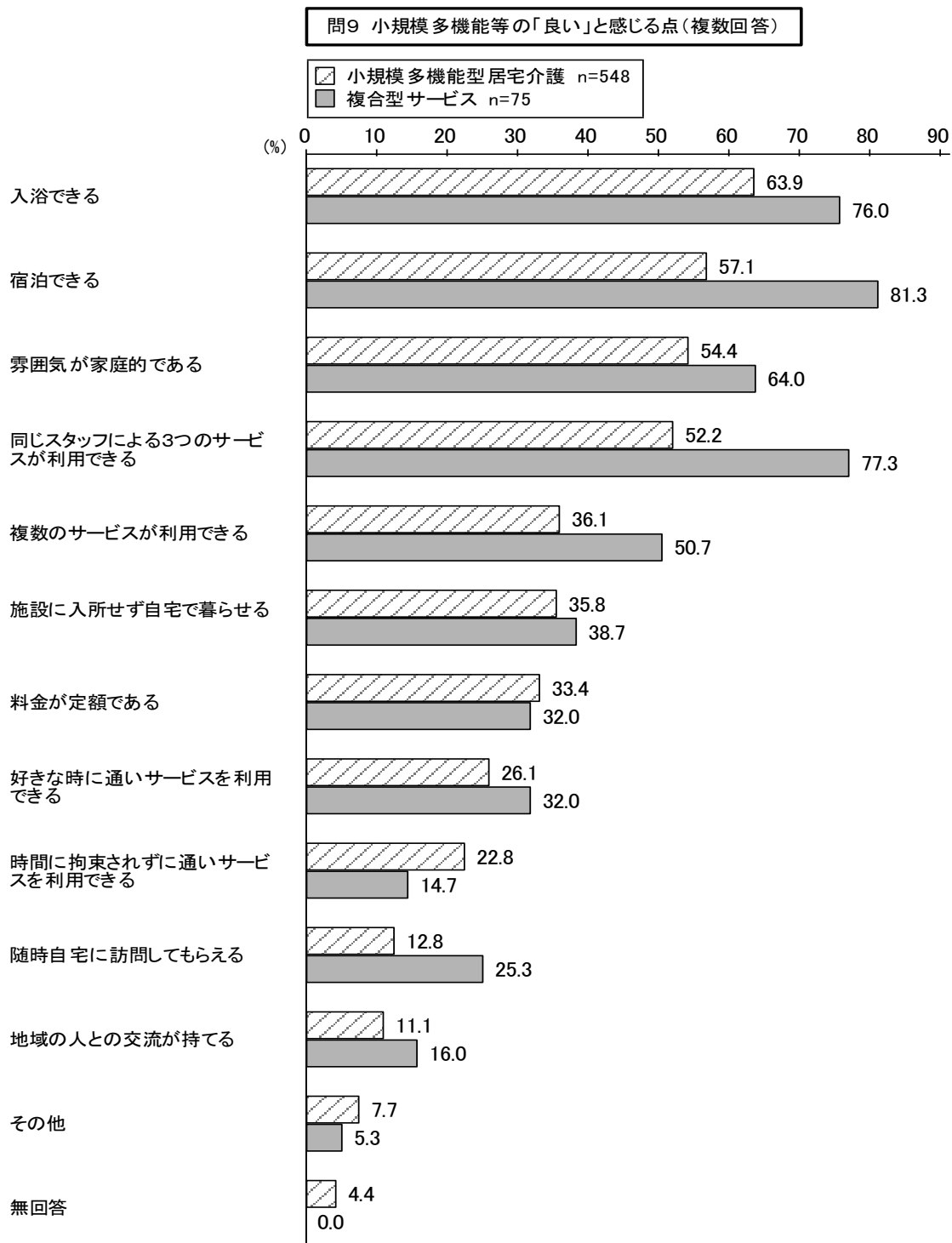
小規模多機能型居宅介護利用者では、27.7%が「自宅のそばにあったから」、22.3%が「地域ケアプラザ・地域包括支援センターで勧められて」をあげているのに対し、複合型サービス利用者では38.7%が「サービス内容が合っていたから」、25.3%が「見学をしてみて気に入ったから」をあげている。



(2) 小規模多機能型居宅介護、複合型サービスの良い点

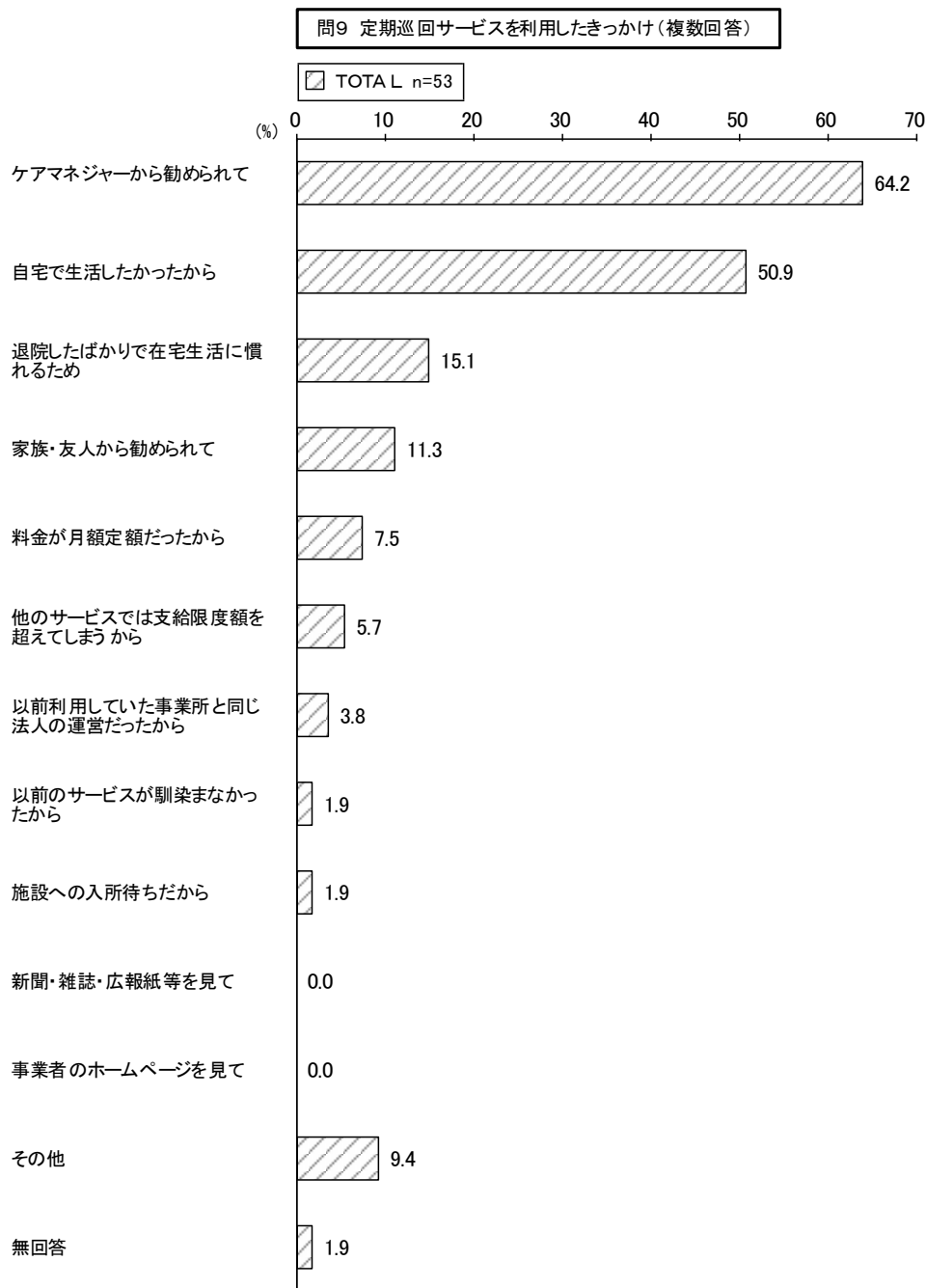
小規模多機能型居宅介護、複合型サービスそれぞれの良い点をみると、小規模多機能型居宅介護利用者の63.9%が「入浴できる」となっており最も多く、次いで57.1%が「宿泊できる」、54.4%が「雰囲気家庭的である」、52.2%が「同じスタッフによる3つ（通い・訪問・宿泊）のサービスが利用できる」となっている。

複合型サービス利用者では、81.3%が「宿泊できる」となっており最も多く、次いで77.3%が「同じスタッフによる3つ（通い・訪問・宿泊）のサービスが利用できる」、76.0%が「入浴できる」となっている。



(3) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを利用したきっかけ

定期巡回サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス）を利用したきっかけをみると、利用者の 64.2%が「ケアマネジャーから勧められて」となっており最も多い。次いで 50.9%が「自宅で生活したかったから」となっており、両項目に回答が集中している。



(4) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの良い点

定期巡回サービスの良い点については、利用者の 58.5%が「緊急コールですぐに駆けつけてくれる」となっており最も多く、次いで 39.6%が「入院したり、施設に入所せず自宅で暮らせる」、37.7%が「料金が定額である」「独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる」となっている。

